

③

寺嶋家文書

平成十八年 七月 作成
平成十八年十二月 改訂

寺嶋宗夫氏調心
(故人)

名主・組頭の任命通知

申渡之覚

庄五郎

此度、名主役松田喜右衛門跡江源右衛門、
組頭役源右衛門跡江清次郎被仰付候
此旨相心得、百姓代其外江茂可申達候
且又、以来清次郎万端申合、御作法之通相守
可相勤候
以上

寛政十二申年壬四月

吉田 昇 (印)

坂尾覚太夫 (印)

庄五郎殿

文書：21-19
写真：✓

申渡覚

名主

此度名主役松田喜右衛門跡江源右衛門、
組頭役源右衛門跡江清次郎被仰付候
此旨相心得、百姓代其外江茂可申達候
且又、以来清次郎万端申合、御作法之通相守
可相勤候
以上

吉田 昇 (印)
坂尾覚太夫 (印)

名主役申渡

申渡候覚

名主 庄五郎

右此度、名主役被仰付候、以来者別而
御為第一二奉存、村方取締、小前百姓二至迄
非理無之様、大切二役義相勤可申候者也
文化五辰年九月

村上三十郎内 青地左仲 (印)

文書：41-32
写真：064006

名主
松田喜右衛門跡江源右衛門

名主

覚

覚

上総国市原郡

八幡村 庄五郎

文書：21-24
写真：05103

右者、組頭勤役中より以来、出精骨折相勤、
猶又、名主役申付候处、村方出入リ召捕儀茂無之、
猶更 来別而骨折相勤候 候之事候
右二付、以来苗字帯刀
御免候、猶此上出精取締第一厚心掛可相勤もの也
文化八辛未年正月

木村文太夫 (印)
青地左仲 (印)

前書之通相違無之もの也
三十 (印)

覚
右者、組頭勤役中より以来、出精骨折相勤、
猶又、名主役申付候处、村方出入リ召捕儀茂無之、
猶更 来別而骨折相勤候 候之事候
右二付、以来苗字帯刀
御免候、猶此上出精取締第一厚心掛可相勤もの也
文化八辛未年正月

書
文化八辛未年正月

覚
右者、組頭勤役中より以来、出精骨折相勤、
猶又、名主役申付候处、村方出入リ召捕儀茂無之、
猶更 来別而骨折相勤候 候之事候
右二付、以来苗字帯刀
御免候、猶此上出精取締第一厚心掛可相勤もの也
文化八辛未年正月

病身のため名主休役を願出

文書：19-61
写真：

乍恐以書付奉願上候

御知行所上総国八幡村名主庄五郎奉申上候、私儀、先年より名主役被仰付置、冥加至極難有、是迄相勤罷在、然処、近年病身二相成、去暮中よりは、別而不相直、當村之儀は、駅場二而御用村用共繁ク、依之前々より跡々名主共之内月番ヲ定メ、老ケ月老人二而持限り相勤来候得共、右牀病身二而難相勤、尤是迄は、外役人共より助合呉候得共、餘り長々之儀、何分氣之毒之至奉存候間、何卒以御慈悲、右之段御聞濟之上、休役被仰付被下置度奉願上候、尚又、委細之儀は口上を以可奉申上候 以上

文政二卯年十月

御知行所

上総国市原郡八幡村

名主 庄五郎(印)

御地頭所様

名主休役を許される

文書：19-21-2
写真：046029

差上申御請書之事

知行所八幡村名主庄五郎、私儀先般病氣二付無抛退役願書差上置 今般、御 之思召以名主役御休被仰付難有仕合奉存候、跡之儀は、組頭共兩人江萬端取扱之義被仰渡右二付村方取扱御物成取立諸帳面并口達不可申達旨被仰渡候趣、委細承知奉畏候、右御請旁差上申処仍而如件

文政五年十一月

八幡村 名主 庄五郎

御地頭所様御出役 久米多甚様

名主之退役を願出

文書：26-3
写真：056028

乍恐以書付奉願上候

御知行所八幡村名主庄五郎奉申上候、私儀、文化五辰年中名主役被仰付奉蒙 在候処、同八未年中甚為取昇日々、逆上相煩難洩至極仕候二付、役義御免奉願上候処、厚 御利解被仰聞候二付、難有是迄、押而勤役罷在候中、此節右病再発仕..... 御用向 相勤候兼難洩仕牀二階而、我等不行届儀、木出来候而は難相濟奉恐入候間、此段奉申上候、何卒格別之以御慈悲退役被仰付被下置候様、偏奉願上候 以上

文政五年十一月十日

御知行所

上総国市原郡八幡村

名主 庄五郎(印)

御地頭所様

御役人中様

家出人相尋の申渡

申渡之覚

百姓 源右衛門

文書：32-30-3b
写真：060115

右之者、此節致家出候旨相届出、依之、當十二月朔日より三十日之内、急度、相尋、右尋ケ所訴を以届出可申もの也

文政三辰年十二月朔日

岡村武助(印)

木村文太夫(印)

八幡村役人中 并組合親類之者江

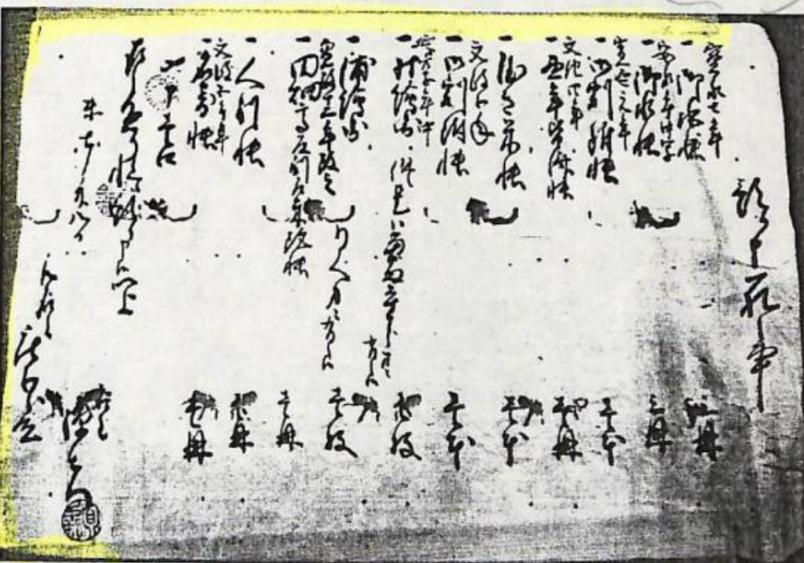
地頭役所(印)

源右衛門
申渡之覚
文政三辰年十二月朔日
岡村武助
木村文太夫

預り申一札之事

- 一、宝永七年 御水帳 三冊
- 一、安永年中写 御水帳 三冊
- 一、寛延元年 御割附帳 壹本
- 一、文化四年 丑年皆済帳 壹冊
- 一、徳き米帳 壹本
- 一、文政五年 御割附帳 壹本
- 一、延 子年中 村絵図 壹枚
- 但し是八当番 重郎方二有之候
- 一、浦絵図 同方二有之候 壹枚
- 一、寛政十二年改之 田畑高反別取米改帳 壹冊
- 一、人別帳 壹冊
- 一、文政五年年 名寄帳 壹冊

文書：30-139
写真：060020



組頭に補任

覚

此度、上総房州御備場役人、野馬方御役人、其外御代官八州御取締方繁々御通行二付、村役人案内差支二付、組頭役被仰付之、給示之儀は、先格之通被下置候 以上

天保十四卯年壬九月

地頭所 信田傳之進(印)
岡村保左衛門(印)
八幡村 庄五郎江

前書之通相違無之者也
八十(印)

文書：a-1
写真：

六十一口
右之通り健二預り申候 以上
未七月二十八日

先名主 庄五郎殿
名主 源右衛門(印)

苗字御免を申渡す

八幡村 組頭 由次郎

文書：24-17-2
写真：054039

其方義、旧家之由二茂相聞、殊二貞二農業相励候上、依之厚 思召を以苗字御免被仰付候、尚向後役向大切二相勤可申者也

安政五年四月

青竹伴藏(印)

三十(印)



苗字御免辞退を願出る

乍恐以書付奉申上候

文書：24-17-5
写真：054042

上総国市原郡八幡村組頭由次郎奉申上候
去巳年中、私二苗字御免被仰付候趣之御書付頂戴、冥加至極難有仕合二奉存候得共、近来、相統難渋相嵩、身上向不如意二相成、追々困窮仕詰罷在、殊二若輩之私病身旁、役儀木も精勤相成兼候次第二而、右躰苗字御免被仰付候而は、奉恐入候儀と存達而、辞退奉申上候儀二有之、且又昨年以來御呼出之処、持病之痔疾又は症積

仕り二付無余儀、其段申立相成不申候処、今般御呼出之上、右様とも如何之心得を以違背仕候哉、始末可申届旨、被仰渡何とも奉恐入候得とも、全虚病木申立候儀二は無御座候間、何卒格別之以御慈悲、前書被仰付之趣、聊違背候御儀二無之段取為聞 訳此は歳重二も御憐憫之御沙汰奉存上候も

苗字御免を申渡す
八幡村 組頭 由次郎
安政五年四月
青竹伴藏(印)

久次郎の婿養子入籍願

明治七戌年十月十七日

寺嶋里う

文書：32-127
写真：062040
~2

久次郎の婿養子入籍願

明治七戌年十月十七日

寺嶋里う

文書：32-127
写真：062040
~2

名主書類引継ぎ覚

覚

文書：24-8
写真：054022
~3

- 一、宝永七寅年 田畑水帳記 三冊
 - 一、寛延元年十月 辰御割附 老冊
 - 一、明和七寅年十一月改分 田畑水帳記 三冊
 - 一、文政五年午十月 田畑反別御年貢取掛帳 老冊
 - 一、文政六寅未年八月改分 御田畑水帳 式冊
 - 一、船鑑札四枚 庄八分
 - 一、庄八分
 - 一、金兵衛分
 - 一、喜右衛門分
- 外二
- 一、巳明治二年 御年貢米老人別割附帳 老冊
 - 一、上地賄地入附帳 老冊
 - 一、御用地書上帳写 老冊
- 右之通り儘二受取申候、為念如件候御座候 以上
- 明治二巳年五月十四日
- 立会人 問屋 弥七(印)
- 名主 源右衛門(印)
- 同 市兵衛(印)

先名主 組頭 孫八(印)

百姓代 与平次(印)

好次郎殿

久次郎の婿養子入籍願

明治七戌年十月十七日

寺嶋里う

文書：32-127
写真：062040
~2

久次郎生家(鴛田家)からの書状

文書：32-8
写真：060083

久次郎出生年月は、共右之通二御座候間、此故奉申上候也

安政四巳年五月二十五日生

寺嶋久次郎

八幡町 寺嶋御老母様

茂呂村 鴛田

養母 里うの生家届

御請書

市原郡八幡宿拾六番地居住 平民豊 寺嶋久次郎

私養母里う儀は、上総国市原郡古市場村平民豊足立梅次二女二相違無御座候間、御請申上候也

明治式十年十二月二十日

同 寺嶋久次郎 印

市原郡八幡宿外四ヶ村 戸長 萩原昇吉殿

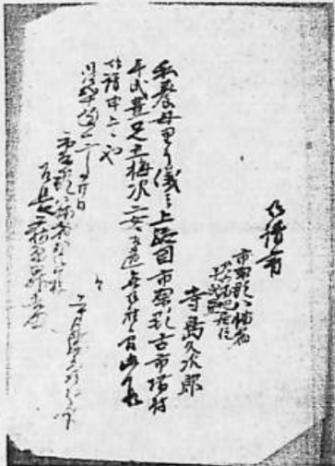
文書：22-23-15
写真：051090

久次郎の婿養子入籍願

明治七戌年十月十七日

寺嶋里う

文書：32-127
写真：062040
~2



八幡宿惣代人に当選

當撰状

文書：3-55-4
写真：4768

市原郡八幡宿十六番屋敷住
平民 寺嶋久次郎

安政四年五月二十五日生

八幡宿惣代人選挙の処、當撰二付、同宿惣代人
被心得候事

明治十八年一月十三日

千葉県市原郡八幡宿外四ヶ村

戸長 浅田讚蔵(印)



八幡宿惣代人の解職願

解職願

文書：11-4-1
写真：042047

市原郡八幡宿第十六番地

寺嶋久次郎

右申上候、私儀、本年一月中本宿惣代ヲ被申付拜
受シ勤続罷在候処、今般、家事都合三寄、何分勤役
難相成候間、何卒解職被成下度、此段奉懇願候也

明治十八年七月二十二日

右

寺嶋久次郎(印)

明治十八年七月

千葉県市原郡八幡宿外四ヶ村

戸長 島野也八郎殿



寄留許可願

寄留御承認願

文書：11-7-1
写真：042049

市原郡八幡宿第十六番地

寺嶋久次郎

右私儀、今般、家事都合ヲ以、当県下 下総国千
葉郡茂呂村第百三拾三番地鶴田厚次郎方へ本年本
月ヨリ来ル二十三年七月マデ満三ヶ年間、同居寄
留仕候間、此段御承認被成下度候也



役場筆生を申付ける

文書：11-8-4
写真：042053

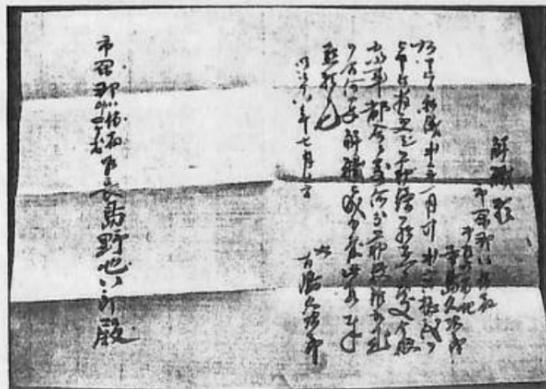
寺嶋久次郎

市原郡八幡宿外四ヶ村戸長役場筆生申付候事

明治十八年十一月十八日

市原郡八幡宿外四ヶ村

戸長役場



村会議員・宿惣代の解職願

解職願

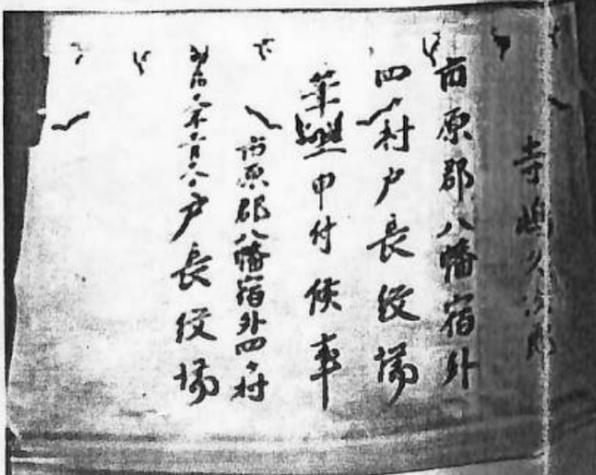
文書：11-7-3
写真：042051

市原郡八幡宿第十六番地

寺嶋久次郎

右私儀、家事都合三寄、何分出
候間、難相成、因テ村会議員并二宿惣代ノ義ハ何卒
解職被成下度、偏ニ懇願候也

明治十八年七月



学事世話掛を委嘱する

寺嶋久次郎

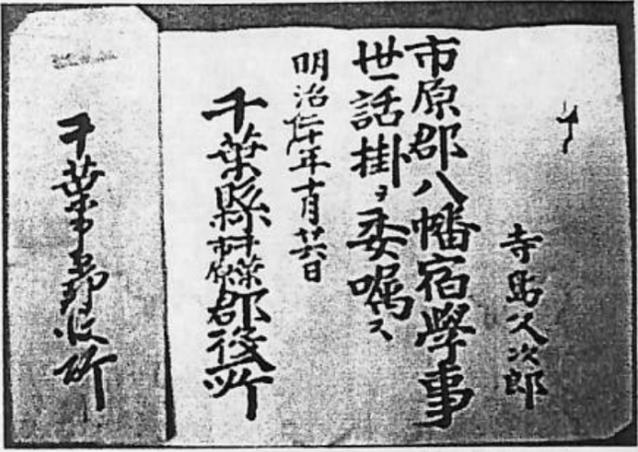
市原郡八幡宿学事世話掛ヲ委嘱ス

明治二十年十月二十六日

千葉県千葉・市原郡役所

千葉県市原郡八幡宿外四ヶ村
戸長 島野也八郎殿

寺嶋久次郎(印)



久次郎の履歷書

履歷書

千葉県平民
寺島久次郎
明治二十年十二月
三十一年八月

文書：22-23-12
写真：051086

- 一 明治元年ヨリ同十二年五月迄上総国長柄郡柴名村常泉文三從ヒ普通ノ学科ヲ修ム
- 一 明治十三年三月中八幡宿村會議員ニ被撰示後規則ノ變更アルモ再三ノ撰ニ因リ示今就職ス
- 一 明治十五年八月中市原郡第一番学区八幡小学校學務委員ヲ命セラレ明治十七年學制變更ニヨリ自然消滅ス
- 一 明治十六年十二月ヨリ八幡宿惣代人ニ公撰セラレ示今就職ス
- 一 明治十八年十一月中市原郡八幡宿外四ヶ村戸長役場筆生被命月俸金六円五拾錢明治十九年六月七日病氣ニ付解職ス
- 一 明治二十年四月市原郡八幡宿八幡小学校學事世話掛ヲ委嘱セララル

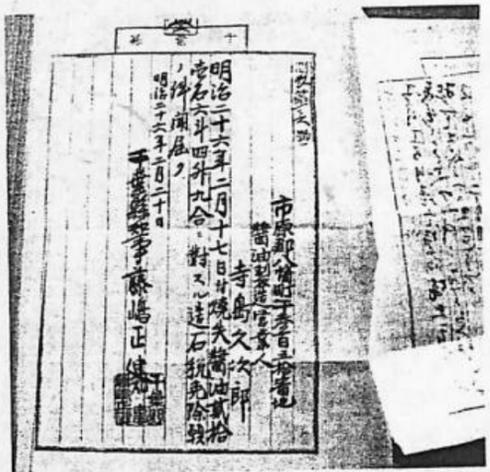
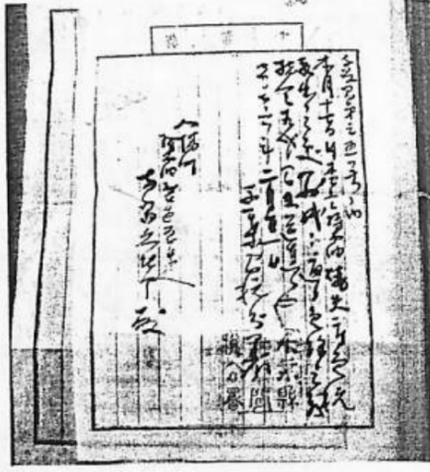
右之通相違無之候也
明治二十年十二月
右 寺島久次郎 (印)



焼失のため醤油造石税を免除

文書：21-7
写真：051008
~10

一生所 千葉県千葉郡茂呂村
一生年月 安政四年五月二十五日
一 郡實上総国市原郡八幡宿千三百五拾番地



醤油倉焼失に伴い造石税の免除願

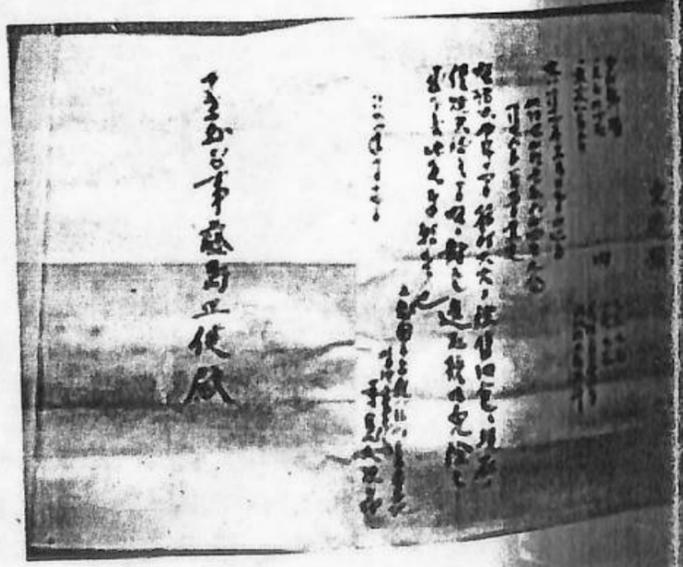
免税願

文書：3-9-2
写真：4815

- 第2号桶
- 一 元石拾四石 内 大豆七石、小麦七石
 - 一 煮込水拾五石五斗 食塩七石七斗五續 汲水拾五石五斗

右ハ明治二十四年十二月二十九日仕込留
此諸味式拾老石六斗四續九合
明治二十六年一月二十一日査定
右諸味本月十四日八幡町大火ノ際醤油倉ニ現在ノ儘焼失致候間、右ニ対する造石税御免除被成下度此段奉願候也、
明治二十二年二月十七日

上総国市原郡八幡町千三百五十番地
醤油營業人 寺島久次郎 (印)
千葉県知事 藤島正健殿



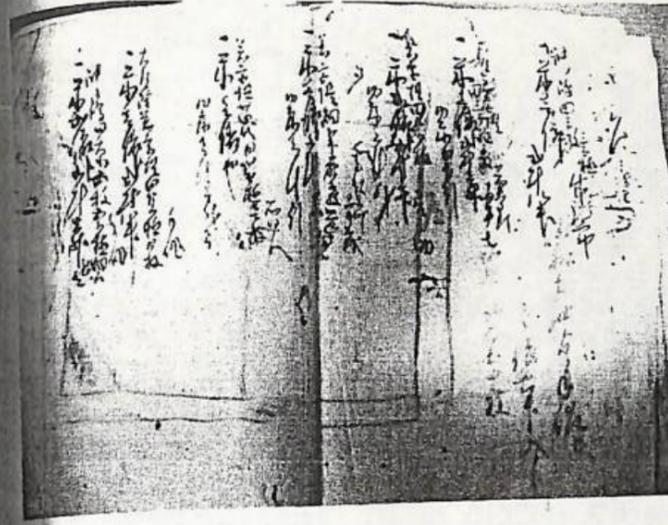
市原郡八幡町千參百五拾番地
醤油製造營業人 寺島久次郎
明治二十六年二月十七日 付焼失醤油式拾老石四斗九合ニ対スル造石税免除願ノ件
開届ク
明治二十六年一月二十日

所有土地図面 (明和年中より)

覚

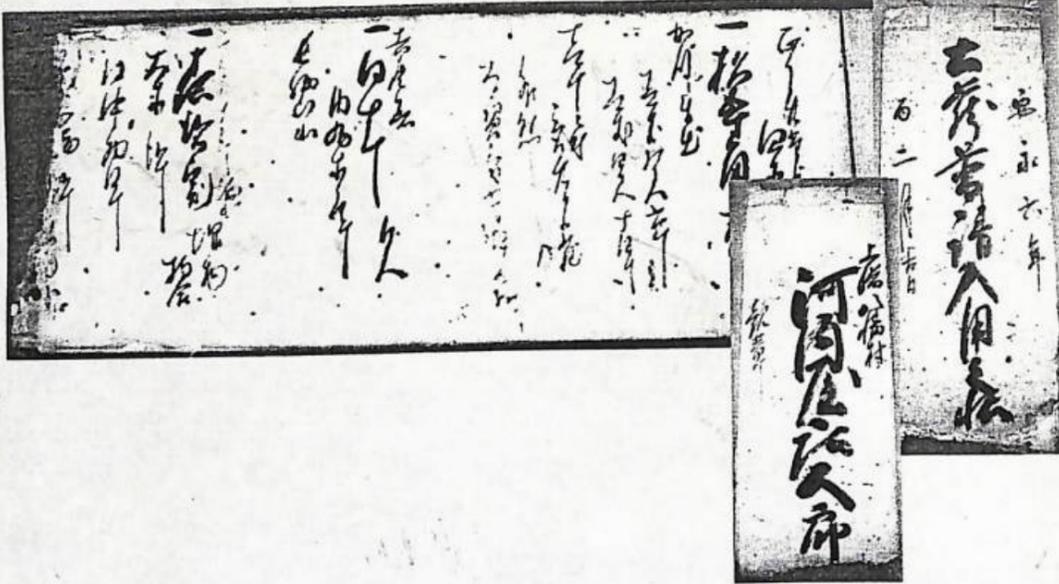
- 一 沖ノ嶋田三枚 米老俵分 式斗八升
- 一 米一俵式斗老升 内米五升
- 一 米式俵式斗七升 内米一斗引
- 一 若宮堤 米老俵六斗半 内米一斗引
- 一 若宮堤苗代田 米老俵也 内米老斗老升引
- 一 米老俵式斗八升
- 一 米式俵式斗老升

文書：22-122
写真：053106
~7

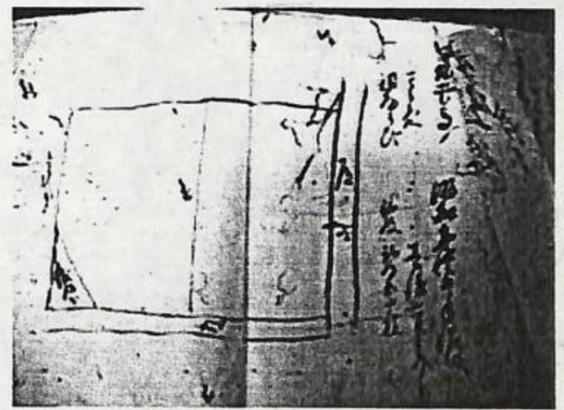


土蔵曾請入用之帳 (安永六年)

文書：22-19
写真：051077
~4



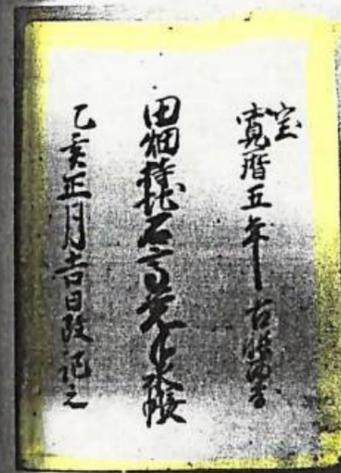
明和年中より年 老俵七升入



田畑持地石高覚御水帳

宝曆五年古帳面 乙亥正月吉日改記之

文書：41-15
写真：063066

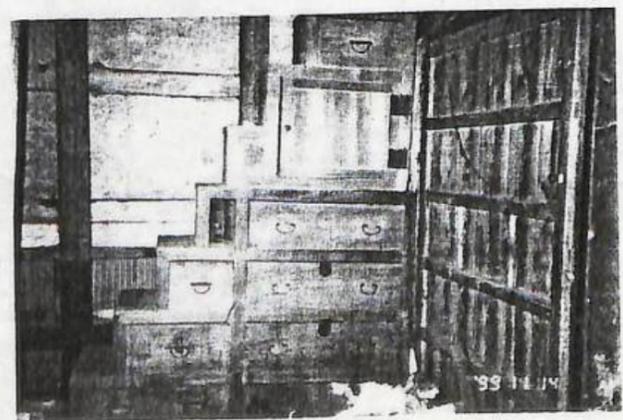
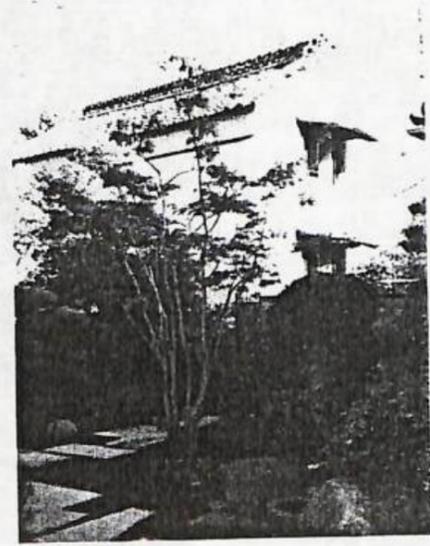


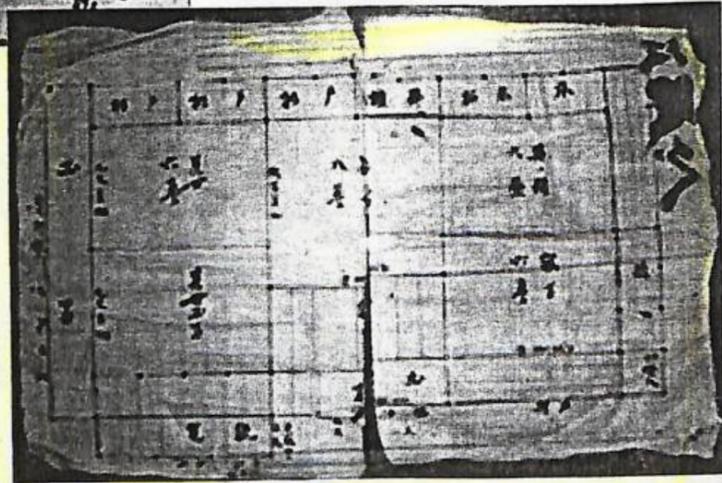
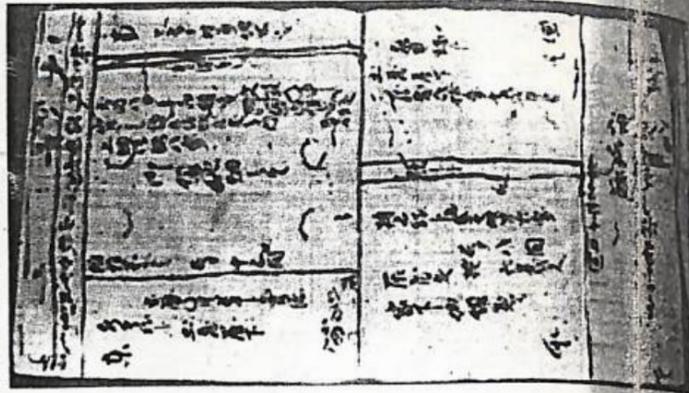
庄五郎持高

覚

- 一 上田 五反老畝十一分 此高七石五升
- 一 中田 老町七畝二十三分此高十老七石式升九合
- 一 下田 六反式畝四合 此高五石五升
- 一 上畑 七畝四分 此高六升四合
- 一 中畑 四反八畝二十四分此高式石九升式積八合
- 一 下畑 一町老反十四步 此高三石三升老合
- 一 屋敷 三畝二十四步 此高三斗八積
- 一 高合 三十三石五升

文書：19-19-3
写真：045044





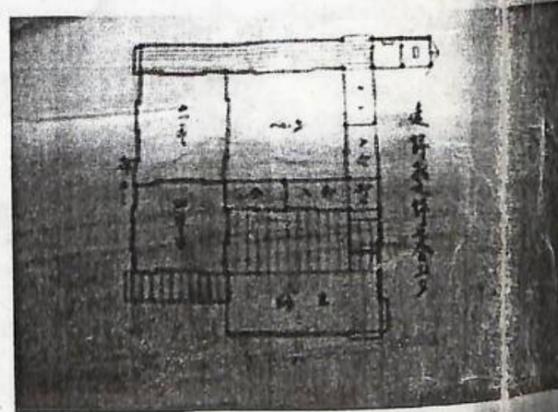
寺崎家母屋建築図面

文書：2-102
写真：059085



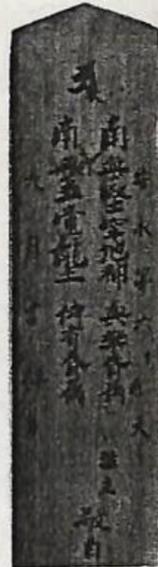
本家新築諸事扣帳

文書：30-29
写真：057086



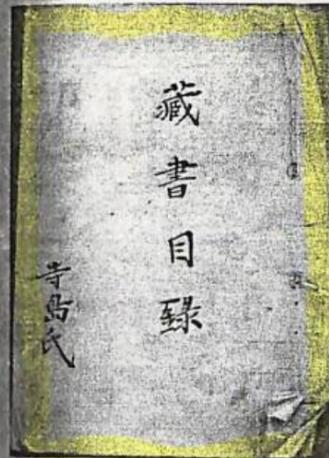
建坪 19坪7合5夕

文書：33-37
写真：063006



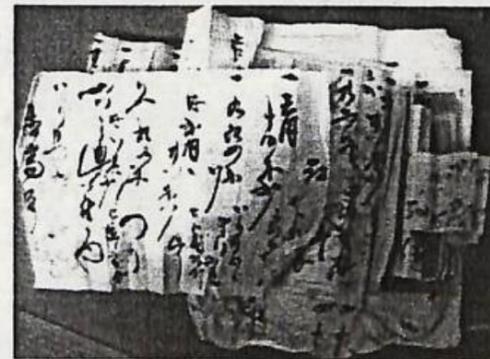
土蔵工事費領収書綴

文書：30-102
写真：059088



藏書目録

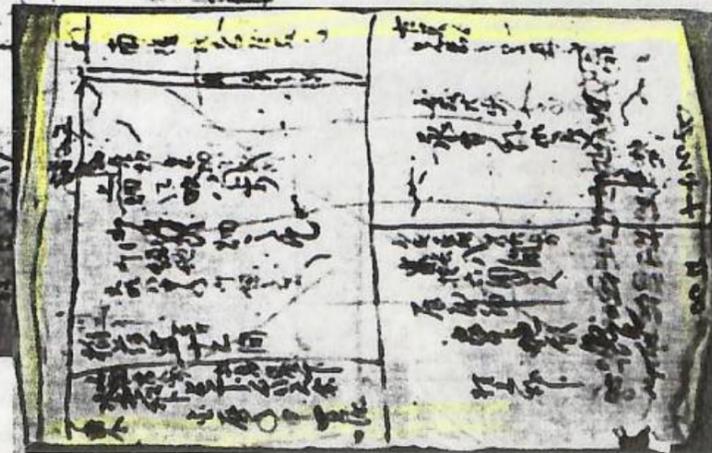
文書：20-1
写真：050036



河内屋住居屋敷絵図

河内屋庄五郎住居屋敷絵図

井川端杉山畑図

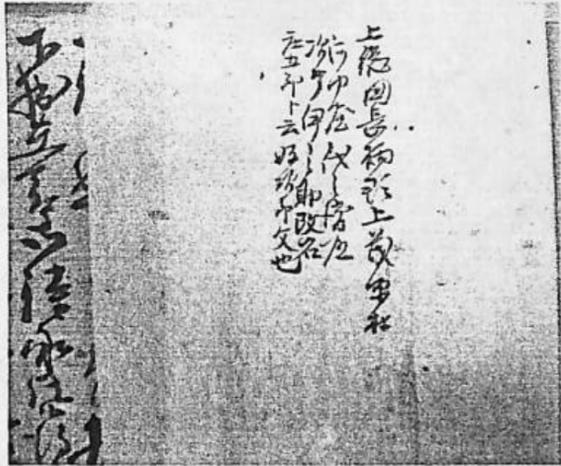


文書：22-12
写真：051058
~62

好次郎の父(庄五郎)伊之助改名

文書: 24-68-7a
写真: 055077

上院長初上院事務
行中在院事務
寺に云々



林家からの書状

文書: 21-42
写真: 051046

寺嶋御母上様 足下

林太郎吉

界第四老号

領收証

金貳拾五円也

右ハ當山大殿再建資ノ中へ御寄附相成領収に併

セテ感謝候也

大正九年九月八日

大本山 増上寺

大殿建設局(印)

寺島久次郎殿



文書: 16-1
写真: 043040

領收証

金貳拾五円也

右ハ當山大殿再建資ノ中へ

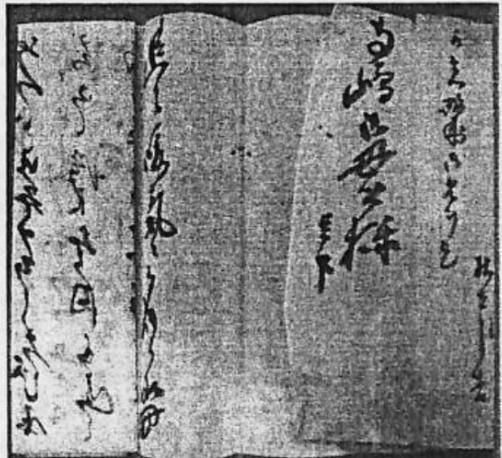
御寄附相成領収に併セテ

感謝候也

大正九年九月八日

大本山増上寺

大殿建設局



増上寺 柳之間待遇特別信徒

文書: 16-8
写真: 043052

今般當山大殿再建資御寄付被成下候、御芳志ニ酬
エル為メ柳之間待遇特別信徒ニ列シ貴家所志ノ盡
名ヲ祠堂簿ニ登録シ永代回願可申進候也

大正九年九月八日

大本山 増上寺

柳之間待遇特別信徒

寺島久次郎殿

谷 秀水から冬木屋へ屋敷元渡

文書: 19-54
写真: 047057

元渡申証文之事

一 金五兩ト八分六朱 但し・・

右は、當人用御座候二付、我等・・

一 御屋敷老ケ所右証文之通り・・渡シ、只今代

金不残儘ニ請取、則右証文一通相済申・・

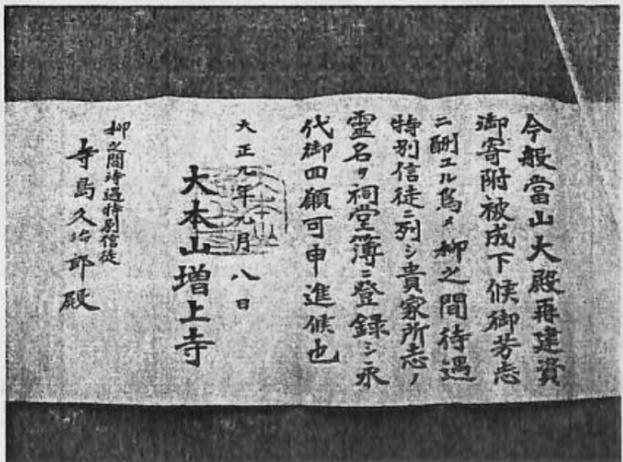
若シ此屋敷ニ付、横合ハ六ツケ敷義申者有之

候共、貴殿江少も御苦勞かけ申間敷候、為後

日・元渡之証文仍而如件

宝曆三年酉ノ三月 日

谷 秀水(印)
冬木 強助殿
喜三郎殿



文書: 12-8
写真: 043015

柳之間待遇特別信徒

大本山 増上寺

寺島久次郎殿

茂藤次の貸金証文

文書: 9-68-1
写真: 4386

借用申金子之契

一 金貳兩也 但し文字金

右は高出作・人入用ニ付、致候無、尤借用申所実

正也、返済之義ハ来秋中利息ヲ加、元利共ニ急致

相済可申候、為質地居屋敷書入申候、萬一延滞仕

候わば貴殿江相渡シ可申候、其時違乱申間敷候、

為後日仍而証文如件

天明二年寅二月

借り主 五郎八(印)
証人 万右衛門(印)
組頭 庄五郎(印)
茂藤次殿



文書：19-21-10
写真：046032

茂藤治に譲金

覚

一金拾両也 午年 譲金之内

右之通儲二請取申候 以上

壬寅 十一月四日

同苗 茂藤治(印)

河内屋 庄五郎殿

申間敷候、為後仍而如件

寛政七卯二月

縁類 庄八(印)

同 文三(印)

証人 善五郎(印)

同 与平治(印)

河内屋庄五郎殿



文書：19-21-4
写真：046026

茂藤治の借金証文

借用申金子之事

一金拾両也 但 文字金也

右は、私儀商内仕込金要用ニ御取候二付、貴殿江借用申所実正也、為質書米六拾俵書入ニ仕候、返済之儀は、月々以元利ヲ勘定可仕候、若シ右金子遅滞仕候者々右之書入之米俵・にて急度勘定可仕候、為後・之、依而証文如件

天明式年壬寅十二月十九日

同苗 借主 茂藤治(印)

川上請人 平重郎(印)

河内屋 兄 庄五郎殿

通ん・茂藤八の書状 その一

書付之事

文書：19-47-1
写真：047045

一 親の我亦方江被讓候田地之内半分喜兵衛方江讓可申由、相違無御座候、勿論先庄五郎存生之節金式拾両喜兵衛方江貸遣候処、我亦娘冬女喜兵衛方江熟縁相成候二付、右金子持参金差向遣申候、聊相違無御座候、此度大病二付、書付相渡申候、仍而如件

文化十四歳丑四月

老母 お通ん(印)

縁類 茂藤八(印)

庄五郎方 子供中



文書：30-75-2
写真：058051

不調法を詫びる

一札之事

一 今度甚七義不定不調法有之、貴殿御腹立御座候得共御詫仕候上、御救免被成下、然上八自今向後為相慎可申候、若如何様成義御座候とも我亦退出何力成申取仕、貴殿へ、御難儀



遍ん・茂藤八の書状 その二

文書：19-21-2
写真：046024

相渡申書付之事

今般、御地頭所様甥喜兵衛我亦代之偽御訴訟奉申上候処、我亦持参之田地作徳之義、喜兵衛請取度旨奉願上候由甚々不埒至極ニ御座候、且又、寛政十年七月先庄五郎死去致候節、持参田地作徳米共喜兵衛方江相讓可申訳一切無御座候、仍之、右田地半地喜兵衛妻・江相渡し可申様相定候、残半田地五郎子供讓渡申候、已来、田畑引訳候上に而、田作米兩人暮方被成候、是迄之田徳米御年貢米諸役相勤メ候方徳米・議定致候、為後日相渡書付仍而如件

文化十四年丑十一月二十八日

老母 遍ん

証人 茂藤八

庄五郎江

勝三郎に相続金を渡す

文書：80-78-42
写真：059008

相渡申一札之事

一 金式拾両也 但し文字金也
外ニ金式両ニ戌ノ十二月中我亦入用ニ受取申候メ金式拾式也
右金子之儀、我亦親に相続金として貴殿江・金預り置候所、今般私ニ・家屋敷共相求メ候ニ付、里請人立入書面之金子儘ニ受取・金相濟、家屋敷代金ニ相渡申候所、実正也、以来私し取持は式畝拾五分之屋敷老ケ所并ニ此度買添之屋敷地共御年・役我亦方ニ而相勤メ可申候、且私ニ親父・通奥亦我亦方江引取可申候、以而懇に・旦那寺附届ケ并ニ二年季申イ私方ニ而相勤メ諸事何事ニよらず貴殿御厄介ニ相掛り申間敷候、為其七話人加判一札相渡し申候所、仍而如件

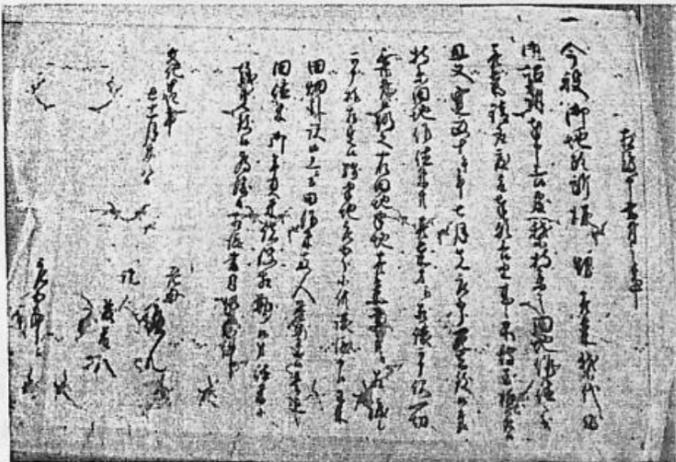
文政元寅十二月 日

金子請取人 勝三郎 (印)

七話人 喜兵衛 (印)

同 権右衛門 (印)

伯父 庄五郎殿



茂藤八の書状

文書：24-60
写真：055041

借用申金子証文之事

一 金式兩式分 但し文字金也
右は、今般榊原主計様御・ニ而、御・被仰付右内済金差支候ニ付、書面之金子儘ニ請取借用申処実正也、延滞之儀は、来ル三月我亦始奉・給金貴殿貴殿御引取御勘定可被成候、尤人請



お冬の借金証文

文書：22-71
写真：052112
~3

借用申金子証文之事

一 金式拾両也 但し文字金也
右は、我亦此度、病氣ニ而要用ニ差支候ニ付、書面之貴殿方ニも借用仕、儘ニ請取、則入用ニ致し候処実正也、尤借用金を書入我亦母親持参田畑、

状・貴殿御認メ御取斗被成候、為後日加印証文仍而如件

文化十五年寅正月

借用主 古市場村 茂藤八 (印)

証人 八幡村 源右衛門 (印)

口入人 庄五郎 (印)

能満村 仲兵衛殿



先庄五郎方被相返候所、不渡書入申候返済金元利相替候節は、貴殿方江田畑御引取御勝手ニ御所持被成候、為後日名主奥印致一言之違義申間敷候事仍而如件

文政三辰年二月

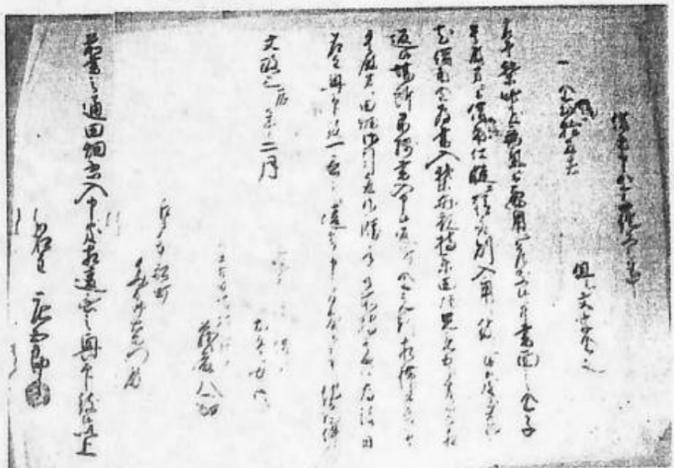
上総国八幡村借り人

お冬女 (印)

同国古市場村証人

茂藤八 (印)

江戸本船町 多郎右衛門殿



冬木屋お冬への財産分与

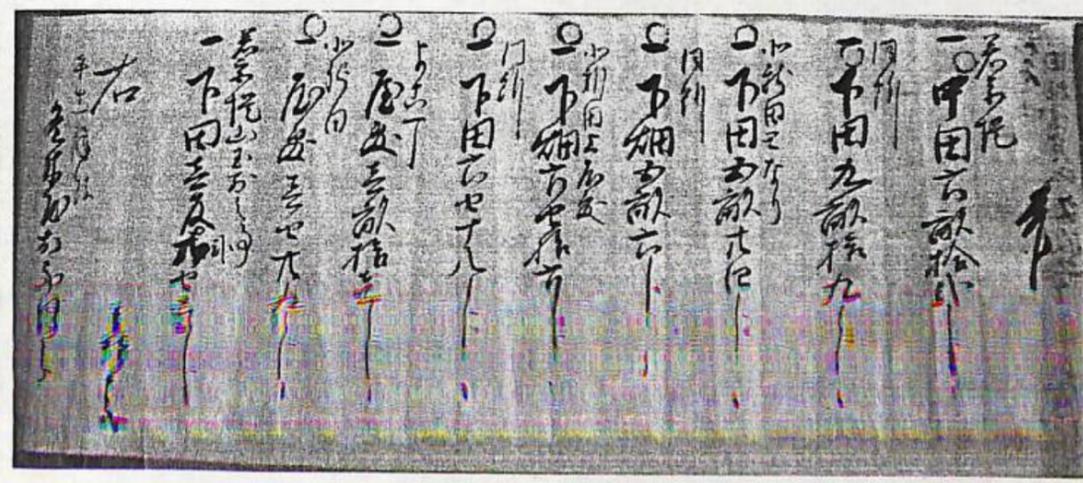
覚

- 一 若草堤 中田六畝拾貳分
- 一 同所 下田九畝拾九分
- 一 北新田となり 下田五畝二十四分
- 一 同所 下田五畝六分
- 一 北新田上屋敷 下田六七十八分
- 一 よこ丁 屋敷老畝拾壹分
- 一 北新田 屋敷老畝二十九分
- 一 若宮堤山王前之事 下田老反式七畝分

文書：19-111-7
写真：049026
~7

右 午十一月改
冬木屋おふゆ分

文政五年十一月
田畑書付入 老通受
冬木やお冬之田畑也



冬木屋からの申入

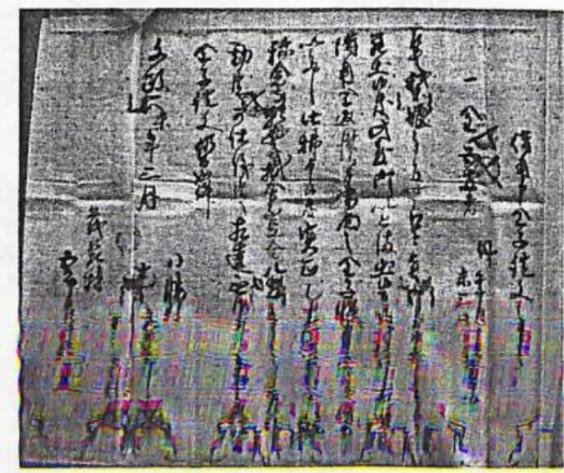
文書：41-49
写真：064026

口上
若宮堤六七十式分地所下作人訴二御座候哉、最早
彼岸二近寄、今日中承知仕度、奉存候、奉願上候
冬木や

河内屋様

文政六未年二月

八幡村 庄五郎 (印)
証人 利兵衛 (印)
茂呂村 五郎 (印)



借用金証文

借用申金子証文之事

一 金五両也 但し午十月、未三月 請取申候
右は、我お娘うた女・家屋敷奉・罷出候処、
此度御・出候而帰村仕、右奉公借用金返済二付、
書面之金子儘二貴殿方へ借用いたし、仕拂申候処
実正也、右借用金八幡村称念寺頼母子掛金不足金
八両有之分差引勘定可仕儀定相違無御座候事、為
後日金子証文仍而如件

借入れのため建屋書入証文

一 金三拾五両也
諸引當
建家書入借用金証文

文書：30-81
写真：059051
~2

前書通相違無之二付致奥印候也
明治十年十一月十七日

戸長 神藤重郎平印

上総国市原郡八幡宿之内観音町第十五番地
屋敷地内建物

一 平本家 老棟 間口四間三尺 雲隠
奥行六間三尺 雑作付

右は、今般貴殿江自身所有之建家引當書面之金円
正二受取借用申候実正也、返済之儀は、来ル明治
十二年十月限り元金拾五円二付老ケ月金貳拾五銭
宛候、利分差加へ季明二至り一時返金可致候、万
一相・候節は、別紙絵図面相添書入建家売捌速二
返金可致候、且如何様之書事出来候共、加印之我
亦引受弁償致、貴殿へ御御損毛相掛申間敷候、為
後日書入借用金証書仍テ如件

借主 第十一方区五小区 25
市原郡八幡宿
鶴殿良五郎印

受人 藤乘 徴印
同区同郡同宿
寺島久次郎老婆 おひな殿

西曆	和曆	庄八	庄五	庄八	西曆	和曆	庄八	庄五	庄八	西曆	和曆	庄八	庄五	庄八	由次郎	好次郎
1896	元禄9				1758	宝暦6				1816	文化13				名	名
1897	10				1757	7				1817	14				名	名
1898	11				1758	8				1818	文政1				名	名
1899	12				1759	9				1819	2				名	名
1700	13				1760	10	10家治			1820	3				名	名
1701	14				1761	11				1821	4				名	名
1702	15				1762	12				1822	5				名	名
1703	16				1763	13				1823	6				名	名
1704	宝永1				1764	明和1				1824	7				名	名
1705	2				1765	2				1825	8				名	名
1706	3				1766	3				1826	9				名	名
1707	4				1767	4				1827	10				名	名
1708	5				1768	5				1828	11				名	名
1709	6	6家宜			1769	6				1829	12				名	名
1710	7				1770	7				1830	天保1				名	名
1711	正徳1				1771	8				1831	2				名	名
1712	2				1772	安永1				1832	3				名	名
1713	3	7家継			1773	2				1833	4				名	名
1714	4				1774	3				1834	5				名	名
1715	5				1775	4				1835	6				名	名
1716	享保1				1776	5				1836	7				名	名
1717	2	8吉宗			1777	6				1837	8	12家慶			名	名
1718	3				1778	7				1838	9				名	名
1719	4				1779	8				1839	10				名	名
1720	5				1780	9				1840	11				名	名
1721	6				1781	天明1				1841	12				名	名
1722	7				1782	2				1842	13				名	名
1723	8				1783	3				1843	14				名	名
1724	9				1784	4				1844	弘化1				名	名
1725	10				1785	5				1845	2				名	名
1726	11				1786	6				1846	3				名	名
1727	12				1787	7	11家齊			1847	4				名	名
1728	13				1788	8				1848	嘉永1				名	名
1729	14				1789	寛政1				1849	2				名	名
1730	15				1790	2				1850	3				名	名
1731	16				1791	3				1851	4				名	名
1732	17				1792	4				1852	5				名	名
1733	18				1793	5				1853	6	13家定			名	名
1734	19				1794	6				1854	安政1				名	名
1735	20				1795	7				1855	2				名	名
1736	元文1				1796	8				1856	3				名	名
1737	2				1797	9				1857	4				名	名
1738	3				1798	10				1858	5	14家茂			名	名
1739	4				1799	11				1859	6				名	名
1740	5				1800	12				1860	万延1				名	名
1741	寛保1				1801	享和1				1861	文久1				名	名
1742	2				1802	2				1862	2				名	名
1743	3				1803	3				1863	3				名	名
1744	延享1				1804	文化1				1864	元治1				名	名
1745	2	9家重			1805	2				1865	慶応1				名	名
1746	3				1806	3				1866	2				名	名
1747	4				1807	4				1867	3	15慶喜			名	名
1748	寛延1				1808	5				1868	明治1				名	名
1749	2				1809	6				1869	2				名	名
1750	3				1810	7				1870	3				名	名
1751	宝暦1				1811	8				1871	4				名	名
1752	2				1812	9				1872	5				名	名
1753	3				1813	10				1873	6				名	名
1754	4				1814	11				1874	7				名	名
1755	5				1815	12				1875	8				名	名

支出の詳報

(前部分欠落)

文書: 27-13-1
写真: 050063

文書: 24-10
写真: 054028

一 申年 米拾八俵ヲ 壹斗四升五合九夕
内 拾俵度々二濟
残八俵壹斗四升五合九夕 此給ヲ

一金 三兩貳分八十壹文
内 三百拾三文末残り外
・三兩三十分五百三拾文
内 受口百三十三文
錢付支ノ・リ
・貳兩三分六百三拾五文

西五年
代米貳石三斗九升八合四夕
為・五俵三斗七升三合四夕
・貳俵壹斗七升七合五夕
内 壹俵・・リ
・壹・壹斗七升七合五夕
此年二俵米壹俵餘ル上打二米六升
・壹斗一升七合五夕
一・四百四拾八文 右・・錢二人相濟
右は、四拾兩・万無出入相濟・・
十二月十三日

組頭 庄八殿
名主 五七(印)

代米貳石三斗九升八合四夕



米合五拾四石九斗九升貳合

此俵百五拾七俵卜四升九合 但四斗五合入
永合貳貫貳百拾七文三分

右は當亥寅年年貢米永皆納可有候 以上
宝永四年亥十一月晦日
村上三右衛門 石川金太夫(印)
小原郷右衛門

名主 庄八殿
組頭 菊太郎殿
同 六兵衛殿

一 水戸藩文
 宝永四年八月
 右は八幡村名主組頭百姓代書面之通御座候、此
 外村役人無御座候 以上

亥年物成に係る覚

文書: 41-53
 41-57
 写真: 064030
 ~2
 38~40

一 高 百六拾九石三斗三升九合
 上総国市原郡八幡村
 内巻石九斗三升五合
 塩役所・野銭高入
 一 高 九石式斗老升三合 同所新田
 外 田九畝四歩 見取場

一 畑老反巻畝拾六歩 同所
 高合百七拾八石五斗五升式合
 内巻・五合 小物成之高入
 外 田九畝四歩 見取場
 畑老反巻畝拾六歩 同所
 右は今度村上三右衛門知行之内、御用地上納差詰
 り二付、被下候間、従當亥年物成同村可被相渡候
 但永方は老貫文二付老石式斗五升代之積り・
 如斯候以上
 宝永四年亥八月

小宮山友右衛門 印
 今井源四郎 印
 神谷武右衛門 印
 稲葉与一右衛門 印
 保木弥右衛門
 萩原源左衛門
 杉岡弥太郎 印
 樋口又兵衛殿
 無・印

右は八幡村名主組頭百姓代書面之通御座候、此
 外村役人無御座候 以上

宝永四年八月
 右は八幡村名主組頭百姓代書面之通御座候、此
 外村役人無御座候 以上

預り証文(酒道具目録)

文書: 19-7-71
 19-7-72
 写真: 045018
 22, 23

- 一 五尺五寸桶 但蓋共 老本
- 一 五尺桶 但ふた共 老本
- 一 四尺桶 但ふた共 四本
- 一 三尺五寸桶 式本
- 一 三尺桶 老本
- 一 つなたい桶 式本
- 一 半中桶 老本
- 一 半切 七枚
- 一 釜 但式尺七寸 老口
- 一 こしき 継輪共 但四石
- 一 焼酎こしき釜中桶共二
- 一 婦きぬき 老本
- 一 たき樽 老本
- 一 ため 三ツ
- 一 麴ため 但・共二 老ツ
- 一 かき桶 老ツ
- 一 附樽 式駄
- 一 薪樽 式荷
- 一 酒袋 七拾六
- 一 すかり
- 一 売場半台 老升老ツ、ひしやく共上こ老ツ
- 一 式拾老口

右の通櫃二預り申候返進懸之節証文二引合相渡シ

亥年物成に係る覚

文書: 27-12-1
 27-12-2
 写真: 060001
 ~2

(前部分欠落)
 永井美濃守知行所 名主 庄助
 組頭 源右衛門
 同 市兵衛
 同 百姓代
 水野山城守知行所 名主 庄右衛門
 組頭 権
 同 平十郎
 同 百姓代 金兵衛
 村上三十郎知行所 名主 庄八
 組頭 治左衛門
 同 吉兵衛
 同 百姓代 長兵衛
 酉正月 八幡村 名主 庄八
 同 平兵衛
 同 甚兵衛
 同 清左衛門
 同 庄助
 同 庄右衛門
 遠藤吉右衛門様御手代 田中勇助様

宝永四年八月
 右は八幡村名主組頭百姓代書面之通御座候、此
 外村役人無御座候 以上

申候 以上

正徳五年未八月日

有吉村 三郎兵衛(印)

八幡村 庄八殿

一 大谷真口 但式尺七寸

一 酒・袋 三拾六

一 すかり 三拾四

右之通相違無御座候

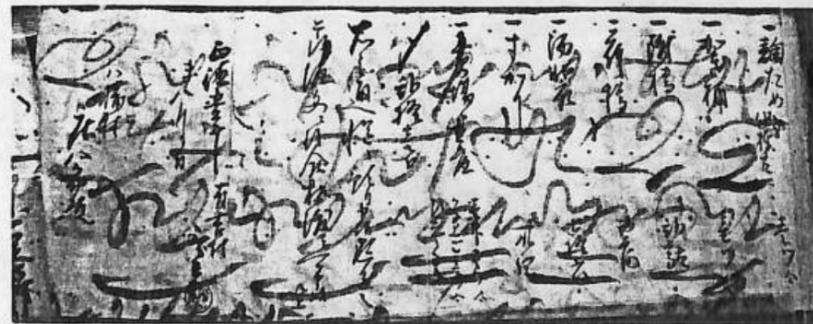
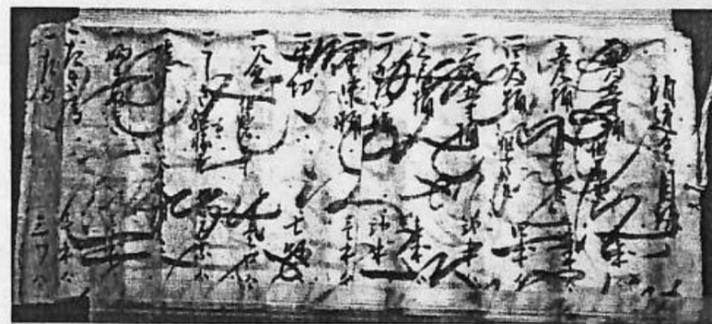
相定之年明キ申上候、不残右之道具御返進可仕候

正徳元卯八月二十日

塩田村

沢房右衛門(印)

八幡村 庄八殿



田地元渡証文

壳渡申田地之事

一 若宮堤 中田六畝拾貳步 但三筆

一同所 下田九畝拾九步

右は當卯御年貢二相詰代金六兩貳分有合壳渡申候所実正也、右之代金不残申候、此田地二付従脇少茂構無御座候、右之金子返し仕候わば此田地無相違御返シ被成可被下候 以上

享保二十年卯十月二十六日

売主 金重郎(印)

名主 五郎七(印)

冬木屋喜兵衛殿



巳年割付

巳割付五郎七組

一 米拾九俵壹斗三升五合九夕

十一月

組頭 勘之丞(印)

親音町 庄八殿



居屋敷元渡証文

相渡し申居屋敷証文之事

一 居屋敷 四畝拾四步

内 老畝拾四步は御殿様七平被下候分引

老畝二十七步徳左衛門江壳渡シ申候分引引合老畝三步當居屋敷元名主五郎七方巳御年貢并二引肩御勘定方々御地頭様江差上申、依之御窺御仰付にて貴殿江文字金五兩八・六分二壳渡シ申候処紛無御座候、居屋敷吟味之義、名主組頭并二百姓代五人組立合畝歩相改割渡し処、相違無御座候、為曖昧六ヶ敷義申出候者有之候わば、印形之者共罷出、貴殿江難義かけ申間敷候、為後日仍而一札 如件

寛延三年午十二月

名主 庄八(印)

組頭 喜右衛門(印)

百姓代 次左衛門(印)

五人組代 七郎兵衛(印)

秀水殿

文書: 19-83
写真: 043052

文書: 2-19-24
2-18-24
写真: 08-6065

文書: 1-5
27-10
写真: 05-6066



有合質地証文

有合相渡申質地証文事

- 一 石塚 中田三畝歩
- 一 同所 中田拾六歩
- 一 田向 中田老畝十八歩
- 一 同所 中田老畝二十四歩
- 一 同所 中田老畝二十四歩
- 五筆

右は未ノ御年貢ニ相詰リ、右之田畑十ヶ年ノ質地ニ相渡金子八両式分儲ニ請取、御蔵江上納申処実正也、尤御年貢諸役は、貴殿方にて御勤田畑御所持可被成候、年之内右金子返済申候わば、田畑御返シ可被成候、右田畑ニ付横合ハ少茂構無御座候、為後日質地証文仍而如件

宝曆元年未十二月

質地主 仁兵衛 (印)
 証人 甚兵衛 (印)
 名主 久次郎 (印)
 河内屋庄八殿

文書: 27-15
 写真: 056007



有合質地証文

有合相渡申質地証文事

- 一 屋わた 下畑九畝二十四歩 入口式俵入
- 一 神明前 新下畑六畝式拾式歩 入口六斗入
- 一 川はた 下畑八畝拾六歩 入口三筆庄八組

右は未御年貢ニ相詰リ、右之畑十ヶ年ノ質地ニ相渡金子式拾四両式分儲ニ請取、御蔵上納申処実正也、尤御年貢諸役は、貴殿方にて御勤右畑御所持可被成候、年季之内右金子返済申候わば、田畑御返シ可被成候、右田畑ニ付横合ハ少茂構無御座候、為後日之質地証文仍而如件

宝曆元年未十二月

質地主 甚兵衛 (印)
 証人 久次郎 (印)
 河内屋庄八殿
 新八

文書: 27-17
 写真: 056009

質地証文

質地証文之事

- 一 川ばた 新下田 六歩 但シ老俵入口
 - 一 同所 新下畑 拾四歩 小作三右衛門(印)
- 右は、當未御年貢相詰リ本紙・之通相渡シ、此度増金都合式兩三分儲ニ請取、御蔵上納申所実正也、來申年中右之金子返弁申候わば、無相違右田地御返シ可被下候、御年貢諸役亦茂御勤可被成候、私小作二仕、年々無相違斗リ可申候、小作証文別紙差上申候、此田地二付、横合ハ少構無御座候、仍而加印為後日之如件

宝曆元年未十二月二十九日

質地主 三右衛門(印)
 証人 又八(印)
 甚兵衛(印)
 久次郎(印)
 庄八殿

文書: 27-4
 写真: 056042





質地証文

質地証文之事

一 上屋・下田六畝拾八步
 一 上屋館 下畑六畝拾六步
 入口式俵三斗五升入 名主庄八組 (印)

右は當寅御年貢相詰り、當酉の拾ヶ年右之田畑金拾兩為質地只今儲ニ受取、御藏上納申所実正也、右之金子年季之内返済申候わば、無相違御返可被成候、當年の貴殿御勝手次第御手作可被下候、御年貢諸役共當年の貴殿御勤可被下候、右之質地ニ付横合の少も構無御座候、為後日之質地証文仍而如件

宝曆三年酉十二月

質地主 甚兵衛 (印)

証人 新八 (印)

冬木屋 喜三郎殿

河内屋 庄八殿

文書：27-14
写真：056066



質地証文

質地証文之事

一 川端畝歩古水帳二付
 立替り 畑老ヶ所 名主庄八組
 小作米三斗入

右は當酉御年貢相詰り當酉御年貢上納ニ付、本金金貳兩老分右為質地借用申儲ニ受取御藏上納申所実正也、右之金子十ヶ年之内返済申候わば右之質地無相違御返可被成候、右年季之内出来不申候わば永流地可被成候、尤右之質地當年の貴殿・御受取御手作可被成候、右質地ニ付横合の少も構無御座候、為後日之質地証文仍而如件

宝曆三年酉十二月

質地主 升之助 (印)
 証人口入 甚兵衛 (印)
 立合 新八 (印)
 河内屋 庄八殿

文書：30-64-1
写真：058023



文書：30-64-1
写真：058022

田地売渡証文

売渡し申証文之事

一 若宮堤山王前之事 下田六畝拾貳歩
 一 同所 下田五畝拾九歩
 二筆合老反式拾老歩名主 庄八組

右は當亥之御年貢ニ指詰り、貴殿江文字金七兩貳分ニ売渡し、刻金子不殘儲ニ受取、御藏江上納仕候处実正也、右田地ニ付横合少茂構無御座候、來ル子年寄貴殿方にて御年貢諸役御勤可被成候、十ヶ年之内金子返進仕候わば、右之田地御返シ可被成候、為後日仍而証文如件

宝曆五年亥十二月

売主 南観音町 仁兵衛 (印)
 冬木屋 喜三郎殿

名主 庄八 (印)
 組頭 治左衛門 (印)

文書：21-23
写真：051081

宝曆七年十一月二十九日
 河内屋庄八殿
 借主 小平治 (印)
 同 七郎兵衛

質地証文
 一 下畑六畝六步 上屋浦
 右は丑之御米進差詰り、當寅年之亥之年迄拾ヶ年
 質地相渡シ、為舖金四兩錢九百八拾五文唯今儲二
 受取御年貢御藏上納申所実正也、然上は、當年之
 御年貢諸役共貴殿方にて御勤可被下候、年季之内
 右之金子返済申候わば、質地無間違御返シ可被成
 候、尤此質地二付、横合之構少茂無御座候、為後
 日質地証文仍而如件
 宝曆八年寅四月
 質地主 甚兵衛 (印)
 証人 新八 (印)
 名主

為後日如件
 宝曆七年丑ノ十二月二十九日

借主 小平治 (印)
 同 七郎兵衛

河内や 庄八殿
 當秋迄二茂罷成候わば勘定・之・江老ヶ年利足差
 出可・候

質地主 甚兵衛 (印)
 証人 新八 (印)
 名主

文書：27-11
 写真：056000

田地売渡証文

売渡シ申田畑証文之事
 一 五本松 中田拾六步
 一 同所 下畑四畝貳拾四步
 一 兩前 中田老反六畝拾六步
 一 さしめ 下畑貳拾六步 七筆所
 名主 庄八組
 右は亥御年貢二差詰り、文字金拾五兩三分二貴殿
 江売渡し、御藏江上納仕候処実正也、尤右之田畑
 二付横合処少茂構無御座候、拾ヶ年之内返済仕候、
 右之田畑御返シ可被成候、當亥御年貢諸役貴殿方
 にて御勤可被成候、為後日仍而如件
 宝曆六年丙子二月 日
 売地主 北観音町 新八 (印)

文書：19-21-14
 写真：046036

借主 小平治 (印)
 同 七郎兵衛

金子借用証文

借用申金子之事
 一 金老兩也 文字金也
 右は無抛入用二付貴殿江御・
 借用申所実正也、返済之儀は来ル春中連・之内に
 て差引勘定急度可仕候、尤、御延去、ノ利息加無

文書：27-16
 写真：056068

卯御年貢勘定目録(下書)

文書: 27-8-1
写真: 056047
~50

米百六拾表 梓江米共 四斗五合納

表表下壹斗式升六合

・年開発新田式反八畝式拾六步

反二壹斗式升四合四夕取

右見取田九畝四分

反二壹斗五升つ

三反五畝步

百六拾表表下壹斗式升六合

内 米式斗六升四合 水引二被下候分

同三斗五升五合 川印二塩入二被下候分

同四表 不足八表代二被下候分

同五表 名主組頭二被下候分

内表表亥年名主増給二被下候分

拾六表下壹斗七升四合

一 米六拾表下壹斗八升八合

・御年賦米御年越金并御年御用米卯年御年普船

貸米御用楨代金銀都合致俵数・此二御座候、御拂

被下候分銘々別紙書附上ケ仕候

二口合七拾六表三斗六升式合

寅年残米式表下式斗六升四合七夕

引七拾四表四斗九升七合三夕

米八拾七表

外二大豆八表 米共二

都合 百六拾表表九斗七升六合三夕

合テ百六拾表表下式升六合

辰正月上納

一 金式分

水夫 塩辛代二被下候分

引 同五百文 差上ケ申候

卯御連上金米蠟にて不納

一 金老分下錢式百文

永役三百拾文七分

右近年荒悪塩入無毛

三左衛門・七平持地之附居住無之二付

六給入合地締二御座候

右之通勘定目録相違無御座候 以上

宝曆九年卯十二月

名主 庄八

組頭 治左衛門

同 吉兵衛

村上三十郎様御内

石川権之進様

覚

一 御年賦米 米拾壹表

一 御年賦金 金壹兩下銀拾式夕

御年賦米利銀被下候分

銀四拾七匁式リ

一 卯二月御用米 拾八表

一 兩二九斗かへ 代金八兩拾式分

一 同十月迄 利銀七拾八匁三厘

一 卯二月御用楨代 金壹兩

一 金壹兩

(以下欠落)

文書: 27-8-1
写真: 056047

Handwritten text in the top left section of the document, including names and dates.

Handwritten text in the middle section of the document, including names and dates.

有合二壳渡申田畑之事

一 上屋敷 下田式畝步 名主庄八組 (印)

一 右同所 下田八畝二十四步 右同人組

右は御年貢御未進差詰貴殿ニ有合ニて壳渡シ、文
字金六兩壹分二相渡シ申所実正也、刻御年貢御未
進皆済仕候、當御年貢諸役貴殿方ニて御勤可被成、
此田畑ニ付協合少茂構無御座候、尤五ヶ年之内
返金仕候わば、右之田畑御返シ可被成候、其節右
本金二一ヶ年歩之利足加勘定可仕候、為後日仍而
証文如件

宝曆十辰年四月日

壳主 蔵町

七兵衛事 藤右衛門 (印)

証人 同所 左平治 (印)

河内屋庄八殿

有在... 辰年御年貢勘定目録(一部)

石川権之進様
浅田銀二兵衛様

辰年御年貢勘定目録(一部)

文書: 27-8-2
写真: 056051
~2

(前部分欠落)
米六拾俵七升四合
米四拾俵...合

右は御年賦米并辰年御用米辰年御年貢外貸米
代金銀都合致俵数如此御座候御拂被下候分
銘々別紙書付差上ケ仕候

二口合五拾六俵式斗六升七合
卯年残米式斗八合七夕
引五拾六俵式斗三升八合三夕
辰年御年貢八月と十二月迄御上納

一 米八拾八俵 但シ煉達共二
外二大豆八俵

辰年御年貢上納
都合百四拾四俵式斗三升八合三夕

辰年御年貢残は拾六俵式斗九升式合七夕
合テ 百六拾壹俵式斗式升六合

巳正月上納
一 金式分 水夫

辰御運上金不・二て不納
一 金式分錢式百文

一 銀三百...七分
右近年荒悪塩入無毛 三郎七・七平持地所居

辰之舟積上納目録

文書: 27-8-3
写真: 056052

辰之舟積上納

- 一 二月御用米 米拾八俵
- 一 同八月御年貢納メ 米六俵
- 一 同九月七日 米拾式俵
- 一 同穉米 式俵
- 一 同大豆四俵
- 一 同晦日 米拾八俵
- 一 十月二十八日 米拾八俵
- 一 十一月十六日 米式俵
- 一 同 大豆四俵
- 一 十一月晦日 米拾五俵
- 一 同 穉米三俵
- 一 十二月十六日 米拾式俵
- 一 辰年舟積米 百拾四俵

右之通り俵数高相違無御座候
辰十二月

石川権之進様
浅田銀二兵衛様

住無之二付、六給入合地所地所御座候
右之通り勘定目録相違無御座候 以上
宝曆十年辰十二月

名主 庄八
組頭 二左衛門
同 吉兵衛

村上三十郎様御内
石川権之進様
浅田左兵衛様

石川権之進様
浅田銀二兵衛様

石川権之進様
浅田銀二兵衛様

田畑壳渡証文

相渡申田畑証文之事

- 一 左か手代こしまき之事
- 一 上田老畝拾六歩
- 一 右同所 上田三畝歩

ノ式以処

右は當御年貢ニ差詰、文字金七兩三分ト銀三匁七分五厘ニ貴殿江壳渡シ申所実正也、刻御蔵上納仕候、依之来ル午ノ年ノ御年貢諸役ホ貴殿方ニテ御勤可被成候、此田畑ニ付協合ノ少茂構無御座候、若十ヶ年之内返金仕候わば、右之田畑御返シ被成可被下候、為後日仍而証文如件

宝曆十一年巳十二月

壳主 観音丁 新八(印)

証人 同 源七(印)

河内屋庄太郎殿

右之通水帳引合畝歩相違無御座候、仍而令奥印候以上
 名主 庄八

文書: 27-5
写真: 056043
~4



金子借用証文

借用申金子之事

一 金拾五兩也 但文字金也
 右は八幡宮御修復料借用申所実正也
 返済之儀之は、来ル未年小作米六拾表四斗壳升之印形之通相渡候間、来未年十月中相場次第二元利御引取可被成候、為後日仍而如件

宝曆十二年午十月

借主 若宮寺

請人代官 廣徳院

河内屋庄八殿



文書: 19-21-12
写真: 046034

若宮寺小作印形之

文書: 19-47-4
写真: 047037

若宮寺小作印形之

- 一 米三表壳斗五升 山王町 忠兵衛
- 一 米壳表壳斗五升 同人
- 一 米三表壳斗 濱本 七
- 一 拾壳俵壳斗九升 観音町 兵衛

宝曆十三年十二月

若宮寺

河内屋庄八殿



年貢証文

文書: 19-55
写真: 047058

年・証文之事

一 金五兩也 勘定残金也
 右は金壳ケ年ニ付米三俵づつニ相定メ、来ル未・米ノ亥秋米迄五ヶ年之内小作米出戸喜・壳俵三斗成シ、同五郎兵衛壳俵斗式升成シ、合三俵御年貢米無相違為相斗可申候、五ヶ年相済候わば、右之証文御返シ可被成候、為後日之依而如件

宝曆十二年午ノ十二月

借り主 市河山城(印)

証人 助之丞(印)

小作人 喜(印)

同人 五郎兵衛

寺嶋庄八殿



畑地売渡証文

文書：27-3
写真：056041

相渡申証文之事

一 上畑式拾歩
右は當御年貢二差詰、代文字金三両式分銀五匁六分貴殿江売渡シ、刻御藏上納仕候所美正也、然上は御年貢諸役貴殿方にて御勤可被成候、若又拾ヶ年之内返金仕候わば、御帰シ可被下候、為後日仍而証文如件

宝曆十二年午十二月日

売主 長十郎 (印)

証人 権七 (印)

河内屋庄八殿

右之通相違無之候二付、仍而令奥印候

以上

名主 庄右衛門 (印)

金子預り証文

文書：27-7
写真：056046

預り申金子之事

一 金三分 但文字金也
右は八幡宮御修・複料二差詰、預り申候処美正也、為書入小作米式表入・
小作人印形之・来就中式割半之以利足元利御勘定被成御差引可被成候、尤十月中旬相場次第第二可仕候、為後日仍而如件

宝曆十二年午十二月

預り主 助之丞 (印)

小作人 行丁 五郎助 (印)

河内屋庄八殿

借用金子之事

一 金子式兩式分也 但文字金也
右之金子八幡宮當未之御修・指詰、借用申上納申処美正也、尤當・定相立候わは、殘金と此金子と合而・印形之証文指遣可申候御勘定相・、為念一札如件

宝曆十三年未極月二十九日

借主 廣徳地代印 若宮寺

証人 神・

観音町 河内屋庄八殿



相渡申實地之事

一 屋敷式拾八歩
右は當御年貢差詰、文字金老兩三分式朱借用仕候、此屋敷二付脇合少茂構無御座候、然上は其元にて御所物被成御年貢諸役亦御勤可被成候、若十ヶ年之内返金仕候わば、右之屋敷無相違御返シ可被下候、為後日仍而如件

明和貳年酉二月

質地主 八兵衛娘 (印)

兄 四郎兵衛 (印)

証人 源七 (印)

名主 庄八 (印)

徳兵衛殿妹



質地証文

文書: 27-9
写真: 056055

相渡申質地之事

一 屋敷老畝式拾九歩
右は當御年貢相詰、金子五兩借用申御年貢上納仕候處実正也、此屋敷二付横合少茂構無御座候、然上は御年貢諸役亦貴殿方にて御勤被成、御所地可被成候、尤拾ケ年之内右金子返金仕候わば、無相違御返シ可被下候、為後日仍而如件

明和元年甲申十二月

質地主 地之・十兵衛(印)
証人 よこ丁 六兵衛(印)
名主 甚兵衛(印)

河内屋庄八殿



差上申一札之事

文書: 30-78-15
写真: 058073
~5

差上申一札之事

上総国市原郡八幡村

一 高 千式百四十石 五升九合老夕
但し船用廻高共 江戸迄道法十式里
内四百六十六石五斗四升老合老夕

同国同郡同村

老岐大和守領分

一 高 八拾九石式斗七升六合

御書院御書所 同郡同村

水野山城守知行所

一 高 百八拾式石五斗式升四合

中奥御小姓衆 同所

永井美濃守知行所

一 高 百七拾八石五斗四升八合

御使番衆 同所

村上三十郎知行所

一 高 式百二十六石九斗三升

新御番組者 同所

佐野九右衛門知行所

一 高 九十五石九斗四升

御小普請組 同所

河野大学知行所

文書: 192
写真: 042

人請状之事

一 當御年貢差詰・つたと申女、生国義能存儲成者二御座候二付、我亦代金被支当亥十二月、子十二月迄老年限二相候為給金式分只今お渡し被下、慥而受取、則御上納仕候、又為者数給老・被下候皆相定申候、若此者取違・仕候わば、其・ハ不及申雜物共尋出シ、貴殿二・茂御苦勞懸申間敷候、又ハ長病にて茂仕候わば、成共給金にても貴殿御勝手次第二可仕候事
御公儀様御詰度之義ハ不及申御家之御作法為背相申間敷候
宗旨之義、代々禪宗にて寺詰志やく寺旦那二紛無候致候、若此者義二付如何様之六ヶ敷出来候共我亦共罷出、貴殿二少茂懸御苦勞申間敷候、右此つた女末々御氣二入候わば、偏二幸茂故・此手形御奉公致不申候、為後日仍而請状如件

明和四年亥十二月

請人 都本村 小兵衛(印)
人主 都本村 与五右衛門(印)
河内屋庄八殿



御米印

一 高 百五拾石

八幡宮社領
別当 異心寺

神主 市川山城

除地五ヶ寺

浄土宗下総国千葉郡・大峯寺末

右同国同郡同村 称念寺

同宗右 同所 無量寺

日蓮宗武州池上本門寺末 妙長寺

同宗下総国千葉郡・村本行寺末

真言宗市都醍醐三宝院末 満徳寺

圓頓寺

右之通差上仕候處相違無御座候

明和三年戌十一月

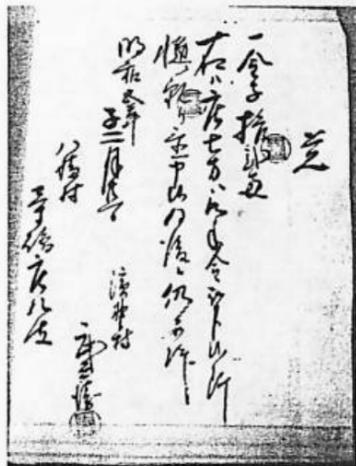
金子預りの覚

文書：24-1
写真：053115

一 金子拾貳兩 覚

右ハ庄七方江手金被下候所儘ニ預リ置申候、為後日仍而如件
明和五年子二月二十一日

濱野村 武兵衛(印)
八幡村 寺嶋庄八殿



金子預りの覚

文書：24-27
写真：054058

一 金子八兩 覚

右之金庄七方江手金被下候所、儘ニ請取預リ申所
実正ニ御座候、為後日書付仍而如件
明和六年丑十二月十四日

濱野村 武兵衛(印)
八幡村 河内屋庄八殿



質地証文

文書：30-78-18
写真：058079
~80

相渡シ申質地証文之事

- 一 中畑式畝二十老步 山王前
- 一 下畑三畝拾八步 天明六年午二月 谷端
- 一 下畑式畝六步 此式筆冬木や江地・二付返ス 右同所

- 一 下畑老畝拾三步 黒之・
- 一 下畑式拾畝步 同所
- 一 中畑三畝八步 // 所
- 一 中畑老畝四步 // 所
- 一 中畑四畝式拾步 // 所

右は丑御未進有之候二付、當寅年亥ノ年迄拾ケ年之質地ニ相渡シ、為敷金と拾六兩老分只今儘ニ受取御蔵江上納申所実正也、年季之内右之金子返濟申候わば、質地無相違御返し可被成候、然上は當年御年貢諸役貴殿方ニテ御勤可被成候、尤此田畑二付横合少茂構無御座候、為後日質地証文仍而如件

質地主 喜兵衛(印)
証人 彦七(印)

明和七年寅四月

相渡シ申質地証文之事

- 一 中川端 新畑老畝拾貳步 庄右衛門組
- 一 下田三歩 喜右衛門組
- 一 同所 下田式畝拾八步 右同組

右は丑御未進有之候二付、當寅年亥ノ年迄拾ケ年之質地ニ相渡シ、右敷金と五兩只今儘ニ請取、御蔵江上納仕候所実正也、年季之内右之金子返濟申候わば、質地無相違御返し可被下候、然上は當年御年貢諸役貴殿方ニテ御勤可被成候、尤此田畑二付横合少しも構無御座候、為後日質地証文仍而如件

明和七年寅四月

質地主 喜兵衛(印)
証人 彦七(印)

河内屋庄八殿

名主 庄右衛門(印)
名主 喜右衛門(印)



年貢滞納者にかかわる嘆願

乍恐以書付奉嘆願候

上総国市原郡八幡村役人左之名前之もの共一同奉
申上候、百姓新藏義天保五年より去ル丑年迄米拾
式俵余小作年貢相滞候旨、去二月中御相給永井菊
之助様御知行分年番名主作右衛門より奉願上候二付
御召出之上早々皆済可致旨嚴重・被仰付奉承知候
得共、行届・御吟味申出・いたし御尋被仰付罷
在候内、組合親類之もの共難渋之趣、作右衛門方
江相頼及掛合夫々勘弁預り皆済仕候、然ル処私共
心當り相尋居候処見當候二付、引戻し異見・加
江猶當人心底篤と承り札見候処先非後悔、已来改
心実意二立戻、農業出精仕度旨御嘆願被成下様申
立嘆り処存候間、何卒格別之以御慈悲御憐愍之
御沙汰奉嘆願上候 以上

御知行所 八幡村 勘七

重助

治兵衛

親類惣代 半兵衛

右願之通り御聴濟被成下置候わば難有仕合奉存候
以上

百姓代

組頭

御地頭所様

名主

川端 下田式拾式歩 元地主次左衛門 庄八
となり下田五畝式拾四歩 元地主甚左衛門 庄八
となり下田六畝拾八歩 元地主甚左衛門 庄八
中通 下田老畝拾八歩 元地主庄七郎 庄八
馬喰橋 下田老反四畝五歩 元地主甚四郎 庄八



御役金を預る

預申御役金之事

一金五兩也 但し文字金也

右大蔵寺大衆方御資助金之内、貴寺御役目二而被遊御預候、此度拙者無抛用向差支願申候、実正也、返金之儀は來丑十二月十五日限老割半之利息、急度并済可仕候、尤實地八幡村田畑二而三反、

文書：30-78-5
写真：058061

利上納可仕候、貴寺少茂・御苦勞申間敷候、仍而為後日如件

文化元子年極月十五日

願主

八幡村

川内屋元治(印) ×

証人 同所

河上平八(印)

証人 同所横町

権平(印)

称念寺 御弟子中



御下知書 文化式丑年十一月

文書：29-8
写真：056097
~102

相渡置下知書議定一札

一 御代官所御貸附金三ヶ所都合高式百兩是又別紙御下知書之通元利共相・候迄は・々御地頭所・無相違返納可致候、其御知行所・申付間敷候事

一 御地頭所是迄御名勝手二付御勤向并御暮方餘時御入用・ホ多分有之候二付、當時難相遊御出勤猶亦御暮方餘時御入用金ホ二御差支二付、其村方去子年先納金百兩無御余儀、當丑年借居被仰付、尚又此節差掛り無御処御入用二付又々金子調達候仰付候、御請ホ不仕御・申上候得共金子出来不致候而は甚御難澁御差支之趣、格別之御趣意を以

一 此節金子調達之儀、又ハ被仰付候間、御百姓共一同相談之上、多分之先納金ホは有之候得共、此度御難澁之段、奉恐入候二付、又々金子五拾兩上納申候相違無之候

一 此上御暮方餘時御入用ホ何程有之候共、其御知行所之先納金元利相濟候迄は格別御知行所上総布施村御知行所江被申付、是迄其村方江申付間敷候、万一御暮方并餘時御入用金ホ之

文化七年ノ調

八幡宿宗門ヲ記載ス

浄土宗八幡宿称念寺

下総国千葉郡生実村大蔵寺末

上総国市原郡八幡村浄土寺称念寺

浄土宗無量寺

同 右同断

京都醍醐三宝院末

上総国市原郡真言宗 満徳寺

武州荏原郡池上村本門寺末

上総国市原郡八幡宿日蓮宗 妙長寺

下総国千葉郡濱野村 本行寺末 日蓮宗 園順寺

右同断

寺数 五か寺

候迄は少分之儀たり共金子調達方間敷儀聞而被仰付間敷候、右先納金濟方之儀は來寅年・午年迄之間、御物成米百四拾九俵余・々金主方江割合を以相渡可申候、其時々此方江不及窺村役人取斗可申候、為其御下知書相渡置候仍如件

文化二丑年十一月

平井軍右衛門(印)

日向忠兵衛(印)

坂尾覚太夫(印)

八幡村

松田喜右衛門

名主 源右衛門

組頭 庄五郎

同 清次郎

同格 嘉平次

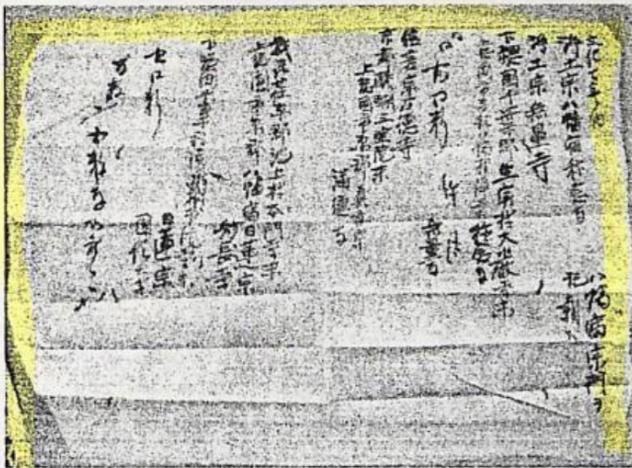
百姓代 五郎八

表書之通相違無之者也

三十郎(印)

鍋之助(印)





大殿御隠居に御用金を差出す

文書：21-25-1
写真：051035

覚

一金五両也

右は大殿様此度可被遊御隠居義候にて被仰付候御用金差上若殿様御手元江被遊御受取候、右金子之義は、米廻段宜敷候節引取可申候もの也

文化八末年十二月

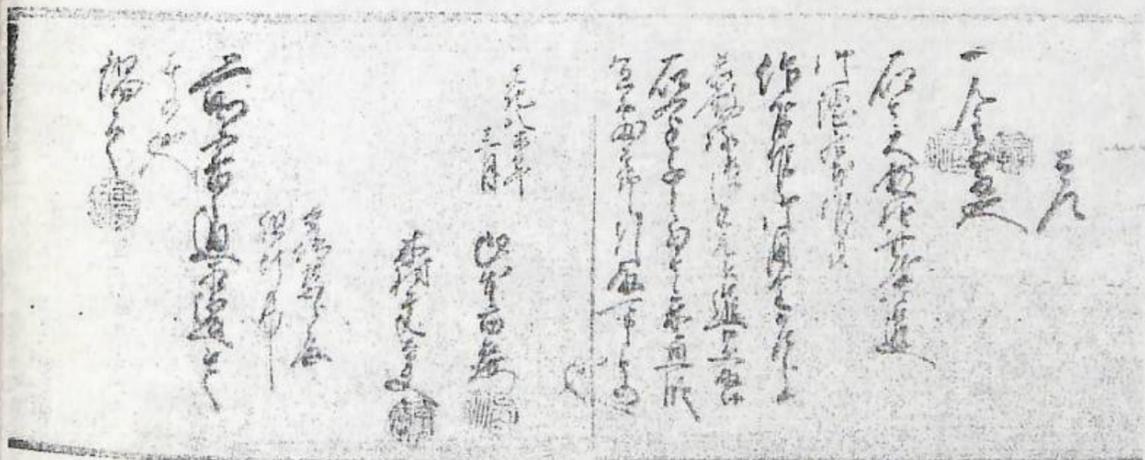
山本而左衛門 (印)

木村文太夫 (印)

寺嶋庄五郎殿

組頭中

前書之通相違無もの也
鍋之 (印)



御用金の請書

文書：26-2-3
写真：056023
~5

御請書之事

- 一金式兩式分也
- 一金式兩式分也
- 一金老兩也
- 一金三兩也
- 一金五兩式分也
- 一金四兩式分也

- 五郎八
- 忠七
- 源右衛門
- 清六
- 新次郎
- 孫八
- 他出二付・印

右は先日御用人様御出役被成候節、書面之通私共江先納御用金被仰付儘二御請仕候、為後日之一札奉差上候 以上

文化九壬申年五月三日

御知行所上総国八幡村
百姓 五郎八 (印)

- 同 忠七 (印)
- 同 源右衛門 (印)
- 同 清六 (印)
- 同 新次郎 (印)
- 同 孫八

御地頭所様御内
御用人中様

前書之通相違無御座候二付、奥印仕奉差上候

以上

- 組頭格 嘉平次 (印)
 - 組頭 喜右衛門 (印)
 - 同 清次郎 (印)
 - 名主 庄五郎
- 文化九壬申年五月二十三日
御地頭所様御内
御用人中様



御地頭所へ上納する

文書：26-2-2a
写真：056021

入置申証文之事

一金 毫・也 但 文字金也
右は御地頭所様御勝手向必至と御差支御難渋二付、御入用金被仰付候処、書面之金子其餘御差出被成、儲二請取、則御地頭所様江上納申処実正也、御返濟之儀は来ル亥年、御物成ヲ以、二元利御返濟可申候
万一及互滞候わば、如何様にも我亦取斗少茂御難儀相掛申間敷候、為後日之一札入置申処如件
文化九壬申年七月

名主 庄五郎 (印)
組頭 清次郎 (印)
同 喜右衛門 (印)
同格 嘉平次 (印)
喜兵衛殿

御用金を上納する

文書：24-26
写真：054056
~7

相渡候書付之事

其村方御名前諸御代官金許・有之候処、度々差紙引立出役亦有之ニ付、御相給名主其外小前百姓迄其許身分之許・金と心得居候而、迷惑之旨毎度申間候ニ付、地頭所許借金ニ相違無之間、以後之申訳之ため此度書面相渡申候、依之不意ニ差紙飛脚亦其村方罷・候節、請書亦以・共是迄之通相心得可・申候 以上
文化十一戌年三月

地頭所 木村文太夫 (印)
寺嶋庄五郎殿

表書之通相違無之もの也

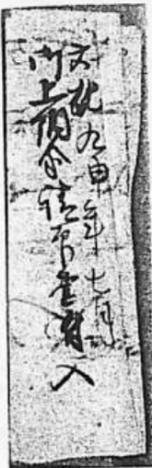
鍋之 (印)

上納金の割付を願出る

文書：11-8-18
写真：042060
~1

乍恐以書付奉願上候

御相給社本示吉知行所上総国市原郡八幡村名主伊惣次奉申上候、私宅・之義去亥九月中小普請組御支配世話取扱役蒙仰セ付、諸式出金亦も有之候ニ付、村高百石ニ付金三兩之積金為可差出旨罷申渡候間、夫々割付申渡・二御相給御百姓・国持・之・割付仕候処、彼是故障申聞出錢不仕甚難儀仕候、依之此度書面ヲ



以奉願上候、御相給社本示吉知行所上総国市原郡八幡村名主伊惣次奉申上候、私宅・之義去亥九月中小普請組御支配世話取扱役蒙仰セ付、諸式出金亦も有之候ニ付、村高百石ニ付金三兩之積金為可差出旨罷申渡候間、夫々割付申渡・二御相給御百姓・国持・之・割付仕候処、彼是故障申聞出錢不仕甚難儀仕候、依之此度書面ヲ
文化十三子年二月

社本示吉知行所

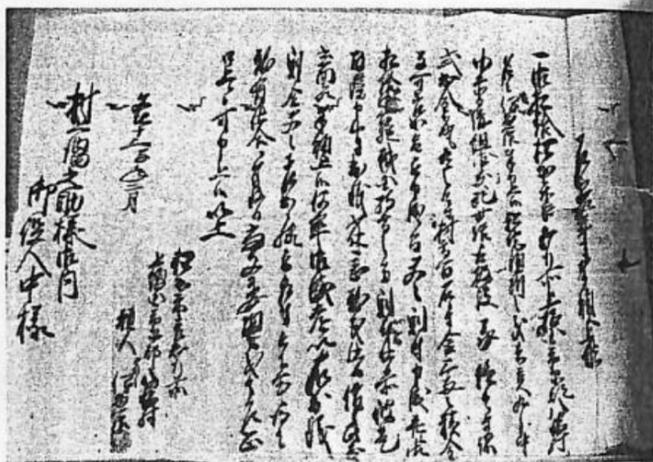
上総国市原郡八幡村
願人 名主 伊惣次 (印)

村上鍋之助様御内

御役人中様

(別紙)

- 一 六百八拾五文 喜平次
- 一 三百四拾四文 源右衛門
- 一 八百三拾三文 喜兵衛
- 一 六百五拾三文 清治郎
- 一 三百拾九文 清八
- 一 売ノ三百七拾三文 清右衛門
- 一 五百八拾九文 喜右衛門
- 一 口費 八百七文



(別紙)



御代官所への納金を申渡

文書：22-106
写真：059064

相渡申書付之事

今般、其村方江御書付相渡し置申候通り、御代官所江納金之儀同所江納金之・八幡村布施村掛合之上、用其外共損失無之様老人成り出府有之議定之通日限無相違納金可有之候、為後日書付相渡申候処仍而如件
文化十三子五月

木村文太夫 印

組頭 中

八幡村 名主
前書之通相違無之候もの也
御地頭所 印

今般御地頭所先納被仰付候二付、書面金子・方にて借用致、先納申処実正也、返済之儀は、来已御年貢米を以、元利返済可申候事、為後日借用証文仍而如件
 文政三辰十二月
 名主 庄五郎(印)
 組頭 清次郎(印)
 同 嘉平次(印)
 文五郎殿

上納金の請取

文書：22-5-2
写真：051052

先納金を借用する

文書：24-20-3
写真：054049

一 覚
 一金 三両也
 右之通借請取御手元江差上申候 以上
 但 八幡村夫金高五両壹分式朱金相納可申候処、村方にて御代官金納借引受・在格別・ホ有之候二付、右を以・は金貳両壹分式朱御用捨被下置候事
 文化十四丑年八月二十七日
 木村文太夫(印)
 寺嶋庄五郎殿

借用申書付之事
 一金 貳分也 但し先納金也
 右は、今般御地頭所先納被仰付候二付、書面金子・方にて借用致、先納申処実正也、返済之儀は、来已御年貢米を以、元利返済可申候事、為後日借用証文仍而如件
 文政三辰十二月
 名主 庄五郎(印)
 組頭 清次郎(印)
 同 嘉平次(印)
 文五郎殿

一 覚
 右之通借請取御手元江差上申候 以上
 但 八幡村夫金高五両壹分式朱金相納可申候処、村方にて御代官金納借引受・在格別・ホ有之候二付、右を以・は金貳両壹分式朱御用捨被下置候事
 文化十四丑年八月二十七日
 木村文太夫(印)
 寺嶋庄五郎殿

出役人の任命を伝える

文書：19-50
写真：047050

上納を申渡す

文書：24-4-2b
写真：053132

御下知状之事
 一 此度其村方江久米多右衛門義出役被仰付候間、同人も御趣意之趣申渡、諸事取斗可申候条、其段相心得可申候事
 文政五年十一月
 木村文太夫(印)

一 覚
 吉川永左衛門様御役所納殘金當月二十日迄地頭所にて・相納候間、左様相心得可・申候。
 亥七月八日
 地頭所内 木村文太夫(印)
 寺嶋庄五郎殿

一 覚
 右之通借請取御手元江差上申候 以上
 但 八幡村夫金高五両壹分式朱金相納可申候処、村方にて御代官金納借引受・在格別・ホ有之候二付、右を以・は金貳両壹分式朱御用捨被下置候事
 文化十四丑年八月二十七日
 木村文太夫(印)
 寺嶋庄五郎殿

一 覚
 右之通借請取御手元江差上申候 以上
 但 八幡村夫金高五両壹分式朱金相納可申候処、村方にて御代官金納借引受・在格別・ホ有之候二付、右を以・は金貳両壹分式朱御用捨被下置候事
 文化十四丑年八月二十七日
 木村文太夫(印)
 寺嶋庄五郎殿

一 覚
 右之通借請取御手元江差上申候 以上
 但 八幡村夫金高五両壹分式朱金相納可申候処、村方にて御代官金納借引受・在格別・ホ有之候二付、右を以・は金貳両壹分式朱御用捨被下置候事
 文化十四丑年八月二十七日
 木村文太夫(印)
 寺嶋庄五郎殿

前書之通相違無之もの也 鍋之(印)

前書相違無也 地頭所(印)

上納を申渡す

文書：24-44-3
写真：055019
~20

飛札・
上之様・御・成

・恐悦可・存候、其・
相替儀

一 三左儀参候旨被申故・年知候代人差出可申候

一 様御分真木代四両余り居候間、可・遣候 処右内老両候無抛御用ニ御遣候成候間、

三両相渡申候

一 舩上納分末多分残り居候間四両共引取申候 二 および不申・乍済・御下ケ・上納正月二相成候わば早々相納可・申候

源右衛門儀如何候哉春ニ相成候わば早々差紙

可・申候

右之条・

十二月二十六日

木村文太夫 (印)

寺嶋庄五郎殿

御役所 (印)

Handwritten document with multiple columns of text and seals.

上納金の請取を確認する

文書：30-132
写真：060003

四月二十一日訴書状同二十四日差・儀申出候上之様・御残

恐悦可相存候、其御知行所相替え方も・段廻・候

一 卯年御勘定目録并皆済金として三両三分二朱也式分四厘二毛 儘落手御手元へ差出申候 則受取差遣申候

一 水野様・百姓之儀存・二候わは 追願急度申立可有之

夫次第にて御同所様江御・迄如何様にも御取斗可有之候左様相心得可申候

右・遣・存・

タツ四月二十四日

岡村武助 (印)

木村文太夫 (印)

寺嶋庄五郎殿

Handwritten document with multiple columns of text and seals.

蔵米納付を指図する

文書：3-50-14
写真：4760
~3

松平大蔵少輔

一筆以啓上候、寒冷相・候得共、各方・被成候店・

存候、然は當十一月分被遣候米式拾五俵着船候わば屋敷内関谷専蔵方江御案内可被成候、尤江戸筋違橋は着船候様御取斗可被下候、尤理兵衛・障り存候、右印

下総多古表二罷在候わば、拙者引請ニ相成候間、霜月中無間違廻米被下候・御頼申候、右得貴意候通筋違迄着船候わば、関谷専蔵方江為御知可・左候得は揚ヶ所人馬御差図可及度、此段得・以上御取斗にて十二月早々・呉々も御訴申候、此段得貴意度右知御座候 以上

十月十九日

浅野又右衛門

八幡村 名主 庄五郎殿

組頭 喜右衛門殿

Handwritten document with multiple columns of text and seals.

田頭所の普請金を受取る
 一 金 壹兩壹分也
 四百四拾貳文
 右は、文政三辰年中我亦持地田畑貴殿方江賄地入
 置候処、此度契合調勘定之上、書面之金子并証文
 壹通儘二受取申候 以上
 文政十三年寅十一月二十二日
 先名主 庄五郎殿
 名主 弥左衛門 (印)

文書：19-121-1
 写真：049042
 ~50

田頭所の普請金を受取る
 一 金 壹兩貳朱 貳百八拾三文
 右は御地頭所御普請二付、積金儘二請取申候
 申六月朔日
 名主 弥左衛門 (印)
 河内屋 庄五郎殿

文書：24-104b
 写真：055150
 ~1

田頭所の普請金を受取る
 一 金 壹兩貳朱 貳百八拾三文
 右は御地頭所御普請二付、積金儘二請取申候
 申六月朔日
 名主 弥左衛門 (印)
 河内屋 庄五郎殿

文政十三年十一月
 名主弥左衛門殿の請取書入
 金子渡証文渡請取入
 田頭所証文返り請取文意出入

田頭所の普請金を受取る
 一 金 壹兩貳朱 貳百八拾三文
 右は御地頭所御普請二付、積金儘二請取申候
 申六月朔日
 名主 弥左衛門 (印)
 河内屋 庄五郎殿

田頭所の普請金を受取る
 一 金 壹兩貳朱 貳百八拾三文
 右は御地頭所御普請二付、積金儘二請取申候
 申六月朔日
 名主 弥左衛門 (印)
 河内屋 庄五郎殿

田頭所の普請金を受取る
 一 金 壹兩貳朱 貳百八拾三文
 右は御地頭所御普請二付、積金儘二請取申候
 申六月朔日
 名主 弥左衛門 (印)
 河内屋 庄五郎殿

先納分の返済方法を申渡す

文書：21-25-2
写真：

書下

一金 拾老兩
右は此度先納申付二付、返済之儀は當十一月収納金にて不及伺引取可申候、依之書下相渡もの也

安政四巳三月 地頭(印)

地頭所内 鳥居六兵衛(印)
由次郎殿



鳥居六兵衛



鳥居六兵衛

年貢米収納などの取極め

文書：19-114
写真：049037
~8

取極議定之事

御年貢収納辻諸夫錢并小作米斗立等速々と相成様殿敷定候取極申候、且近年御値場御用并諸諸御用筋繁餘時入用相嵩候二付、是迄問屋兩年分式百貫文宛之所八十貫文相溜候、都合二百八拾貫文にて御用筋相賄可申議定左之通り
御年貢勤米収納辻之義は十月十日迄二斗立可致事
定候取立日十月二十日晦日十一月十日二十日迄二皆済可致事
諸夫錢之義は其時々之割合無遅滞差出可申事
小作米斗立之義は十月晦日限皆済可致事、若等閑のもの有之候わば取斗方可有之候
招溝・刈穴留埋替・切竹松普請并溝渡横溝橋共餘時掛り
往還筋其外道橋普請村方餘時入用
野馬方御代官都而御殿様方御休泊村方餘時入用
御手代様御迫行御休泊入用問屋賄
諸役人様御通行入用并人員手違ホ之節雇賃或は、御先触手違ホ之節入用問屋賄

急御用人馬雇賃并手違ホ之入用問屋賄
野馬方御役人并御午御止宿昼飯共問屋賄
御取締御休泊并御案内之もの止宿組入用村割餘其問屋賄
但・頭物共・
値嵩屋休泊共問屋賄
忠方町方御休泊并用人預り入用問屋賄
夏御人馬之節四組御宿御泊之節老組は問屋掛り
御上島入用問屋賄并長妙寺立問屋賄
野辺年頭其外共問屋賄
中川土表代問屋賄
三畔松見寺見辺料金取締料共問屋賄
・子搔番船入用問屋賄
出迎入用并當問屋賄
村役人参会入用都而問屋賄
諸出納謝礼問屋賄
隣村一線之義其次第二より相談の上取斗可致事

津船諸・問屋賄
人足・米 草刈村二八幡橋板代は問屋賄
四百文 菊間村二古取場地代問屋賄
式・文 定仕同也 同断
番人 給金 同断
諸浪人并・頭 同断
異国船渡来其外不持之義、出外致候節は村役

人并馬持一同相談の上取斗可致事

村入用立替金之義は小金は問屋立かへ、大金入用之節は、村役人并重立百姓相談の上立替可致事

一 村方勘定之義・・・勿論無抛餘時入用割合之節は、大小之百姓惣代両三人立会被見承知印形居其上割合可致事

前書之通り御公用筋は、勿論諸事賄念入相勤候筈にて一同納得之上、取極議定連印仕候処相違無御座 以上

安政四巳戌月 日

御料所組

名主代 甚兵衛、組頭 利兵衛・幸助 百姓代 喜右衛門

海野様組

名主 卯兵衛、組頭 甚松、百姓代 七五郎

松本様組

名主 長兵衛、組頭 喜兵衛・源次郎、百姓代 佐平次

岩本様組

名主 藏兵衛、組頭 幸左衛門・儀兵衛、百姓代 弥兵衛

水野様組

名主 兵衛、組頭 権右衛門・虎郎、

百姓代 弥介

永井様組

年番名主 佐右衛門、同断 左左衛門・勘次郎、卯兵衛、百姓代 卯右衛門

村上様組

年寄 嘉平次、組頭 孫八・利右衛門・由次郎、百姓代 吉三郎

佐野様組

年番名主 庄右衛門・傳十郎・徳太郎・勘十・小次郎、百姓代 勘三郎

問屋 平十郎、惣代重立百姓 平八・庄兵衛・平右衛門

右之通り議定写し申候名前之もの共一同連印いたし有之候
扣置

當村上御組百姓
當村上様御組百姓

五人組扣帳

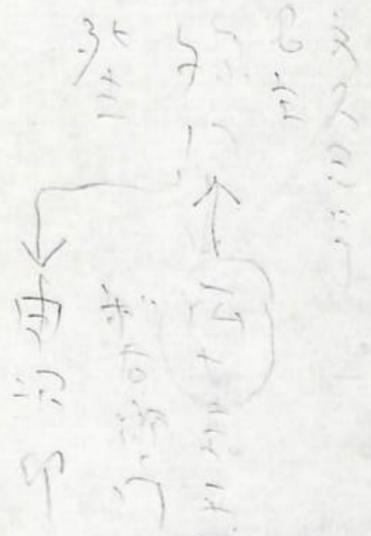


文書：19-133
写真：050004

名主死去に伴い諸帳面の引渡しにつき

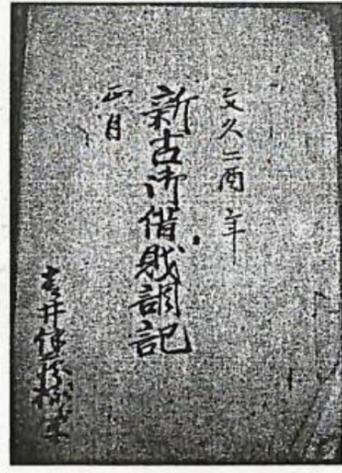
文書：19-147
写真：050033
~4

文久元か辛酉五月七日先名主孫八殿死去二付、
同・候以書面御届奉申上候処、返翰二御水帳名寄
帳其外諸役帳跡被相極候迄、広瀬嘉平治様江右帳
面預り置候様被仰付候二付、広瀬嘉平治并利右衛
門由次郎再三罷出、返翰之趣申聞候処、倅勘助奉
公事親類談事之上相渡度挨拶、其後勘助申・是迄
養父勤役中先納金筋當御物成引宛二差上置申候間、
御下知書無之には相渡兼候趣故、広瀬嘉平治出
府書面・之通り
乍恐以書附奉申上候
御知行所上総国市原郡八幡村役人一同奉申上候、
名主孫八病死二付



新古御借財調記

文久二酉年正月 青井伴二郎様分写

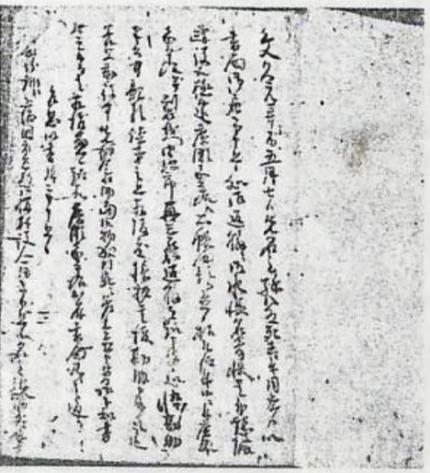
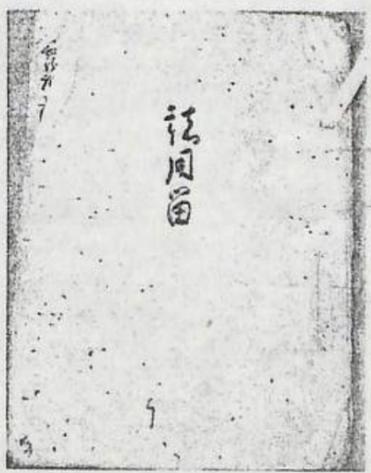
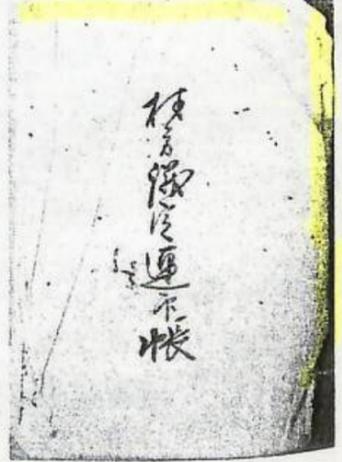
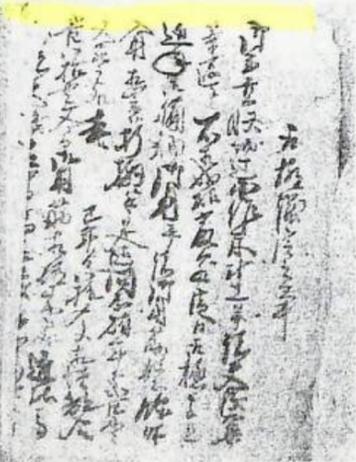


文書：41-25
写真：063079

年貢米収納などの取極め

文書：30-117
写真：059106
~7

取極議定之事
御年貢収納辻小作米計立并諸夫錢取集等区々二右
相成様・定日取極申候、且近年御備場御用并諸
御用筋繁餘時入用相嵩候折柄二付、是迄間屋賄年
分式百貫文宛之処、去ル巳年八拾ノ文相増、都
合式百八拾貫文にて御用筋相賄来候処、近・
(以下写真なし)





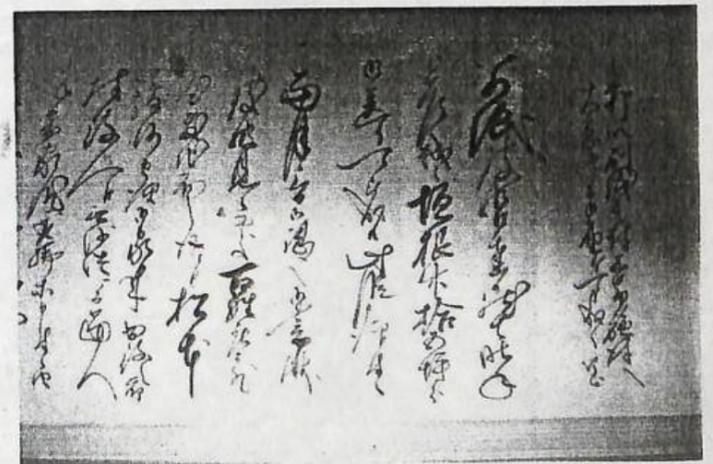
文書：41-18
写真：063069

知行地の管理について

文書：24-2-3
写真：053120

猶以別紙其・上布施村へ
大急キにて御届ケ可成候 以上
前紙致・達候、然ば、昨年被差越候垣根ホ拾五坪
分御送り可被成共此段被仰付候、
一 當月三日御認之御書状致披見候処、百姓庄蔵
屋敷地面之儀ニ付松本駿河守様御家来出役之
節、村役人も無沙汰にて當人呼寄、家・取拂
ホ申付候由、其・先方村役人共より當人呼寄
候得共参り不申候也、右委細被申越候趣承知
致候、右は當屋敷江掛合も無之、左様之儀は・
有之・置儀と相心得申候、若先方より御屋敷
掛合ホも有之候わば、其所ノ表向願出可被申
候、其所ノ松本様方江御掛合可申候、此段御
心得可成候 以上
二月十日

窪田茂左衛門
石川政之丞
寺嶋由次郎殿
外村役人中



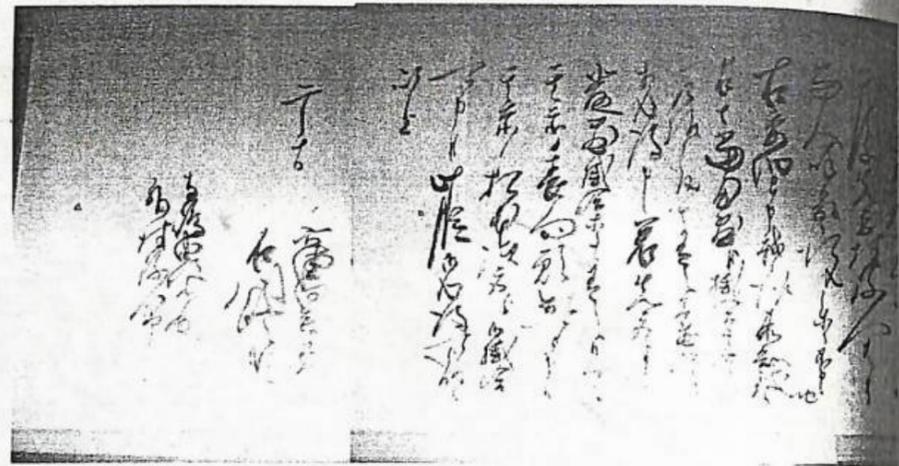
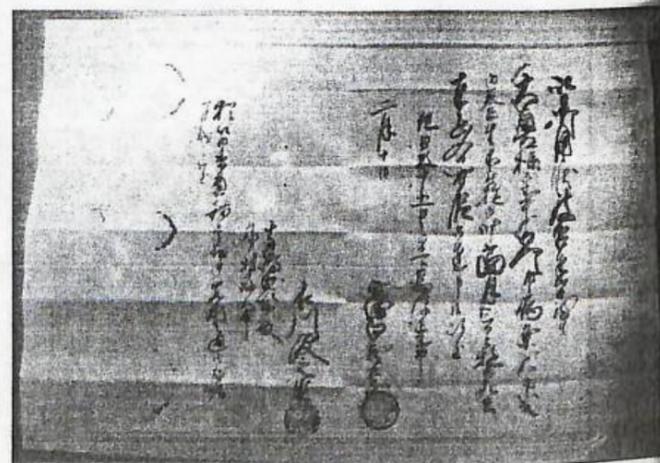
御用状(大奥様御死去)

文書：24-28
写真：054059

以御用状致啓達候、然ば大奥様江事・御病氣之処、
御養生不被遊御叶當月三日被遊御死去奉恐入候、
此段御達申候 以上
但日数十五日之間、可・止事
二月十日

窪田茂左衛門(印)
石川政之丞(印)
寺嶋由次郎殿
外村役人中

猶以御香典・之儀は先例之通心得



上納金の扱い

文書：2-62-11
写真：4304

以御用状致啓達候、然ば諸請借金返納當亥年分年延被成下旨被仰渡候間、・拝借金當年分は上納二不及候間、其段相心得可・申候、
十二月二十三日

窪田茂左衛門
寺嶋由次郎殿
外村役人中

年貢の収納を徹底する

文書：19-26-2
写真：046044

議定一札之事
御年貢収納筋之儀は大切之義二附・
御一・日積取立方七来仕有、然ル処、當子ノ田畑共存外之遺作二附、一同申合・御年貢筋聊無差支積仕来小前末々二至迄、精々申論其上上地惣作之者・心得違二・
若相帰候者有之候節は、其組限り精々致皆済行届候様、達二取斗可申候、依之の念議定一札如件

- 名主 喜右衛門 (印)
- 儀兵衛 (印)
- 源次郎 (印)
- 久平 (印)
- 忠兵衛 (印)
- 由次郎 (印)
- 徳太郎 (印)
- 市兵衛 (印)

上総国市原郡八幡村役人奉申上候、今般、新規御陣屋御取建之儀、御願奉申上候置、尤右御陣屋御取立之場所、廉絵図面相添奉差上候通、聊御差支之儀無御座候、當村江御陣屋御取立被成下置候様奉願上候、以上

乍恐以書附奉願上候

御取建之儀を願出る

文書：2-62-11
写真：4304

知行所からの書状

文書：19-144-18
写真：050021

4406
4304
2-68-11
9406
9304



文書：19-144-20
写真：050027



相談のため出府を願う

文書：24-68-2
写真：055068

先日は、御様子承り候得共、御見限り御役村可有之、乍併御同様同縁之儀、東西不相分子供兩人見捨相成間敷、御立腹之儀は私江御勘弁被成下、是非々々一度御出府之段、伏而奉願上候、仔細は拝顔之上、萬々可申上候、此段

御両親様江も宜敷御傳達被成下可相成は一日茂早
い出張奉希・・・

八月十二日

加藤周蔵 杖

御苗 由次郎様・・・中

猷被遊候趣奉・・・

其後は御 し罷先以貴地御家内様方御様御安御座候事 奉 罷上旨差障御休心、然ば餘二御無沙汰折り心外の至心得共、追々老年歩行甚に難儀之事故、心なく申し暮し通し、去年戦争之砌、親類衆に右 ヲ 御煩遣可参心配仕候得共、好次郎にも一昨年より病氣快方二趣得共、未夕申様 も参り氣遣し兼、右故存外之御無沙汰二罷通之段、御用済 何連

見合快方之方御見敷いたし候様奉得候、私義も

気分勝し候砌は、慈悲 くながらも罷在候、月々 申上度、心事ニ御座候何も面上 乍末仕家内衆中并ニ御親類衆中様へも宜敷御傳達奉希上て家内も一統宜敷可申上様申事ニ御座候 恐惶無之

九月九日

河内屋庄五郎

河内屋御老母様

御家内衆中様

上茂原村

河内屋佐四郎様

八幡 同 庄五郎

借入金滞納分の返済を約束する

文書：19-53
写真：047055

差出申拜見書之事

一、我亦共、去文久二戌年二月中貴殿方より借用致候金子返済方相滞、今般佐々木信濃守様御番所江御訴訟被成候二付、来る七月二十一日御評定所に可罷出旨之御書判頂戴被相附、恐入儘二拜見仕候、然ル上は、御差日四日以前朝五ツ時着御届可申上旨被仰渡承知奉畏候、依之拜見書差出申候、仍而如件

元治元子年六月十八日

村上三十郎知行所

上総国市原郡八幡村

名主

- 年寄 嘉平治 (印)
- 名主 由次郎 (印)
- 組頭 藤右衛門 (印)
- 組頭見習 勘助 (印)
- 百姓代 吉三郎 (印)

勝藏代

甚兵衛殿

貸金取立ての訴訟をおこす

文書：22-98-1
写真：053019

(前文は欠落)

間敷候存、收納金故、元利可相済約定之郷印証文取之用達遣候処、朔月相立候而も返済不仕、是迄数度催促仕候得共、品能申延而て仕埒明不申乍恐難認 仕候間、無是非、今般御訴訟奉申上候、何卒以御慈悲相手名前之者共被召出、滞金元利共不残早々相済與候様、被仰付被成下置度、偏ニ奉願上候 以上

元治元子年六月

堀江町三丁目

- 元七地借
- 勝藏野・住宅 願人
- 万藏煩二付 右仕
- 訴訟人 甚兵衛印
- 家主 元七印

御奉行所様

文書：22-94-2
写真：053011

上記文書と同じ内容
(下書?)

田畑譲渡に伴う諸役上納の扱い

入置申一札之事

一、園頓寺所持之田畑此度壇方一同相談之上、江戸表祐三郎殿方江譲渡二相成申候処実正也、然ル上は、我亦右田畑諸事賄我亦方にて引請、御年貢并諸夫錢等其時々無遅滞相納可申候、万一相滞候節は、小作方より直上納二相成候にても不苦、為後証入置申一札依而如件

元治元子年十一月

証人 権右衛門 (印)

名主 由次郎殿

文書：19-21-3
写真：046025

御請書一同連印帳

御請書一同連印帳

田地争いの円満解決を報告

差上申済口一札之事

- 一 打越地内字煤田二て
- 一 上田 老反六畝拾九歩
- 一 神屋銀太郎様御高之内
- 一 打越地内字・二て
- 一 下田 老反式畝二十四歩
- 一 村上三十郎様御高之内
- 一 打越地内字大・二て
- 一 下田 老反九畝拾老歩

文書：30-78-12
写真：058068
~69

文書：22-62
写真：052097

共、訴答下不仕にて既ニ半左衛門より平兵衛相手取、同人御地頭所様江出訴仕御吟味中之処、市野村名主正作八幡村名主芳次郎右兩人取扱ニ立入、種々談判之上、趣意相直候得共、相手方不承知、不仕・候間、御吟味中訴答我意申張候二付、御手限御取扱不相成趣意以願書御差戻しニ相成、右二付半左衛門儀は、其御筋江可奉出訴存意ニて御差出し相願居候趣及承、松岡寺ニ茂私担之間柄見難忍存、今般出府致し前々扱人之名目ヲ遣借請、尚両御地頭所様江御願申上訴多ニ厚御利解被仰聞、右ニ其 付素親様之儀にも有之候間、両寺より勘弁致し候様申論候処、此上御公訴ニ相成候而は、貴両御地頭所様格別御苦勞相掛恐入候段、訴答相弁江廉々被為相任、双方無申分熟談内済仕候、依而兩人共是迄意趣親類者惣而勿論以來別而睦合相段を被納得與、於扱人共にも一同悦意仕候然ル上は、右一件ニ付重ねて双方共御願ケ間敷義一切無御座候、扱人并村役人共一同連印いたし一札為取替申処如件

元治元子年十二月

- 村上三十郎様御知行所
- 上総国夷隅郡上布施村
- 訴訟人 半左衛門
- 差添人 組頭 善三郎
- 御知行所同郡同村

御用金を分割して上納する誓約

文書：30-63-2
写真：058018

差出申御請書之事

一、今般、御知行所様表御門新規御立替并玄関前敷名石橋等御普請御出来二付、私共江御用金貳万被仰付候処、難渋之折柄二付、當村半金老万差出、殘金老万之義は、當七月盆前迄日延御猶予御 奉頼入候然ル上は、殘金ニ至迄無相違差出御上納可仕候

為後日差出申御請書仍而如件

- 清右衛門 (印)
- 庄藏
- 辰之助 (印)
- 新五郎 (印)
- 桑次郎 (印)
- 善七 (印)
- 宅介 (印)

- ・人 平兵衛
- 差添人 名主 平左衛門
- 扱人 名主 李右衛門
- 同 名主 七郎左衛門
- 堀鉄之丞様御知行所
- 同郡同村 名主 市右衛門
- 水野数馬様御知行所
- 同 名主 彦兵衛
- 御知行所
- 垣生郡市野村 正作印

返済の約定を当事者間で折り合う

文書：2-56
写真：4286
4287

(前文は欠落)

然処、合之上滞高金貳百九拾九兩貳分銀十三匁貳分之處、當金百五拾兩受取、殘金百四拾九兩貳分銀十三匁貳分は、來寅二月二十日限可相済旨村々連印之新規証文取之以來、双方聊無申分右出入熟談内済仕候間、何卒御慈悲を以御吟味御下ケ被成下置候様奉願上候得は、願之通被仰付偏ニ御威光と雖有仕合ニ奉存候、依之為後日済口証文奉差上候、然上は相手一同帰村被仰付被成下置候様、奉願上候 以上

元治二丑年三月二十九日

堀江町三丁目元七地借

勝蔵野 宅方

願人 甚兵衛

家主 元七

五人組 辰次郎

名主無之組合 新案内町

名主 三郎右衛門煩二付代

新兵衛

村上三十郎様御知行所

上総国市原郡八幡村

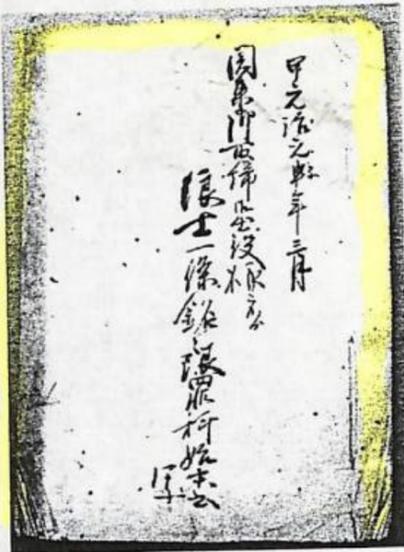
鑑定書 (差出申一札之事)

文書：19-26-1
写真：046048



浪士一錠銘々限罪科始末書 写

文書：32-54
写真：061025



年寄 嘉平治外式人

同知行所

同国夷隅郡上布施村

名主 周兵衛後衆

半左衛門外式人

右煩二付代兼 藤右衛門

差添人 武兵衛

右宿 上野仁王門前御家來屋敷

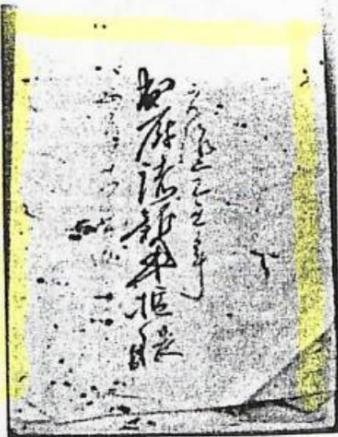
彦右衛門地借

代 新助

御番所様

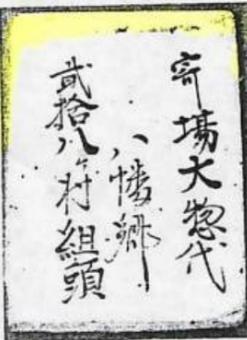
出府諸訴出扣帳

文書：22-4
写真：051050



関東御取締書類留

文書：22-18
写真：051068
~69



盜賊の被害を報告する

文書：22-18
写真：051070
~71



乍恐以書付奉申上候

板倉内膳正領分上総国山辺郡東金町組頭太郎衛門煩二付、弟与兵衛奉申上候

當四月中辺盜難候始末御・二御座候

此段兄左郎衛門儀高拾七石余所持家内構老人・

農間砂糖渡世罷在候処、當四月二十六日夜戸入り

いたし家内一同相臥翌朝起出見候処、表入口之

戸押明有之候二付、打驚家内相改見候処、

見世戸棚錠前捨放し、錢箱江入置候売溜紛失之

品左之通

(中略)

右紛失いたし候二付、全盜賊之仕業と存、其段

領主役場江相届ケ置候、御座候、然ル処御召

捕二相成候、推津村笹宿傳藏仕業之旨、今般御

吟味にて初而承り候儀二御座候

右御尋二付、奉申上候通相違無御座候 以上

御取締 木下成巳平様

穀屋共居宅打毀につき吟味

文書：19-42
写真：047030

差出申一札之事

上総国茂原村治郎吉外六人、同村吉兵衛其外之もの共江相掛り候出入引合之もの共をも、被召出再
應御吟味之上、左之通り被仰渡候
一、吉兵衛左兵衛儀、米価追々高直二相成、及難儀候迎、穀屋共居宅打毀候わば、右二恐怖いたし下落可致旨、相謀り其旨申合、村内妙光寺境内之鐘撞・・・
(以下 写真なし)

年貢不納につき質地を渡す

文書：22-74
写真：052116

相渡申質地証文之事

一 上田 五畝拾式步
一 下田 五畝拾式步
一 覚 村上様御組
右は、當ノ七御年貢御上納差支、書面之田地御水帳二引合、當ノ七年より来ル戌年迄拾ケ年之質地貴殿江相渡し・・・金式拾六兩老分永百五拾文也、只今儘に受取御年貢御上納申出、実正二御座候、然ル上は、御年貢諸夫銭亦貴殿にて御勤可相成候、年季納候わば流地二御座候間、貴殿御勝手ニ 永々御所持可相成候、年季中共右金子調達返済之節は、此証文御引替御渡し可相成候、且右地所ニ付、照合之故障亦一切・・・候、万々一、彼是申者有之候節は、加印之我亦何方迄茂罷出埒明、聊茂貴殿江御損亡御苦勞相懸申間敷候、為後日質地証文仍而如件
慶応元年巳十月

質地主 半五郎
親類証人 次兵衛

徳右衛門殿

前書之通、反別相違無御座候二付、令與印候以上
好次郎印

小川達太郎様 御役所

上総国市原郡八幡村給之役人惣代當御支配所名主
喜右衛門外老人奉申上候、八幡宮社海面地先澤筋之儀、慶長年中より冥加金年々老兩づつ東頭村方より差出し候哉、之旨御尋二御座候、此段、天明年中、金杉村庄左衛門坂本村又兵衛、當村地先海面塩濱開発受地之砌、八幡社前定杭より丑寅之方江居村裏通四百參拾間余、炭薪其外諸荷物船積場として、赤井越前守様御奉行之節、御除被仰付候上は、村方地先海面と相心得候間、天明度已来は勿論其前逆茂、澤代冥加金八幡宮社役方江差出し候覚一切無御座候、御尋二付、此段奉申上候
以上

慶応二寅年三月

上総国市原郡八幡村當御支配所

- 河野伊予守
- 水野図之助
- 永井兼之助
- 村上三十郎知行所
- 松本勝次郎
- 岩本数馬
- 佐野藤次郎
- 右給々役人惣代

上総国市原郡八幡村給之役人惣代當御支配所
喜右衛門外老人奉申上候、八幡宮社海面地先澤筋之儀、慶長年中より冥加金年々老兩づつ東頭村方より差出し候哉、之旨御尋二御座候、此段、天明年中、金杉村庄左衛門坂本村又兵衛、當村地先海面塩濱開発受地之砌、八幡社前定杭より丑寅之方江居村裏通四百參拾間余、炭薪其外諸荷物船積場として、赤井越前守様御奉行之節、御除被仰付候上は、村方地先海面と相心得候間、天明度已来は勿論其前逆茂、澤代冥加金八幡宮社役方江差出し候覚一切無御座候、御尋二付、此段奉申上候
以上

田地を質入する

讓渡田地流地証文之事

- 一 字發只 上田 五畝拾式步
 - 一 字谷端 下田 五畝拾式步
- 此入附米四表半也

右は去丑御年貢御上納二・給・面之田地名寄御寄帳計合反別名前無相違相改、貴・方江三ヶ年季質地相渡置候処、今般、我本勝手ヲ以流地ニ相致、代金參拾兩一分永百五十文只今不殘儘請取申候処、実正也、然ル上は、此地所奉故障ホ一切無御座候方々一彼是申者御座候わば、加印之者引請、聊貴殿江御苦勞相掛申間敷候、御年貢諸役諸夫錢自今以來、茲許ニテ、御上納御勤可被成候

為後日、流地証文、仍而如件

文書：22-72
写真：052114



河岸の使用について

差上申一札之事

當村之儀は、古来より米穀其外売買之諸荷物運送之儀、其時々御都合ニ寄、當村之船ニ而積返り候儀も有之、又は先方之船にて引取参り候儀にも有之、然ル処、今般、荷主方より他売之荷物先方より引取船、南町川岸江参り、荷物積入中右荷物引揚ケ、剩先方船、濱本町川岸江先廻り船陸江引揚ケ置、理不尽之始末難捨置、既其 御筋江御願立可相成之処、各々様方御立入被成下、御利解被仰聞、先非後悔仕、依之只願託入候処、格別之御勘弁を以御聞濟被成下、千万忝仕合奉存候、然ル上は、以來右林之所業一切無御座候様、加印之我ホ引受、急度為相慎可申候、万一心得違有之候節は何様之御取計相成候共、一言之違礼申間敷候

為後日、入置申一札、仍而如件

文書：3-84-1
写真：4895~6
4898

德左衛門殿

流地主 半五郎 (印)
親類証人 次兵衛 (印)

慶應二年寅正月

当人 倅 秀七

新太郎

萬藏

文吉

組合

吉兵衛

御取扱

喜右衛門様
好次郎様
源右衛門様



源右衛門

以此度之義、御有免候被成下、難有仕合二奉存候、然ル上は、已後、右体之所業無之様、私共より當人江急度申聞、為相慎可申候、依之御託一札仍如件

慶應三丁卯年八月

長五郎 (爪印)

親 長右衛門 (印)

林藏 (印)

源助 (印)



文書：19-21
写真：04007

出稼人の世話を依頼する

頼書之事

一 私組下百姓五郎左衛門義、農間渡世染屋致来り候処、今般、其御村方江出稼仕度義、被相願候二付、任其意差遣し候間、出稼中百姓同様御世話被成下、右五郎左衛門義出稼中、何様之儀出来候共御沙汰次第、早速引取其御村方江、聊御迷惑相掛申間敷候、依之、差出申頼書一札如件

慶應三年卯九月 日

菅沼米吉知行所

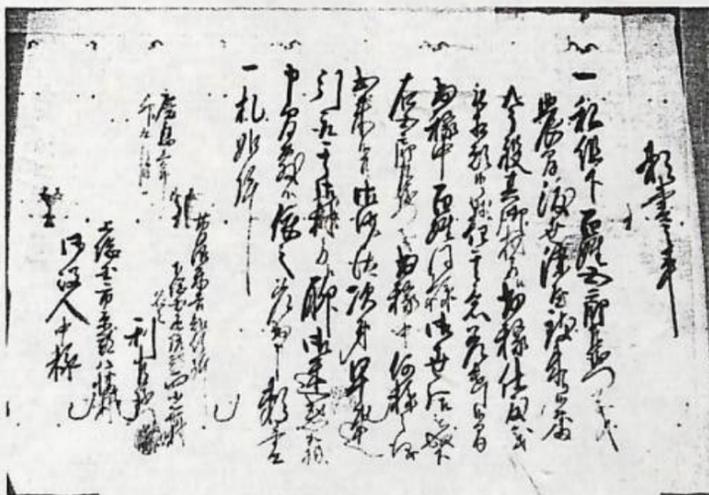
下総国通達郡西芝世村

名主 利左衛門(印)

上総国市原郡八幡村

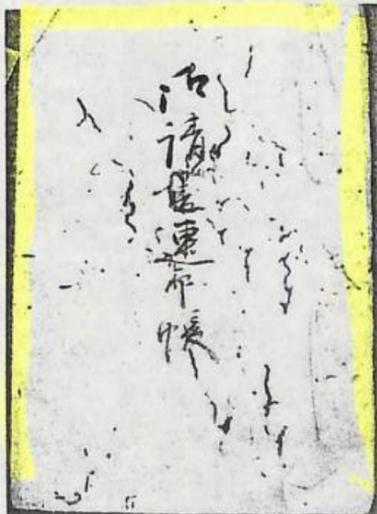
御役人中様

文書：19-35
写真：047004



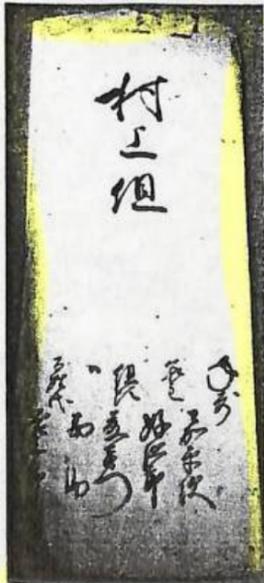
御請書連印帳

文書：19-128
写真：049072



覚

文書：2-39
写真：4263



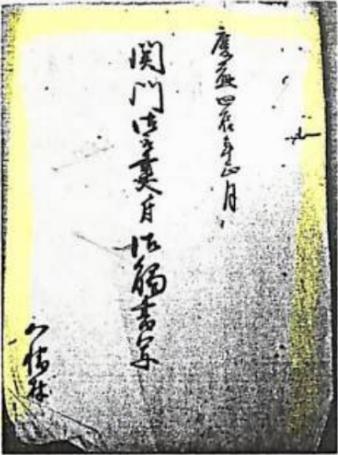
関門事件に係る御触書写

慶応四辰年正月

関門御取 二付 御触書写

八幡村

文書：22-59
写真：052093



御触 (関東御取締出役) 辰正月六日

文書：19-126
写真：049068
~70

市在御締のため、御府内出口々江、関門御取建発別番之通御書附出候間、旅人止宿ホ之節、門合印鑑寄場ケ所二付、拾八枚づつ相渡候
一、大小惣代寄場役人道案内之もの共御用二付、往返いたし候節御関所并口宿関門通り印鑑寄場ケ所二付、先づ拾枚づつ相渡候間、御用之節は、右印鑑所持往返可致、尤不足之分は追って可相渡候

馬喰町御用屋敷三二分御代官方より御用出之もの印鑑所持致候間、為心得寄場々々江右引合印鑑老枚づつ相渡候
右之通相心得、寄場ケ所二付、引合印鑑拾九枚、通り印鑑拾枚づつ請取、寄場下江令請印残り印鑑相添刻付を以、早々順達留りより吉田都助 (以下欠落)



御触(写)

文書：7-17
写真：042020

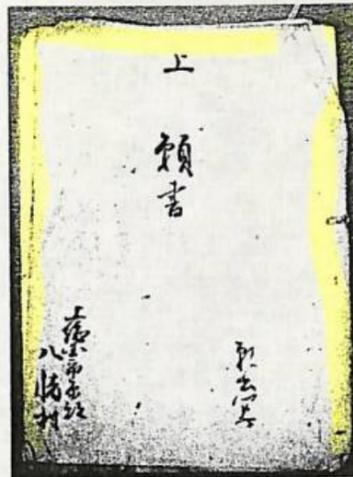
市在取締のため當分之内、御府内出口所々に関門御取建相成、諸士之分は主人又は重役、何方御家来以成人差遣候旨願出、百姓町人は所役人添書持参無之ニおいては出入共一切通行差留置、願出添書は関門にて相改、疑敷仔細も無之候得ハ於同所切手相渡候間、右切手所持不致旅人は御府内は勿論道中筋并在々にも決して旅宿為致間敷、且右改不請押・通行可致と仕成又は旅行切手所持不致旅人は無用捨召捕、若及手向候わば切捨候答二付、尤當時出府途中にて関門通行ニ、不相弁もの共は

當辰年 御賄分上納願い

上願書 願書写

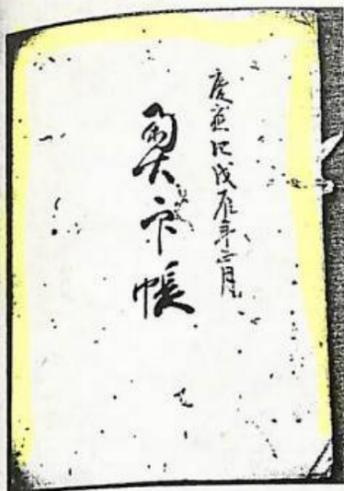
上総国市原郡 八幡村

文書：22-70
写真：052111



奥印帳 慶應四戊辰年正月

文書：19-135
写真：050006



年貢などの上納を約束する

差上申一札之事

一、字老川 見取畑 八畝拾六歩
右之畑御・被下候処、今般、私家再建二相成、依
之御下ケ被成下候様申入候処、御聴濟御下ケ御渡
し被下置、慥ニ請取申候、
然ル上は、當辰年より御年貢諸夫錢御割附之通り
御上納可仕候、
為後日、差入申候処、仍而如件
慶応四戊辰年正月

文書：19-28
写真：046047

利兵衛 (印)

村上様御組 御役人中様



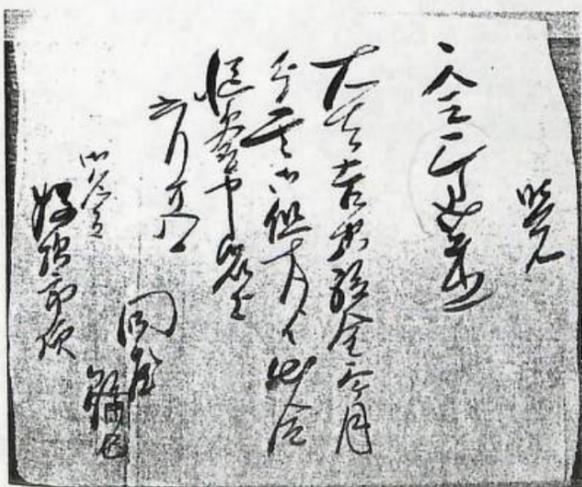
給金を問屋に支払う

覚

一、金三十五両
右は吉書給金三ヶ月分
其御組方より出金儘受取申候 以上
六月二十八日

問屋 弥七
御名主 好次郎様

文書：24-65-4
写真：055048



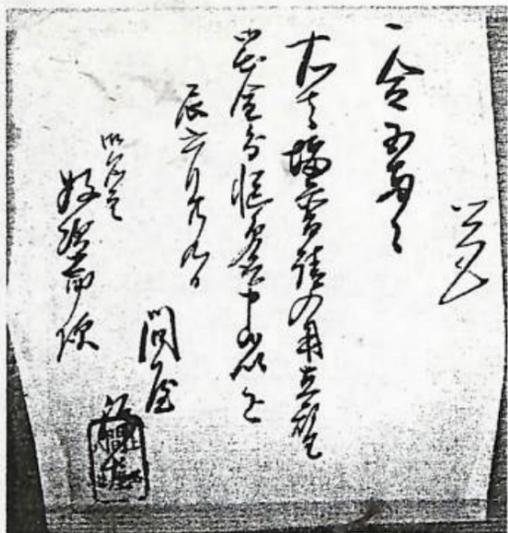
塩普請の代金を立替える

覚

一、金五両也
右は塩普請入用立替御出金分
儘受取申候 以上
辰六月二十九日

問屋 弥七
御名主 好次郎様

文書：24-65-8
写真：055067



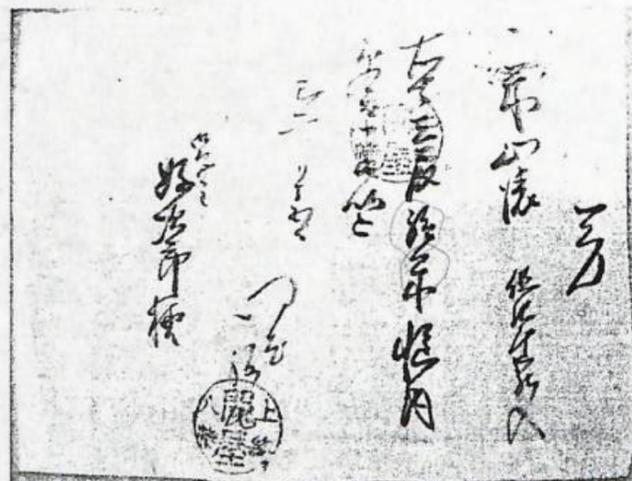
給米受取の覚

覚

一 米 四俵 但 四斗罷入
右は、去辰給米 儘内受取申候 以上
巳二月十五日

問屋 弥七 (印)
御名主 好次郎様

文書：24-69-3d
写真：055091



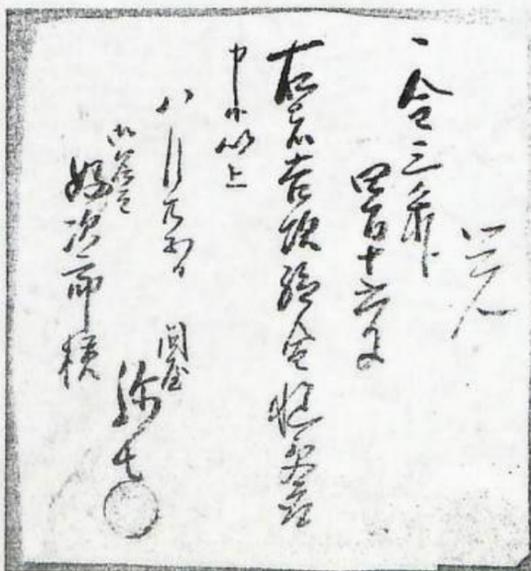
給金の受取の覚

覚

一 金 三朱四百十六文
右は、吉次給金 儘受取申候 以上
八月二十五日

問屋 弥七 (印)
御名主 好次郎様

文書：24-69-3h
写真：055095



白米受取りの覚

覚

一、白米七俵也
右は大村処、久松源五郎、中尾市蔵より預り
来、受取申候 以上
辰(壬)四月

栗原莊次郎 (印)
三浦弥十郎 (印)
小野林之助 (印)
八幡村 名主 好次郎殿

文書：24-65-6
写真：055052

先納分の容認願

願上

上総国市原郡 八幡宿

右之通り當辰年御分先納差出置候間、何れも
格別之以御慈悲、御憐憫之御沙汰奉願上候 以上
明治元辰年十一月

村上三十郎元知行
上総国市原郡八幡宿
百姓代 吉三郎 (印)
組頭 孫八 (印)
同 藤右衛門 (印)
名主 好次郎 (印)
御領主様 御役所

文書：24-36
写真：054068
~9



出府入用金を受取る

覚

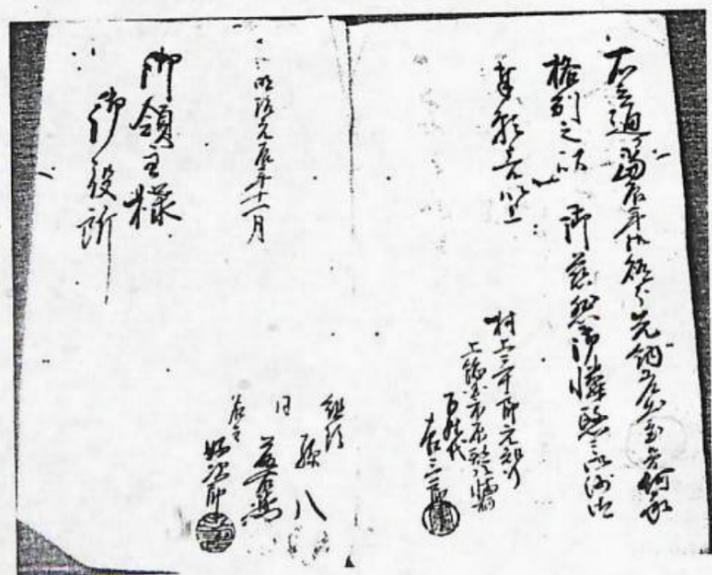
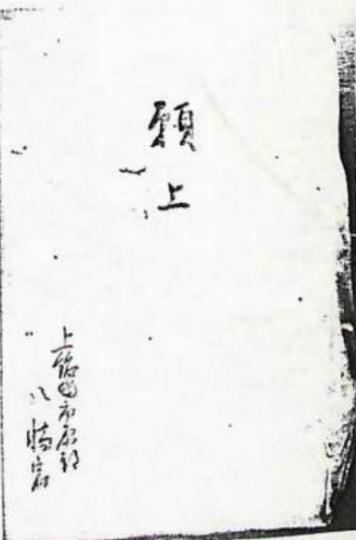
金老兩式分
右は、内谷一条二付、河西様江御札并出府入
用分
繼受取申候
辰二月二十一日

惣代 源七郎
御名主 好次郎殿

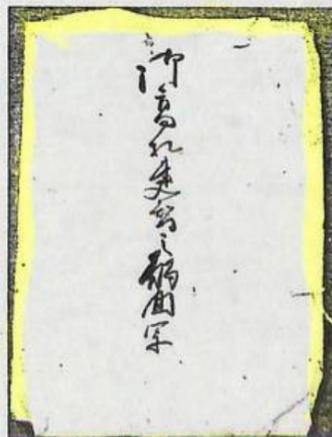
文書：24-65-11
写真：055064



願上



御高札建替之之触届 (写)

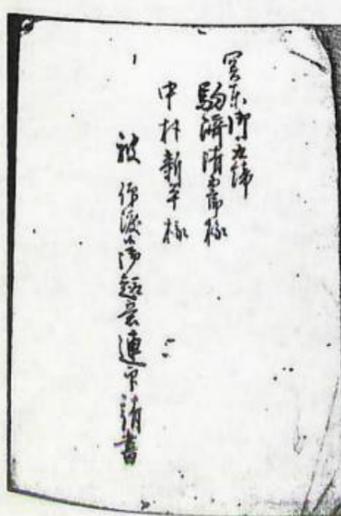


文書：19-41-1
写真：047011

被仰渡御趣意連印請書

関東御取締
駒崎清伍郎様
中村新平様
被仰渡御趣意連印請書

文書：20-3
写真：050037



土地の申告

上

上総国市原郡 八幡宿

一 字神明原 新中畑 五畝拾九步
一 同所 新下畑 式畝步
一 同所 新下畑 老畝式拾式步
一 字川田 新下畑 老畝拾式步
高三斗式升三合 石盛 三
新下畑老反式拾三歩 但老反二付九升取
取米九升六合九夕
(中略)
御用地二相成申候
右之通り取調奉申上候 以上
明治元辰年十二月

名主 久平

民政 仮 御役所

一 字神明原 新下畑 式畝步 持主 佐右衛門
高二斗 石盛 三
取米 老升八合 但 老反二付 九升取
御用地候相成

文書：30-52
写真：058001
~3

上
 右側
 左側
 好次郎
 明治元年

右側
 左側
 好次郎
 明治元年

上
 右側
 左側
 好次郎
 明治元年

転居先に連絡する

人別送り状之事

永五組下百姓五郎より倅吉助義村方ニおいて農間
 諸品染方渡世仕候処、土地不相當にて、右職は行
 届兼妻子共引連、其御村升利宜敷候哉、御地江罷
 越右渡世仕度段、数度被申出候間、任其意ニ出稼
 中、當方人別相除候間、其御村方御人別ニ御書加
 被下度願入候、尤當人出稼中、何様之儀出来いた
 し候共、其御村之御規則を以、宜敷御取計之段、
 是又、頼入候、依之人別送り書一札差入申所如件

明治元年辰十二月

御料 知県事支配所

下総国層逆嵯郡西小笹村

名主 佐兵衛 (印)

上総国市原郡八幡村 御役人中様

文書：30-78-17
 写真：058078

収納米引当御賄を先納する

上 願書

上総国市原郡 八幡宿

都合 米 五拾貳俵

金 九拾三兩壹分式朱分

式百三拾式文

右之通り辰年御収納米引當御賄先納仕候 以上
 明治二巳年三月

村上三十郎元知行所

上総国市原郡八幡宿

名主 好次郎 (印)

官谷県御役所様

文書：19-76
 写真：048008
 ~9

上
 右側
 左側
 好次郎
 明治元年

上 願書

上総国市原郡
 八幡宿

御支配についてお願い

乍恐以書付奉願上候

御支配所上総国市原郡八幡宿役人一同奉申上候、今般、天朝御料二相成可為御支配方被仰渡、冥加至極難有仕合奉存一同安心罷在候処、當節二至り御大名領分二相成候哉之風聞有之、全右様にては組合親郷之當宿、私領相成、外村々天朝御料之村方二相成候にては、自然親郷之意薄く相成、諸御用向は勿論、組合村々取締方不都合之義茂可有之哉と心痛罷在候、且又當宿之儀は、房総南国入口喉咽・肝要之駅場二有之、諸御用向堅く、海岸付にて、御支配村々御年貢津出し宿にて、運送其外天朝御用相勤候宿方二付、為冥加新規浦運上永拾五貫文づつ、年々奉納、永々御支配宿二被仰付、諸御用向無差支相勤度候間、何卒以慈悲願之通御開濟被成下置候様、偏二奉願上候

右宿 名主

知果事

御役所

文書：19-92-5
写真：048049~51

心懸き御用申上候
御支配所上総国市原郡八幡宿役人一同
御年貢津出し宿にて運送其外天朝御用相勤候宿方二付
為冥加新規浦運上永拾五貫文づつ年々奉納永々御支配宿二被仰付諸御用向無差支相勤度候間何卒以慈悲願之通御開濟被成下置候様偏二奉願上候

向て御用申上候
御年貢津出し宿にて運送其外天朝御用相勤候宿方二付
為冥加新規浦運上永拾五貫文づつ年々奉納永々御支配宿二被仰付諸御用向無差支相勤度候間何卒以慈悲願之通御開濟被成下置候様偏二奉願上候

伍組制度の運営

文書：19-105-5
写真：046051~3

- 一 五家を伍とし、二伍を什と須、三什を老組として組頭老人を置候事
- 一 伍を相組候上ハ、冠婚葬祭礼吉凶共々伍限り相集り、何事も簡易世話致し無用之失費無之様可致事

連事

- 一 村方餘時出入亦出来候節ハ、伍にて評開致、若、伍にて難聞候物は什ニ相談を通し、什にて不聞義は、組頭に申出、組頭にて難聞義は連印之上當役所江可申出候

右何組と申は、此国にても左より有之候事、乍去名而已(のみ)餘りて其実行わすれしては組員中は固より一族と相心得、乍て病氣ホどは介抱いたし患難などは相救、善を勸免悪材相懲し、若、老人悪事ホの分、伍も全ク 儀二付、平生むつまじく伍を一家とし堅相守、乍て吟味糺し、合風偏手厚二相成候様取締可申候事

房総知果事 役所

辰十二月三日

房総知果事

御陣屋の建築費用を負担する
御頼申一札之事
今般、御陣屋御取建二相成り哉二付、右之段偶々御取合セ之儀、御頼申上候処、御開濟被下置奉存候、然ル上は、諸入用何程ニても無滞出銀可仕候、依之頼一札差入申処如件

文書：19-34
写真：046051

十月

- 名主 忠兵衛 (印)
- 同 儀兵衛 (印)
- 同 久平 (印)
- 同 佐右衛門 (印)
- 同 源右衛門 (印)
- 同 徳太郎 (印)

御名主 好次郎殿

御陣屋の建築費用を負担する
御頼申一札之事
今般、御陣屋御取建二相成り哉二付、右之段偶々御取合セ之儀、御頼申上候処、御開濟被下置奉存候、然ル上は、諸入用何程ニても無滞出銀可仕候、依之頼一札差入申処如件

御陣屋の建築費用を負担する
御頼申一札之事
今般、御陣屋御取建二相成り哉二付、右之段偶々御取合セ之儀、御頼申上候処、御開濟被下置奉存候、然ル上は、諸入用何程ニても無滞出銀可仕候、依之頼一札差入申処如件

山年貢を受取る

一 米 六升五合 覚

當巳山御年貢也

代金式分老朱分 式百七拾式分

右之通り、儘二受取申候、為念如斯御座候

明治二巳年十二月二十二日

高倉村 名主 平内

八幡村 川内屋殿

文書：22-101
写真：053037

当村人の転居に伴い人別を移す

送り一札之事

拙寺檀那五郎左衛門儀、代々真義真言宗にて聊勝・無御座候、右當人儀商売向勝手二付、其御村江罷越、渡世致し度、當人親類一同、達而願二付、寺院之通送り差出し申候、以来御村方人別ニ差加へ被下度、病死候節は御菩提所にて御寺法を以御取置被成下度候、尤其節、拙寺方江御届ニ及不申候、

為其送り一札如此二候 以上

明治三年巳四月

下総国通瑛郡西小笹村 妙福寺(印)

上総国市原郡八幡村

文書：30-123
写真：059119



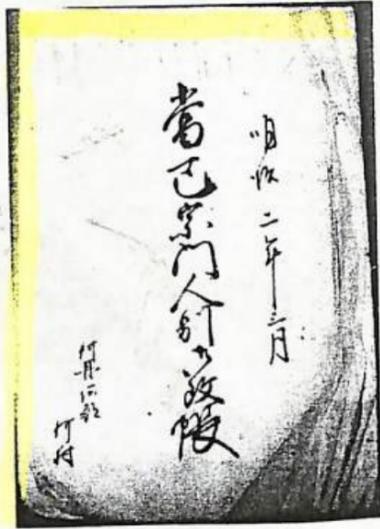
文書：41-12
写真：063063

伝達の言付け

文書：22-99
写真：053081

宿助郷助成に係る借金の返済

文書：24-
写真：0550



別紙之一枚ハ、佐倉組長へ御届ケ、組下相触候様、御伝達被下度候也
未七年六月二十五日

寺島殿

宮吉

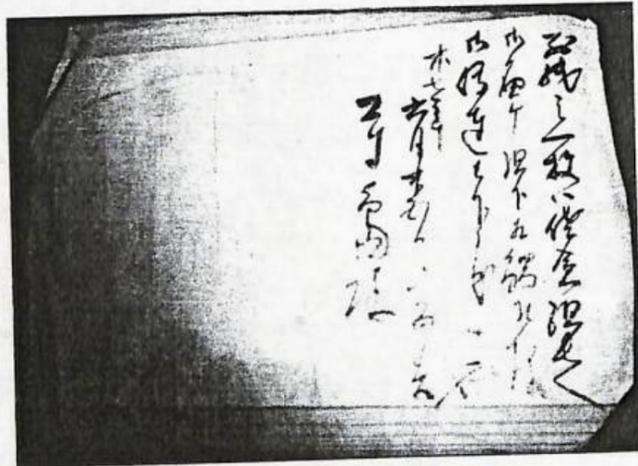
覚

上総国市原郡八幡村 庄五郎
一 辰より酉迄五ケ年割・ 元金 拾兩
一 高分四拾兩 利金六兩 外金老分
未正月二日是利
右之金子宿助郷助成御貸候
元利書面之通受取候
以上 太郎
未二月二十五日

川崎平次郎代 名和政兵衛(印)

向嶋幸兵衛(印)
佐藤三次兵衛(印)

125



知行所への書状

文書：24-68-7
写真：055077
~81

以飛脚、一筆啓上仕候
追々晴氣相増弥御村役人様御壯健ニ被為遊御勤致
段、大悦なる可く奉存候、然ば、異国船・来二付、
誠ニ騒敷相成、然ル処、下拙者出府仕、御地頭様
罷出段之御様子之模様御・奉申上候処、此節二：
時節就ては拙村御用状御越相成候段、御座候趣、
幸在府驚入、其御村方より御役人様當月十日迄
二・御出府二付候相成候義之様子、御・様に
て御体を遊
承仕候得共、當十三日夕方迄の御出府之御様子無
之、殊之外御・様にも御・且御・有之次第
二より御隠居様方々御様子御村方江御・二
相成候哉に難斗、二も御触も有之趣承り、畢竟
急飛脚御差立、御村役人様御呼出し相成可申被仰
開候得共、御當節御・御・二付、夫人清蔵殿
も差出兼申趣被仰聞、十三日夕方、御証頂戴帰
いたし可申故二付、十四日・仕候、
直急御用状御届被仰付候得共、何分十五日は、社
郵祭所寺奉恐入候義ニ御座候得共、他出し不仕、
依之、當十六日御用状為持飛脚差上申候間、
申候わば早々御出府相成候様、前段石川様より拙

江戸表との連絡を頼む

文書：24-68-7
写真：055077
~81

急便りヲ以、啓上いたし候、然ば去月二十一日出
立にて御迎之人老人差遣申し候処、其村方共は、
日々立寄、直様、布施村江立越し趣意にて、書状
にて御申越被下候間、右之段承知いたし候
尤、雨天勝二日送り、今まで一向沙汰無之、甚々
心配仕候、且亦、昨今之処にては、船橋行徳両宿
江惣方之軍勢操出し、往来六ヶ敷、右ホ之取沙
汰二途中より布施村江御引返之義存候とは相心得
候得共、何分御沙汰無之、何連ニ布施村役へ取斗
申候事哉、一向相分り兼、同二十一日差遣申し候、
使之者若し二十六日五刻御分家迄飛脚之者兩人共
其俣にて是又手間取申事相分兼、右二付急使ヲ差
遣候旨、其村方へ一儀御頼申候、右使の者直様布
施村江立越申し候間、當節柄迷惑には有之候得共、
其村方より急使の者老人御差出被下、若亦、急船
の便り御座候はば舟に御届二付宜敷可相成は其村
方へ仕立飛脚老人江戸表迄御差下、右江・敷布施
村より其村方迄、御越二相成候て又々御引戻二被
成候哉、又は其村方迄御着二不相成候て長柄山長
南辺より御引戻相成申候事哉
書面ニ仔細御認何分ニも急便にて御申越候分此段
呉々も御頼申入候、右可得貴意早々以上

壬(文外廿年)月四日

者江・とも御伝有之、此段、御承行當郷騒擾・
不可被下候、
誠に々々取急・書乱文御高免・奉願上候、早々
以上

三月十六日

名主 寺嶋由次郎
村上平左衛門殿
同 因太郎殿
外御役人中様

地頭所にて 石川表之丞
八幡村 名主 寺嶋好次郎殿
組頭 菊地藤右衛門殿
同 渡辺勘介殿

尚以此使直様布施村江立越申上、前文之次第二付、
其村方より敷急便ニテ御申越被下候、此段呉々も
御頼申入也

知行地からの引揚げを手配

(前文あり)

御座恐悦至極奉存候、然ば、先般態々を以、御家様皆々様方御引揚ケ相成候趣、御迎御座候処、四月二十一日當村江乱妨人共四拾人にて、表向は村役人共江強談二付之金子被・取、夜は六七人・身を携、殊之外村方一統恐怖、在候二付、右之段布施村御出者に訴申上候所、御見合二相成、然ル処、右乱妨人共は、被 捕召捕候相成候分も有之、又々御飛脚着二付、其段布施村江御通達可申上候所、當月二日當村江御着二相成、此段、左様御承行乃趣上候、將又、先達ては、御武家様方船宿中山邊江凡千人余繰相成、官軍向合居二付、騒敷二右之段、奉申上候処、乗船御定二相成、三日村船相雇乗組沖迄出帆致候処、大風にて立帰り申候、然ル処、三日下総八幡船場邊にて、戰爭二相成、鹿野皇 より 早行続、夫々同所繰出し、小前百姓共に至迄人馬被召出悪事只と之處、出来不申 可也之人々、當村通行二相成、誠二大乱二相成、御上様方御宿相動罷在可にても安心不仕、此段免 奉申上候間、 したも奉願上候以上

同日四月四日

名主 寺嶋好次郎

文書: 24-65-9
写真: 055058

以飛札、啓上いたし候、然ば去ル二十六日御分家之飛脚差遣申候節、御荷物別紙書之通、積戻申候様、書面を以申遣候処、今夕積送り無之、殊二追々其最寄騒敷相成候趣、且、行徳邊は、焼拂候由承り、若右様之事有之候わば、御荷物不残其村方江相預申候二付、実々當惑之事二存候、右二付、今日亦々使之者老人差遣候間、急便之舟江、積立可申候、御大切之御品々預り置候得共、其村方にては心配可申と存候、右故取急積立可申候、尤運賃之義は、精々御立替御頼申候、不足分は、江戸着にて舟頭江直様相拂可申候間、當節柄場合二付、何分取急積立可申候、右御頼可得貴意早々 以上
壬四月五日

石川政之丞(印)

八幡村

名主 寺嶋好次郎殿

組頭 菊地藤右衛門殿

同 渡辺勘介殿

石川政之丞様

御座恐悦至極奉存候、然ば、先般態々を以、御家様皆々様方御引揚ケ相成候趣、御迎御座候処、四月二十一日當村江乱妨人共四拾人にて、表向は村役人共江強談二付之金子被・取、夜は六七人・身を携、殊之外村方一統恐怖、在候二付、右之段布施村御出者に訴申上候所、御見合二相成、然ル処、右乱妨人共は、被 捕召捕候相成候分も有之、又々御飛脚着二付、其段布施村江御通達可申上候所、當月二日當村江御着二相成、此段、左様御承行乃趣上候、將又、先達ては、御武家様方船宿中山邊江凡千人余繰相成、官軍向合居二付、騒敷二右之段、奉申上候処、乗船御定二相成、三日村船相雇乗組沖迄出帆致候処、大風にて立帰り申候、然ル処、三日下総八幡船場邊にて、戰爭二相成、鹿野皇 より 早行続、夫々同所繰出し、小前百姓共に至迄人馬被召出悪事只と之處、出来不申 可也之人々、當村通行二相成、誠二大乱二相成、御上様方御宿相動罷在可にても安心不仕、此段免 奉申上候間、 したも奉願上候以上

御座恐悦至極奉存候、然ば、先般態々を以、御家様皆々様方御引揚ケ相成候趣、御迎御座候処、四月二十一日當村江乱妨人共四拾人にて、表向は村役人共江強談二付之金子被・取、夜は六七人・身を携、殊之外村方一統恐怖、在候二付、右之段布施村御出者に訴申上候所、御見合二相成、然ル処、右乱妨人共は、被 捕召捕候相成候分も有之、又々御飛脚着二付、其段布施村江御通達可申上候所、當月二日當村江御着二相成、此段、左様御承行乃趣上候、將又、先達ては、御武家様方船宿中山邊江凡千人余繰相成、官軍向合居二付、騒敷二右之段、奉申上候処、乗船御定二相成、三日村船相雇乗組沖迄出帆致候処、大風にて立帰り申候、然ル処、三日下総八幡船場邊にて、戰爭二相成、鹿野皇 より 早行続、夫々同所繰出し、小前百姓共に至迄人馬被召出悪事只と之處、出来不申 可也之人々、當村通行二相成、誠二大乱二相成、御上様方御宿相動罷在可にても安心不仕、此段免 奉申上候間、 したも奉願上候以上

御座恐悦至極奉存候、然ば、先般態々を以、御家様皆々様方御引揚ケ相成候趣、御迎御座候処、四月二十一日當村江乱妨人共四拾人にて、表向は村役人共江強談二付之金子被・取、夜は六七人・身を携、殊之外村方一統恐怖、在候二付、右之段布施村御出者に訴申上候所、御見合二相成、然ル処、右乱妨人共は、被 捕召捕候相成候分も有之、又々御飛脚着二付、其段布施村江御通達可申上候所、當月二日當村江御着二相成、此段、左様御承行乃趣上候、將又、先達ては、御武家様方船宿中山邊江凡千人余繰相成、官軍向合居二付、騒敷二右之段、奉申上候処、乗船御定二相成、三日村船相雇乗組沖迄出帆致候処、大風にて立帰り申候、然ル処、三日下総八幡船場邊にて、戰爭二相成、鹿野皇 より 早行続、夫々同所繰出し、小前百姓共に至迄人馬被召出悪事只と之處、出来不申 可也之人々、當村通行二相成、誠二大乱二相成、御上様方御宿相動罷在可にても安心不仕、此段免 奉申上候間、 したも奉願上候以上

文書: 24-65-9
写真: 055058

以急舟啓上いたし候、然ば、中御迎の人差出申候所、尤當節、場所ヲ御見合、と存候、若其方二飛脚候者滞・申、何連成共御取斗掃府可申候処、御頼入候、且御荷物之義相成丈取急キ舟積被下候、尤運賃は江戸方拂申之宜敷御取斗頼入候、猶、書面乍御手数敷布施村江御届ケ下候段、御頼申入候、右取急キ早々 以上
壬四月五日夜

石川政之丞

八幡村 名主

寺嶋好次郎殿

急出帆...は別段・上...之荷物御積送り被下候

壬四月五日

御座恐悦至極奉存候、然ば、先般態々を以、御家様皆々様方御引揚ケ相成候趣、御迎御座候処、四月二十一日當村江乱妨人共四拾人にて、表向は村役人共江強談二付之金子被・取、夜は六七人・身を携、殊之外村方一統恐怖、在候二付、右之段布施村御出者に訴申上候所、御見合二相成、然ル処、右乱妨人共は、被 捕召捕候相成候分も有之、又々御飛脚着二付、其段布施村江御通達可申上候所、當月二日當村江御着二相成、此段、左様御承行乃趣上候、將又、先達ては、御武家様方船宿中山邊江凡千人余繰相成、官軍向合居二付、騒敷二右之段、奉申上候処、乗船御定二相成、三日村船相雇乗組沖迄出帆致候処、大風にて立帰り申候、然ル処、三日下総八幡船場邊にて、戰爭二相成、鹿野皇 より 早行続、夫々同所繰出し、小前百姓共に至迄人馬被召出悪事只と之處、出来不申 可也之人々、當村通行二相成、誠二大乱二相成、御上様方御宿相動罷在可にても安心不仕、此段免 奉申上候間、 したも奉願上候以上

八幡村 名主 寺嶋好次郎殿
組頭 菊地藤右衛門殿
同 渡辺勘介殿

石川政之丞
八幡村
寺嶋好次郎殿
名主 寺嶋好次郎殿

一、名印刀たん
一、跡より横送り申候夜着包
右之品同様御取斗、御積戻御頼申候 以上

文書：24-65-7b
写真：055055

石川政之丞
八幡村
寺嶋好次郎殿
名主 寺嶋好次郎殿

一、名印刀たん
一、跡より横送り申候夜着包
右之品同様御取斗、御積戻御頼申候 以上

文書：24-65-7b
写真：055055

送り荷物を積戻す

送り荷物の内訳

石川政之丞 (印)
八幡村
名主 寺嶋好次郎殿

此内角婦世萬藏二ツ入込申候処
式番 小付 も之の箱
本萬藏 二丁
紙の明荷 二丁
右之通御渡可届候 以上

壬四月十五日
石川政之丞 (印)

石川政之丞
八幡村
寺嶋好次郎殿
名主 寺嶋好次郎殿

一、名印刀たん
一、跡より横送り申候夜着包
右之品同様御取斗、御積戻御頼申候 以上

文書：24-65-7b
写真：055055

知行地からの引き揚げ

送り荷物の内訳

以使、啓上いたし候、然ば道中御家族様方御引揚之節、其村方江御逗留二相成候処、前後戦争之場合二付、菊間村へ御立退二相成申候由、飛脚之者立帰、右之義申聞候二付、俄出立御一統様御引戻申候、其御立寄申而一急応挨拶可申上候、惣方人数込入候而、菊間村より直様御引戻申上候、右彼是御世話二相成及舟江積入之荷物も、来ル十一日御屋敷着二相成申候間、御安意可被下候、且其邊は追々静二可被成候様、風聞二有之、大安心申候、又々別紙御荷物御取戻二相成候……
御頼申入候、右は此度使の者差遣申候、仍如件可候わば、右可得貴意早々 以上

壬四月十五日
石川政之丞 (印)

八幡村
名主 寺嶋好次郎殿
組頭 菊地藤右衛門殿
同 渡辺勘介殿

石川政之丞
八幡村
寺嶋好次郎殿
名主 寺嶋好次郎殿

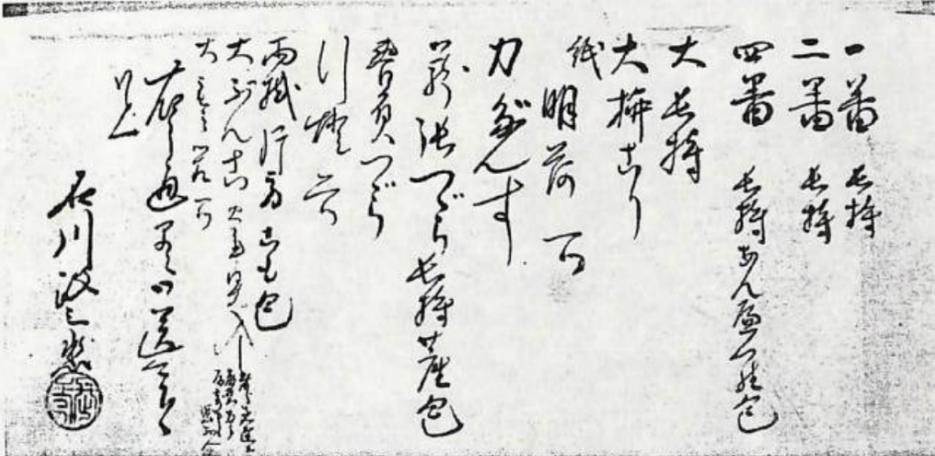
一、名印刀たん
一、跡より横送り申候夜着包
右之品同様御取斗、御積戻御頼申候 以上

文書：24-65-7b
写真：055055

送り荷物の内訳

- 一番 長持
 - 二番 長持
 - 四番 長持あん遍羅包
 - 大長持
 - 大柳こり
 - 紙 明荷 一ツ
 - 力だんす
 - 籠張つづら 長持蘆包
 - 背負つづら
 - 行燈 二ツ
 - 両掛片方 こも包
 - 大ぶんど 火事具入
 - 大もの箱 一ツ
- 者より先達而、藤右衛門
方ニテ取寄申候張不・
右之通早々御送可下候 以上
石川政之丞(印)

文書：24-65-7c
写真：055056



飯米の先納を頼む

急御用状ヲ以、啓上いたし候、然ば、先日中便船
二而申入置候飯米先納之御頼申入、尤日限亦迄申
入置候御承知候得共、猶又、申乍様々申遣にて無
相違当月二十五日頃の着ニ相成候様量り頼申候、
且布施村ニは御用書御届被成候可被成奉存候
尤布施村は・急場當面有之、右ニ付此度飛脚差置
申候
右御頼之儀、日限之通無相違、差・候、此段可得
貴意候 以上

四月十九日

石川政之丞(印)

八幡村

名主 寺嶋好次郎殿

書面之通可得其意・
三十(印)

文書：19-144-11
写真：050022

知行からの書状



文書：19-144-14
写真：050021

知行所の書状(末尾のみ)

(前文なし)

前書之通、相違之無者也

三十(印)

八幡村

年寄 広瀬嘉平次殿

名主 寺嶋由次郎殿

外役人中

文書：19-33
写真：047008



先名主死去に伴う届出

文書：4-2-1
写真：4903
~5

文久元年西五月七日先名主孫八殿死去二付、同九
日以書面御届奉申・青岳
蔵様石川政之丞様より御返触御水帳
帳跡役取極・迄

広瀬嘉平衛・江右帳面預り置候……・広瀬嘉平衛并……・清次郎孫八……・返触之趣申聞趣、倅勘助奉公中、親類・上相渡度挨拶、其後勘……・迄養父孫八勤役中・筋當御触成引……置申候間、御下知書無之候ては相渡故……・書面・之通り乍恐以書附奉申上候
知行所上総国市原郡八幡村役人一同奉申上候名主孫八病死……・上候処、御水帳名寄帳其外諸・帳預り置候様……
(後文の写真なし)



書状

……且又、証書さし出し可申候処、病氣……
にて、外居候儘、宜敷被申二付・先は右之段、御返事迄、大略・免相成候、乍末毫御村役人様、宜敷差上有成候
以上
丑三月五日処

根村 百姓 所右衛門
名主 井上周太郎
八王多村 御名主 寺嶋好次郎殿

文書：2-36
写真：4257

村之高反別帳を取調べ

文書：19-1214
写真：049061
~2

・申上兼候得共、昨日より村之高反別帳取調二相掛候得共、外之出向多二て、写物ホ手廻り兼、頓と當惑仕候、右失敬に都合二相成・御手柄・頼申・に私参。



書物留（訴につき御返答）

乍恐返答書届奉申上候

上総国市原郡八幡村八幡惣代名主喜右衛門庄右衛門宇兵衛一同奉申上候、此度、同国同郡下野村外式拾式ケ村惣代潤井土村名主庄七外式人より、私共相手取訟上候者右二十三ケ村組合の内、潤井土村、東房州上総大田喜町其外江通行之駅場にて御用多人馬勤方・其上夏御・借用之節、正宿にて其外何事二不寄、諸御用右二十三ケ村高四千石余割合相勤候二付、迎二困窮
(以下写真なし)

文書：41-23
写真：063075
~6



此書は... (Faded handwritten text)

知行所からの書状

文書：41-24
写真：063077
~8

以急、然ヲ得貴意候先以
御上々様方益御機嫌罷遊御時恐悦至極之仕・奉
存候、次々御知行所無別条御借具ニ被思召候、然
ば、當御地五月下旬〆麻疹流行其処追々相弘る、
当節ニ至り候而は、御府内一統之事ニ而、既ニ御
上ニ而も御奥方様御若様御二男様御召抱之女中老
人も不残、御中小姓御中間に至ル迄、右同断ニ而
日々ノ御差支殊ニ莫大成、御物入ニ而御手元も御
差支之次第、依之、無余儀其村方江金三兩也非常
餘時御頼之思召出され候、一鉢當年之処は、餘時
不仰付旨・而御申渡し有之候得共、無拋御場合ニ

付、御頼被遊候間、即刻御間ニ合セ可被成候、何
分當節之処日々之雜費御入用多く、実ニ御差支不
忍見奉恐入候次第第二御座候間、相成丈ケ取急ギ右
ノ・御上納可被成候、且又、前文之通りニ而第一
人不・ニ而日々御勤向之御差支ニ相成候間、其村
方并布施村之内ニ而御侍ニ可被召使人鉢之者老人
ならびに御基所御膳焚ニ可相成者老人早々相撰差
出し可被成候、実ニ當節之処ニ而は、江戸中相尋
相当而も御召抱之者無御座候間、も相成丈ケ取
急ギ差出可被申候、一鉢諸家様ニ而は当節限り夫
人并名主組頭之内出府被仰付御召使之向も有之次
第、農繁之時節役人共御呼出ニ而は
村方差支も可相成思召ニ付、前条之通りニケ村ニ
而式人見立、早々差出被申渡し候、当節は、御用
人兩人限り御中小姓之喜左衛門不快ニ而引中外老
人は流行病ニ而御・ニ相成、女中不残御・ニ而老
人も方々之御・御自身ニ而御病人様方之御菓之御
世話〆御夜加其外三度之御催事之御世話迄御自身
ニ遊し候次第、萬一非常等之節、御立退之御供仕
候者も無之、御心配ニ被思召候、右ニ付、人物
之儀ハ御ゆるし被遊候間、正直成者相見立即刻御
用状・次第差越被申べ・候、一鉢御手前方御呼出
しニ相成、其節之御用向ホも可被仰付之処前条申
入之通り御・し被遊其儀無之、依之早々式人差出
可被申候、尤も永御奉公被仰付候次第第二無之、當
節之御場合ニ付、被仰付候間、此段能御考切被成

候様被仰付候、右之段得貴意如・御座候・
一 式ケ村ニ而式人と申越候得は、遠方之処諸事
向も行届・候儀ニ付、八幡村ニ而は其国所御膳焚
相勤候者老人差出し可申候、御侍之儀ハ布施村ニ
而相撰差出し可被申、夫々とも兩村ニ而相談之上、
何連ニ而も不苦被思召候得共免も角取急ギ一日も
早く差出し候様嚴重ニ被仰付候、此段得貴意候
以上
猶、以申入候此御用状着次第、早々布施
村江相届ケ可被申候、前条大急ギ之儀ニ
付、昼夜何時ニ不限差立可申様、是又嚴
敷被仰付候、右得貴意候 以上
七月二十二日
石川政之丞 (印)
浅井作兵衛 (印)
八幡村
名主 寺嶋由次郎殿
外 役人中
書面之条々可得貴意もの也 (印)
二啓 申入候来り八月十日頃迄ニ、由次郎どの
合出府可被成候、別段心配之御用向ニ・無・候得
共被仰置候筋有之候間、右日限頃ニ無遅滞出府可
被成候様、被仰付候・得貴意候 以上

以急、然ヲ得貴意候先以
御上々様方益御機嫌罷遊御時恐悦至極之仕・奉
存候、次々御知行所無別条御借具ニ被思召候、然
ば、當御地五月下旬〆麻疹流行其処追々相弘る、
当節ニ至り候而は、御府内一統之事ニ而、既ニ御
上ニ而も御奥方様御若様御二男様御召抱之女中老
人も不残、御中小姓御中間に至ル迄、右同断ニ而
日々ノ御差支殊ニ莫大成、御物入ニ而御手元も御
差支之次第、依之、無余儀其村方江金三兩也非常
餘時御頼之思召出され候、一鉢當年之処は、餘時
不仰付旨・而御申渡し有之候得共、無拋御場合ニ

御上々様方益御機嫌罷遊御時恐悦至極之仕・奉
存候、次々御知行所無別条御借具ニ被思召候、然
ば、當御地五月下旬〆麻疹流行其処追々相弘る、
当節ニ至り候而は、御府内一統之事ニ而、既ニ御
上ニ而も御奥方様御若様御二男様御召抱之女中老
人も不残、御中小姓御中間に至ル迄、右同断ニ而
日々ノ御差支殊ニ莫大成、御物入ニ而御手元も御
差支之次第、依之、無余儀其村方江金三兩也非常
餘時御頼之思召出され候、一鉢當年之処は、餘時
不仰付旨・而御申渡し有之候得共、無拋御場合ニ

書状 (表)
文書：19-121-4
写真：049063

書状
文書：19-92-4
写真：048048

河内や好次郎様
松江
御書面拜見候わば、先刻御光来之処、上候、
御立替之義は、今度は割合之相成不申候、
其義は、戸堀沼半一糸惣代未事帰村趣之儀に
て、組合村之割合不相成候分、土江不出承り、

七月十三日

以急、然ヲ得貴意候先以
御上々様方益御機嫌罷遊御時恐悦至極之仕・奉
存候、次々御知行所無別条御借具ニ被思召候、然
ば、當御地五月下旬〆麻疹流行其処追々相弘る、
当節ニ至り候而は、御府内一統之事ニ而、既ニ御
上ニ而も御奥方様御若様御二男様御召抱之女中老
人も不残、御中小姓御中間に至ル迄、右同断ニ而
日々ノ御差支殊ニ莫大成、御物入ニ而御手元も御
差支之次第、依之、無余儀其村方江金三兩也非常
餘時御頼之思召出され候、一鉢當年之処は、餘時
不仰付旨・而御申渡し有之候得共、無拋御場合ニ

御上々様方益御機嫌罷遊御時恐悦至極之仕・奉
存候、次々御知行所無別条御借具ニ被思召候、然
ば、當御地五月下旬〆麻疹流行其処追々相弘る、
当節ニ至り候而は、御府内一統之事ニ而、既ニ御
上ニ而も御奥方様御若様御二男様御召抱之女中老
人も不残、御中小姓御中間に至ル迄、右同断ニ而
日々ノ御差支殊ニ莫大成、御物入ニ而御手元も御
差支之次第、依之、無余儀其村方江金三兩也非常
餘時御頼之思召出され候、一鉢當年之処は、餘時
不仰付旨・而御申渡し有之候得共、無拋御場合ニ



米雜穀有高取調書

文書：2-55-2
写真：4284



土地明細

文書：19-121-4
19-121-5
写真：049054

- 川田 新下畑 六畝歩 同人持
 - 川・新下畑 貳畝拾歩 藤右衛門持
 - 川端 新下畑 七畝九歩 村田清吉
- 名主 好次郎組

- 一字神明後 新下畑 五畝拾九歩
- 名主 久平組
地主 好次郎持



一同所同式畝

報告する

書上

村上組

文書：24-70
写真：055099
~100

一、雜穀 白米・

質物

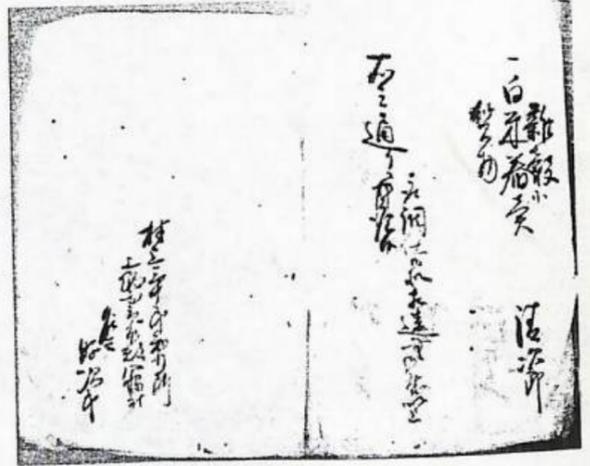
清次郎

右之通り取調仕候処相違無御座候 以上
村上三十郎元知行所

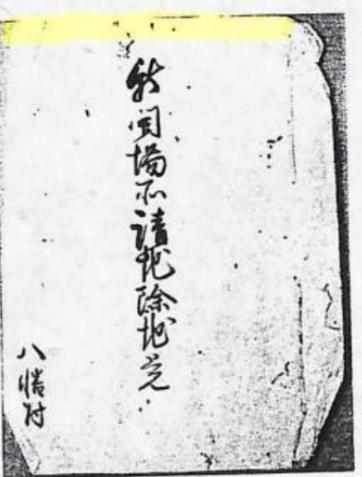
上総国市原郡八幡宿
名主 好次郎



新開場所請地除地 覚



文書：19-66
写真：047075



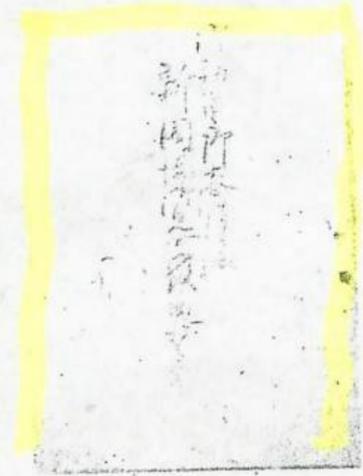
新開場御見分御改御廻村

御勘定御奉行様

新開場御見分御改御廻村之節

文書：41-19
写真：063070

村組入用割合帳

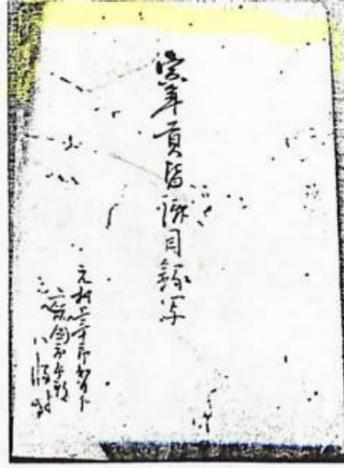


文書：2-25
写真：4246
~7



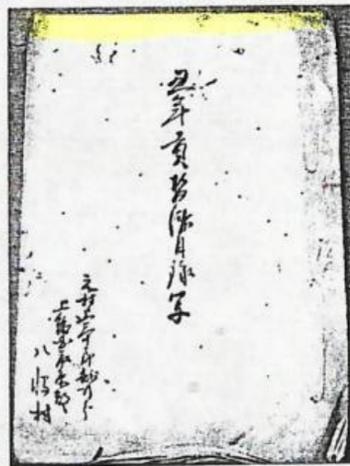


文書：2-60
写真：4292
~3

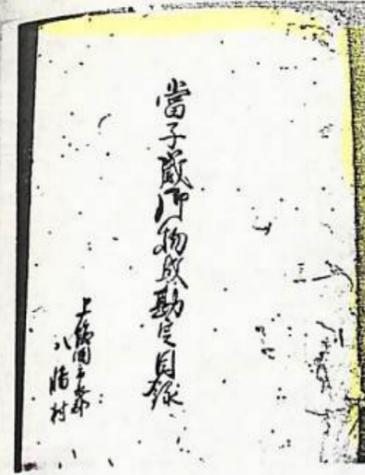
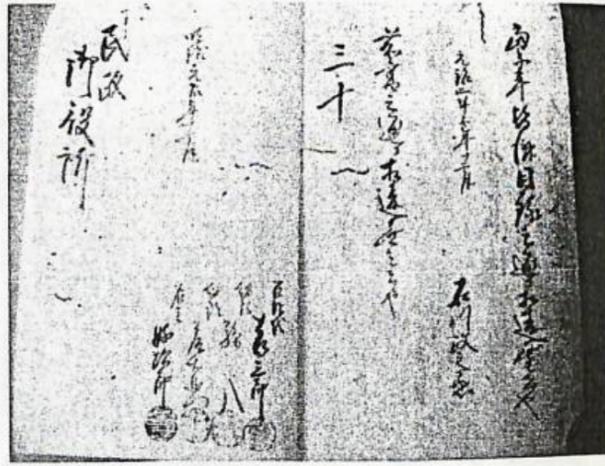


文書：30-60
写真：058014

年貢皆済目録 写



文書：19-132
写真：050003

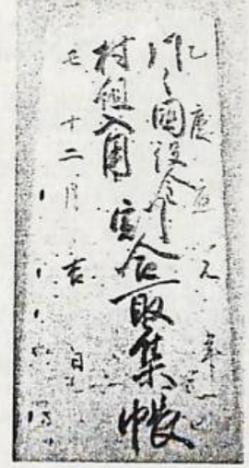


文書：26-6
写真：056037

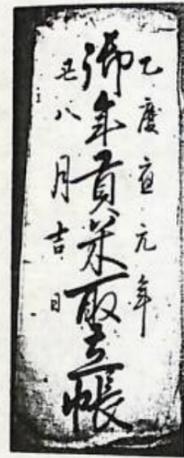
御物成勘定目録



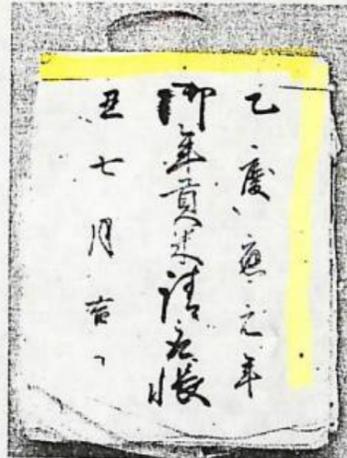
文書：20-4
写真：050038



文書：2-50
写真：4273



文書：41-7
写真：063058

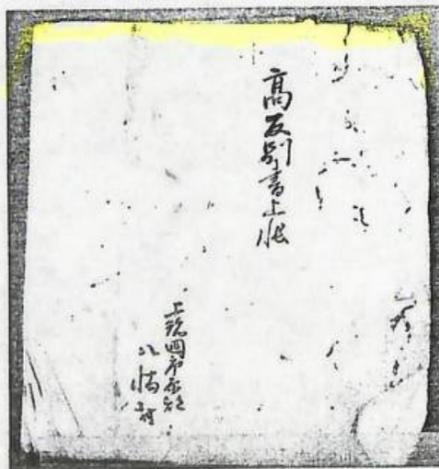


文書：19-131
写真：050002

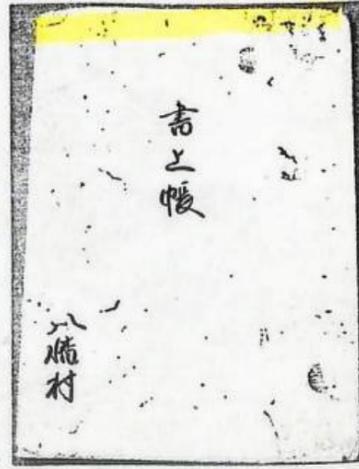
御年貢米請取帳・取立帳



文書：22-63
写真：052098

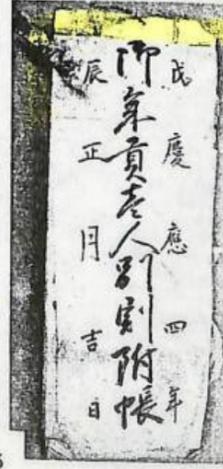


文書：22-89-1
写真：053003

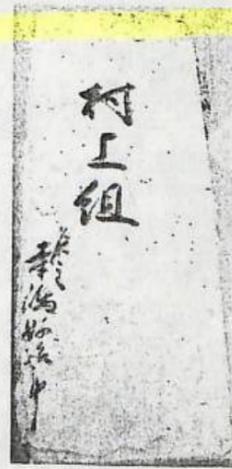


文書：19-138
写真：050008

高反別書上帳 写



文書：22-90
写真：053005



村



御年貢米老人別割付帳

文書：2-34
写真：4254
~5

兵賦代金(金納) 割合帳
銃隊割合取集帳

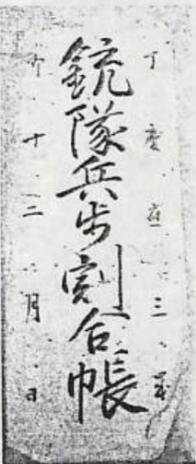
文書: 24-97-1
写真: 055138



文書: 2-51
写真: 4274



文書: 2-45-1
写真: 4264~5



文書: 2-52
写真: 4275

銃隊兵歩金を申付ける

文書: 2-20
写真: 4239

一寅八月分と十二月迄銃隊
金参拾五兩 老分式朱銀式五五分
一當丑兵歩
金五兩也銀式拾匁
加え 金四拾兩三分也
右は御地頭所様と銃隊兵歩
金納被仰付當村と納上々
此処々金参拾兩也上納
内金式兩式分式朱
銀式匁五分
當卯七月割合集
引 金式拾七兩 老分老朱也
銀老式分五厘

用水和撃証文

文書: 1-3
写真: 0100

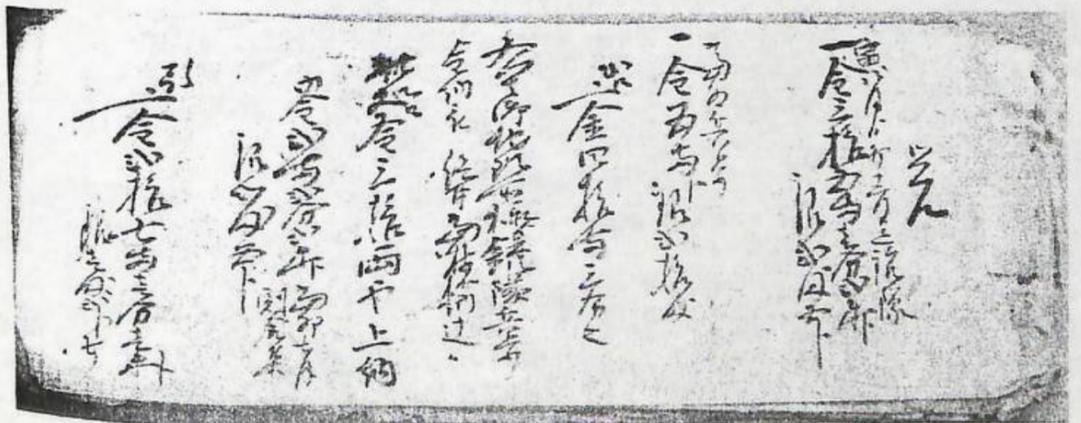
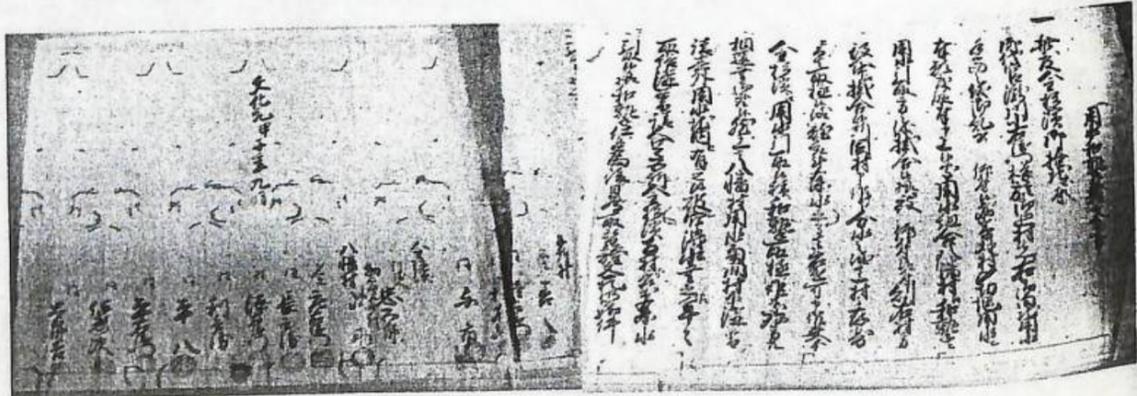
用水和撃証文之事

此度、金杉濱御検地二付
御代官滝川小右衛門様、旅御廻村先右御田地
用水手當之儀、御札被仰付候処、草刈村へ切
堰用水二奉願度段奉申上候処、用水組合八幡
村江和撃二用水引取方之儀、掛合候様被仰付
候二付、則右村方役人中江掛合候所、同村申
候は分水之儀は一村之存寄にては取極候儀、
難取斗、余水之分は取遣可申候、夫より金杉
濱江用水引取候積和撃取極候処、双方共相違
無御座候、然上は、八幡村用水菊間村下溝普
請其外用水地内二有之候破穴洩水無之様、
年々取繕溝普請人足、五所金杉濱兩村より差
出、余水引取候様、和撃仕候、為後日為取替
証文一札仍而如件

文化元甲子年九月

五所 名主 善八(印)
同 権右衛門(印)
同 与市(印)
金杉濱 引請人 忠五郎
惣年寄代 次助(印)
八幡村 名主 庄右衛門(印)
同 長兵衛(印)

同 源右衛門(印)
同 利兵衛(印)
同 平八(印)
同 平右衛門(印)
同 伊惣次(印)
同 太郎吉(印)



堰請負証文

文書：1-10
写真：0109

堰請負証文之事

一 上総国市原郡草刈村川堰村々より、同国八幡村、菊間村、古市場村、下総国千葉郡生実村、濱の村、村田村、古市場村、右七ツ村用水にて御聞之儀、當寅年より巳の年迄四ヶ年我ホ請負申所、相違無得共、尤普請料之義、一ヶ年二米三百俵宛斗老四升入二て御年貢同様之米年々十一月中不残請負宛二て書面之事、普請請負中・実正也、用水之義は、二年中より八月中は無滞相償にて候、先繰之内、用水渡し不申候わば、右請負料代米少も申請ケ間敷候

一 堰請負場所は平井戸指より三郎左衛門殿及汲上請負之内にて名主右之内、破損仕候わば我木入用を以、・早速普請仕、相渡し可申候、尤人足之義ハ何時成共、無滞罷出可申処、為後日堰請負証文仍如件

文化三寅年二月

上総国市原郡草刈村

堰請負人 名主 居太郎印

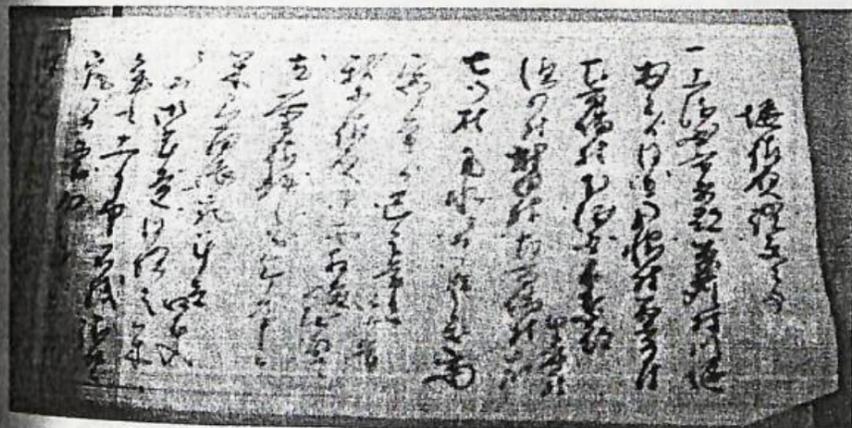
組頭 善次郎

同 十郎左衛門

同 八衛門

七ヶ村 御名主御組頭中

同 次郎左衛門
同 百姓代弥七
同 庄藏
同 善七
同 新八
同 台経



用水引渡しを訴える

文書：2-70-20, 1
写真：4432~8

乍恐以書付申上候

上総国市原郡八幡村名主庄五郎奉申上候、水野石和守様外御五給村役人惣代平十郎伊惣次より当年之儀は渴水にて、用水間ニ合兼、昼夜共村役人共夫々田場江罷出、一ヶ村一畦之姿ヲ以、百姓共江致差図・私儀議定ヲ破候間、用水引渡兼、其段掛合候にも不當之挨拶・用水等閑いたし外村役人のみにて精々・得共、私百姓共申付、不取用候間、一村一畦之姿ヲ以用水引渡置候、勿論村も取締等無差支様仕度趣御訴申上候、書面御読聞被成始末御・二付、乍恐相違之廉、逸々尤ニ奉申上候此段、私儀議定相破、用水引渡有掛合候にも不當之挨拶および候其外品々申立候得共不取...

(以下欠落)



堰普請証文

差出申証文之事

中川堰前々、上総国八幡村菊間村右両村田地用水御座候処、此度、堰普請料トして米四斗入七拾俵にて中川堰川坂橋迄請負普請仕処、相違無御座候、尤、堰普請之儀は、二月中ニ仕立、八月初迄、用水無差支引渡可申候、普請出来兼候、又ハ、用水差滞候わば、下請之もの共引請、聊、用水差支無之様可仕候、万一、普請差支、用水差滞候わば、堰普請料米七拾俵請取申間敷候、為後日、差出申証文依而如件

文書：24-14
写真：054035

文化三寅年二月

菊間村 請負人 六右衛門(印)

下請人 畑次郎(印)

〃 太茂右衛門(印)

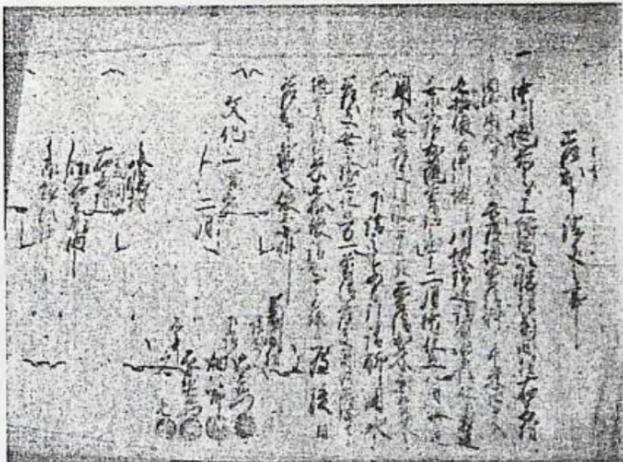
名主 元七(印)

八幡村

菊間村

右両村 御名主衆中

御組頭中



村用水の不当使用を訴える

乍恐書付を以御訴奉申上候

上総国市原郡八幡村六給村役人惣代水野石和守知行所名主代平十郎松本米吉知行所名主伊惣治一同奉申上候、當村之儀御給々入会之土地柄故、諸御用向は、勿論用水村用向共、都而、村役人共一同評議之上取斗致来、然ル処、當年は春中より渴水故、苗代水時節より引続き情々致罷在候処、此節至り候て、用水何分にも間ニ合兼候ニ付、昼夜共村役人共夫々田場江罷在、一村一鉢之姿ヲ以、百姓共江差図致候処、御相給村上鍋之助様御知行所名主庄五郎義、兼而一同評議之上百姓共水引渡方申付乍置、議定破談、勝手俣之存知寄を以取斗仕候ニ付、用水引渡兼候間、其段難心得、外村役人より掛合致候得共、不当之挨拶ニおよび既ニ當四ヶ年已前丑年中渴水之節、村役人一同情々致候御、議定相破不當之儀共申募候ニ付、其節も御訴奉申上と奉存候処、扱人立入、已来右鉢之儀致間敷之一札受取・候得共、平生村方取締方之妨も相成、手余ものにて、此節右鉢之義仕出、不容易儀故、早速御届奉申上と奉存候得共、彼是致候には、渴水之時節、用水之儀片時も難等閑、先は其俣差置外村役人而已ニ而、情々仕候得共、庄五郎支配百

文書：26-1
写真：056015
~20

近多分御座候儀は、外村役人申付方御座候儀は、之候は、情々行届兼而ケ様之場所も追々多分罷成奉忍入候間、何共難捨置、此段御訴奉申上候、尤御相給之内、阿部駿河守様御分は佐貫表江別紙願書を以罷出候間、相成候わば御一同御評議被為遊一村一鉢之姿ヲ以、用水引渡方は勿論村方取締水差支無之様仕度、偏ニ奉願上候以上

文政四巳年七月

水野石和守知行所

名主代 平十郎

永井鐘次郎知行所

名主代 太右衛門

岩本石和守知行所

名主 平八

阿野銓太郎知行所

名主代組頭 幸平

佐野藤三郎知行所

名主 吉兵衛

松本米吉知行所

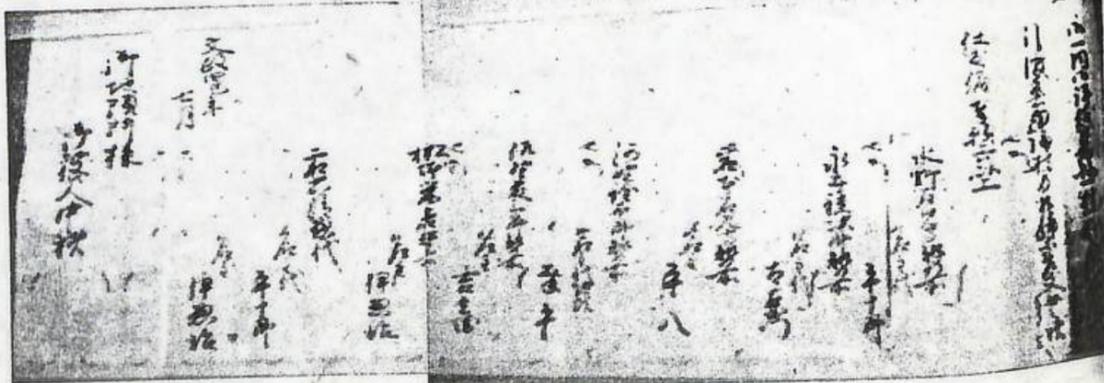
名主 伊惣治

右六給惣代

名主代 平十郎

名主 伊惣治

御地頭所様 御役人中様



村用用水の使用を主張する

乍恐以書付御訴訟奉申上候

村上鍋之助知行所

上総国市原郡八幡村

訴訟人 名主 庄五郎

文書：29-23
写真：057005
~9

難澁出入

永井桂次郎様御知行所

相手 同村 名主 太右衛門

水野石見守様御知行所

同村 平十郎

岩本内膳正様御知行所

同村 平八

名主見習同人 倅 文次

松本米吉様御知行所

同村 名主 伊惣次

佐野藤三郎様御知行所

同村 吉兵衛

河野銓太郎様御知行所

同村 平右衛門

右訴訟人庄五郎奉申上候、當村之儀ハ、御給之入

会にて、御田地其外共村役一同申談之上、取斗来

候、然一、當年之儀近年稀成早魃にて、稲作仕付

之砌より掛水ニ差支、猶追々照統候ニ付、草刈堰

水掛方・仕込八名主平十郎同太右衛門懸り、石佛

以ハ名主伊惣次并私掛りと相分、右・以ハ処笹

如通上畑通より申口二泥之勝手俣之事共申募、猶

伊惣次儀は私一同石佛以懸り二有之、百姓代伊兵

衛を差出又ハ伊惣次罷出始末乍存居、右ハ押隠シ、

外村役ニ如何被申謙候哉、一同列合乱亡人突放不

行・様申成早損之時節猶干枯等有之中、右躰故障

ケ間敷難澁申掛、水引通方為差支候段、難心得、

平年ニ違耕方出精致候にも不行届時節相手申分

二・候には乍見草稻枯果候儀ハ眼前ニ御座候間、

難捨置無是非今般御訴訟奉申上候、何卒御慈悲を

以相手之者共被召出前条逸々被為聞召分御吟味之

上、之通り実意ニ立戻り以來右躰、

掛水致候得共、世話不行届・水渡相渡不引足中、

私儀見廻りニ罷越候處、以掛之者共ハ石佛以水

掛方多・由申聞、石佛以方には、以引方を見習

可申、乍去来夕古田不行渡趣申聞争論致候間、私

并右伊兵衛・取調猶村役一同打寄申談候にも、

以掛り之者、我意ヲ募り不相分・柄太右衛門文次

共水掛方ハ日数七日にてハ不引足間、八日より當

二十日まで引通可申由申之左候には外御田地養不

行届、既ニあざ飯喰鳴辺より堀上ケ通之御田地ハ

干割候程之儀に御座候間、不取・取極通可致旨申

談候儀を憤り、悪口難言申聞候より、相手之者

共儀、小前大金蔵其外迄石佛以ハ守前山王後大金

蔵金田其の外数ヶ所迄、水引通候筈。猶當七日夜

間屋弁次郎方江御給々村役并重立候百姓打寄、水

手引方ハ小水之事故日数七日限にて以口を留メ夫

より順々以并手桶江引入、尤田方は水手切放掛水

可致、押取八日より掛始可申取極、以為世話番

重立候百姓之内、石見守様御分百姓又市権次郎様

御分百姓乙次郎當給百姓新蔵善太郎罷出、同日昼

九時より引入新田迄水深沢ニ行渡、石佛以ハ米吉

様御分より百姓代伊兵衛百姓八平當給百姓長兵衛

嘉七巳之助罷出、八日八半時比より

中川堰代米の受取
覚
一 米六俵式斗六合老夕
右は、中川堰代米
随二受取申候、為念
以上
申正月二十四日
菊間村 六右衛門 (印)
八幡村 名主 庄五郎殿

文書：19-1054
写真：049006

中川堰代米の受取

一 米六俵式斗六合壹斗
右は、中川堰代米出分
太彦門殿江・造り・
礎二受取申候、 以上
文化五申年十二月

菊間村 六右衛門 (印)
八幡村 名主 庄五郎殿

文書：19-105-4
写真：049007



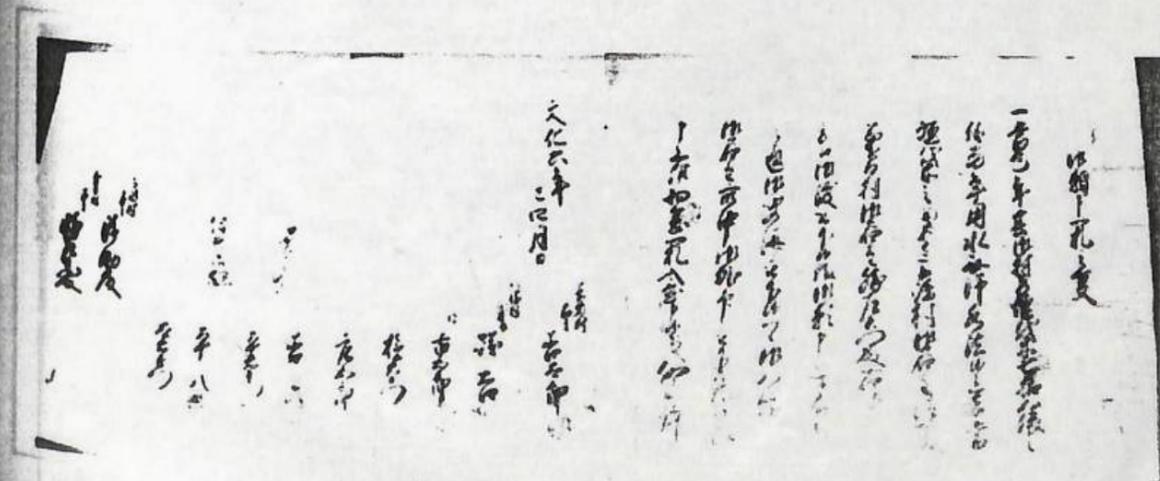
文書：20-105-4
写真：050007

堰代米の引渡しを依頼

御頼申一札之要
一 當巳年其御村方堰代米七拾五俵之儀、當年用水無滞水法候上は、當堰代米之義は、高嶋村御名主清助殿、菊間村御名主勝左衛門殿右御兩人方江御渡被下候様御頼申上候、右頼之通御聞濟被下候わば、御八給之御名主衆中御加印被下候様、御頼申上候、為念一札入置申候処仍而如件
文化六年巳四月 日

草刈村 名主 善太郎 (印)
八幡村 名主 磯吉 (印)
同 市五郎 (印)
同 権右衛門
同 庄五郎
善六 (印)
平右衛門 (印)
平八 (印)
太右衛門 (印)
高嶋村 名主 清助殿
菊間村 名主 勝左衛門殿

文書：21-27
写真：051036
~7



文書：21-27
写真：051036

覚

一金五兩三分也
右は、草刈堰代米之内
礎二受取申候、 以上
巳十二月二十六日

菊間村 名主 勝左衛門
御名主 庄五郎殿



覚

一米五拾九俵也 但 四斗入
此代金拾八兩 兩老石三斗一升也
右は、當巳堰代米書面之通り売拂、代金不残請取申候 以上
文化六巳年十二月二十七日

草刈村 善太郎代 栄助 (印)
古市場村 名主 清助 (印)
菊間村 名主 勝左衛門 (印)
八幡村 御名主 庄五郎殿

文書：19-105-4
写真：049007



覚

一米五俵老斗七合
堰代米・
内 米三俵式斗老升五合 當巳御年買
米老俵式斗九升
文化八未三月改之 堰代米買受書付 品々



堰代米を受取る

覚

一 金三両也
當牛之堰代金之内
儲二受取申候、為・御座候・
十二月二十六日

菊間村 十郎(印)
勝左衛門(印)
古一・バ 清次郎(印)
八幡村 御名主 庄五郎殿

文書：19-144-8
写真：050018

堰代米を受取る

文書：19-144-9
写真：050019

地頭所御普請の積金受取

覚

一 金老両式朱式分八拾文
右は、御地頭所御普請二付、積金
儲二請取申候、 以上
申五月初日

名主 弥左衛門(印)
河内屋庄五郎殿

文書：19-105-3
写真：049006

草刈川堰の普請人変更

入置申願一札之事

一 草刈川溜堰用水之義、往古より下総国千葉郡
生実村濱野村古市場村田村、上総国市原郡
八幡村菊間村上古市場村右七ヶ村用水にて堰
普請ホ受負之義は、人選之上、草刈村太左衛
門江請負為仕置候処、去西年右請負人年限中、
同人・合ヲ以、村方役人一同江為請負、當寅
年太左衛門より村方役人共江示談いたし、堰
請負取究メ、水下村々被及披露候二付、先例
之・遺証文取究請負可為致之処、村方役人
共右障之存可有之、水下村々役人より及掛合
候処、兎角、等閑置當節、苗代水二差支居候
処、難捨置、今般、鶴枚御役場江御出訴之儀

文書：22-67
写真：052103
~8



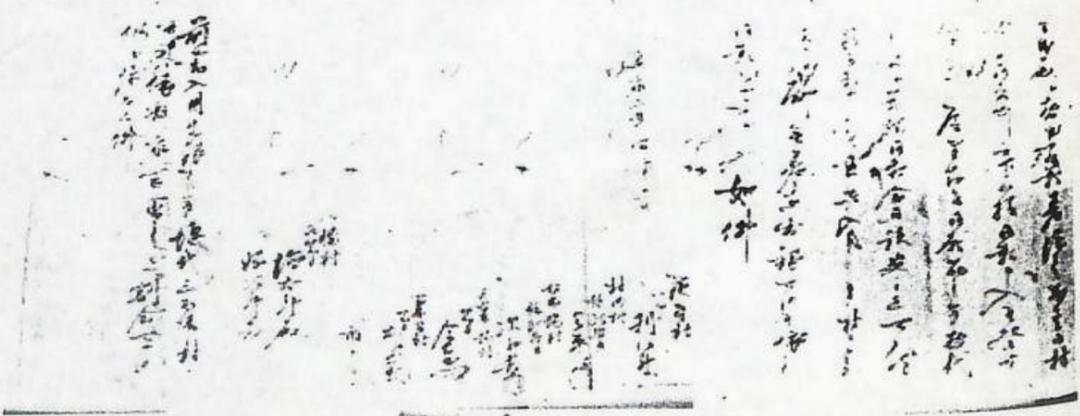
二付 水下役人共一同相殿之上、生実村赤兵
衛殿江惣代相頼、差添之義は、御村方より御
差出し被下候様御頼申入候処、御開濟被下、
辱奉存候、御願筋之義、惣代之衆江万端御打
合且読聞之上、可致様御頼申入候、堰賄入用
之義、村々・合ヲ以、聊無差支出銀可仕候、
依之御頼一札差入申処如件

慶應二年寅二月十一日

濱野村 名主 利八郎(印)
村田村 組頭惣代 与平治(印)
古市場村組頭惣代 次郎吉(印)
上市場村 名主 金右衛門(印)
菊間村 名主 太郎右衛門(印)
市十郎(印)

八幡村
御名主 徳太郎殿
好次郎殿

前書入用出銀之義、堰代三百俵村々出来俵数二応
シ立会之上、割合可申候
仍而添書如件



堰普請を水下村で行う

文書：22-64
写真：052099
~100

取為替議定一札之支

當寅年草刈村地附堰請負人共、取纏出来、第一用水差支二相成、難捨置、右請負人共示談為致度段、種々掛合候得共、何分示談行届不申、無余儀、水下村々にて自普請二相成、依而、當村之義は、御給入会ニ存、一同相談之上、名主八人にて引受、普請可致議定仕、右普請入用之義は、銘々無甲乙割合出銀可致候、且、宰領并村々相談出銀之義は、順番お以、相勤可申候、尚又、米之義は、是迄之通、銘々差出し、其時々相談を以普請入用差引いたし、其上、損徳之義は、八人割賦可致候、其節至り相互二違乱申間敷候、依之取替議定一札仍而如件

慶應二寅年四月

- 名主 喜右衛門(印)
- 源右衛門(印)
- 儀兵衛(印)
- 好次郎(印)
- 久平(印)
- 勘次郎(印)
- 芳太郎(印)
- 徳太郎(印)



草刈村川堰普請費用を請求する

御請書連印帳

文書：19-87
写真：048029
~31

差出申御請一札之事

一 草刈村川堰用水之儀、是迄同村二請負人有之候処、村方当 纏、二年分二相成候二付、無余儀當寅年自普請相成、依之兩総水下七ヶ村打合一同相談之上、役人等と相定、賃銭酒代共老人前五百文づつ相渡可申、就ては人足触當次第...

(以下略)

俵敷之割合無滞出金可致事

・文化度之趣・相振候儀、御出役差出事被仰出候わば其段御請不仕、其御筋江御伺可申上候事、前書取極之条々相互二違失有之間敷候依之、儀一聞如件

慶應二寅年四月

- 上総国市原郡八幡村
- 名主 久平
- 同給惣代同
- 源右衛門
- 芳次郎
- 同国同郡菊間村
- 名主 祐右衛門

同給惣代同

- 左十郎
- 平蔵

草刈用水堰の引渡しを願出る

文書：22-116
写真：053090
~98

乍恐以書付奉願上候

下総国千葉郡生実村、浜野村、村田村、古市場村、上総国市原郡八幡村、菊間村、上古市場村、右七ヶ村用水之儀、御領分上総国市原郡草刈村地所に往古より堰用水引取参り為、普請料米四斗入三百俵空俵三千俵宛相渡し、証文切替之時々、水下村々人選之上、請負人相立、安政四巳年より酉年迄五ヶ年際、草刈村之名主太左衛門にて請負置候処、同年村方難渋二付、請負いたし度旨被申出候間、相談候得共、強而、被申候二付、難止存、同年老ヶ年百姓代四名宛にて請負為致置候処、猶又達ての頼二付、翌戌年より當寅年迄五ヶ年と相定、同様百姓代四名宛にて為請負置候処、肝要之時節二至り、用水引渡し・候儀も有之、然ル処、前書酉年太左衛門請負中示談之上、村方江請負為致候・も有之、旁以當寅年太左衛門江請負可為致由、双方示談引届二付、証文為取替以被成度旨、水下村々江沙汰有之、七ヶ村名主組頭百姓代共参上仕候処、草刈村役人証印難相成致所有之候二付、再三実意ヲ以及掛合候得共、等閑置一切頓着不仕、最早苗代拵二も取掛り、用水肝要之時節一同必至と難渋仕候間、何卒格別之以御慈悲、草

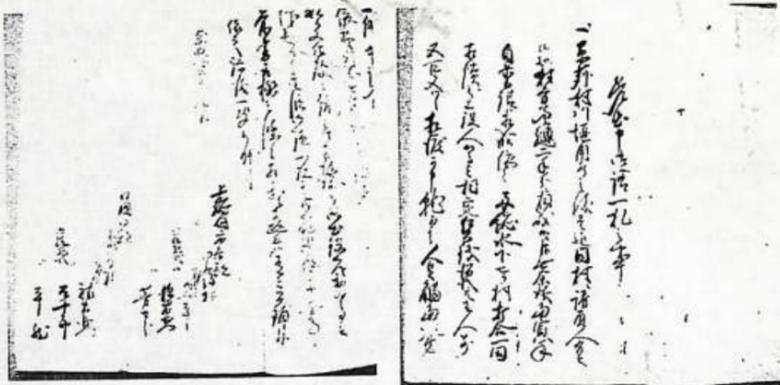
刈村役人御呼出し被成下、前之村江証文難相成面之趣意堅相守、無余儀水下村々江堰相渡し、以来右様之義無之様御利解被仰付被下置候様、偏二奉願上候 以上

慶應二寅年二月

- 上総国市原郡八幡村
- 菊間村
- 上古市場村
- 下総国千葉郡生実村
- 濱野村
- 村田村
- 古市場村
- 右七ヶ村惣代
- 森川内膳正領分
- 右生実村
- 願人 名主 弥兵衛
- 八幡村
- 差添人 徳太郎
- 水野肥前守様
- 郵方御役人中様

差上申済口証文之事

下総国千葉郡生実村外三ヶ村、上総国市原郡八幡村外式ヶ村、右七ヶ村惣代願人森川内膳正領右生実村名主弥兵衛差添八幡村名主徳太郎御願申上候



は、右七ヶ村用水之儀、御領分上総国市原郡草刈村地附にて往古より堰用水引取参り為、普請料米四斗入三百俵空俵三千俵宛相渡、証文切替之時々、水下村々人選之上、請負人相立、安政四巳年より酉年迄五ヶ年之間、草刈村元名主五郎左衛門請負置候処、同年村方難渋二付、請負致度旨被申出候二付、難黙止存、同年老々年百姓代四人名宛にて請負為致置候処、頼二付、翌戌年より當寅年迄五ヶ年の相定、同様百姓代四人名前にて請負為、置候処、前書酉年太左衛門請負中示談之上、村方江請負為済廉も有之、傍々以、當寅年太左衛門江請負可為致由、村方示談行届、二付、証文為取替致度旨水下村々江同人より沙汰、し、七ヶ村役人共、候処、草刈村役人証印難相成、堰所方、二付、再三実意は及掛合候得共、等閑置、最早苗代拵二も取掛り、用水肝要之時節一同必至と難渋仕候二付、何卒格別之以御慈悲、草刈村役人御呼出し被成下、前々済口証文御絵図面之趣意堅相守、彼是差違直、間敷儀無之様、御利解被仰付被下置致、奉願上候処、草刈村役人始追々御呼出之上、夫々御利解被仰聞一同恐入奉、示談之上、濟方仕り、趣意左二奉申上候

ば納得之上、請負沙汰江三役人調印可仕事堰請負之儀は、前々、替之趣意件堅相守、以来七ヶ村人撰之上ハ、草刈村にて、為故障仕間敷、其外替文他、有之済口証文并為取替議定書御絵図面、可申候、若し右行違之者御座候得者、何様も利解申、水下村々江難渋相掛ケ申間敷、左之通村方無申分示談行届候処、相違無御座候、畢竟七ヶ村惣代生実村名主弥兵衛奉御訴訟趣意御、所大切、致知御願奉申上候儀にて別意無御座、草刈村三役人においても相固、大切之儀御利解被仰聞奉承知伏、偏二御威光、難有仕合、存候、然ル上は、右一件二付重て御願筋無御座候間、是迄にて御下ケ被下置候様奉願上候、依之一同連印済口証文差上申処如件

- 上総国市原郡 八幡村
- 菊間村
- 古市場村
- 下総国千葉郡 生実村
- 濱野村
- 村田村
- 古市場村
- 右七ヶ村惣代 右生実村
- 森川内膳正領分 右生実村
- 名主 弥兵衛
- 願人 八幡村

- 差添人 徳太郎
- 御領分 上総国市原郡草刈村
- 百姓代 太郎右衛門
- 同 七郎兵衛
- 同 八兵衛
- 組頭 十郎右衛門
- 八右衛門
- 甚七
- 名主 惣右衛門
- 窪牧 御役所

此の文は、草刈村役人証印難相成、堰所方、二付、再三実意は及掛合候得共、等閑置、最早苗代拵二も取掛り、用水肝要之時節一同必至と難渋仕候二付、何卒格別之以御慈悲、草刈村役人御呼出し被成下、前々済口証文御絵図面之趣意堅相守、彼是差違直、間敷儀無之様、御利解被仰付被下置致、奉願上候処、草刈村役人始追々御呼出之上、夫々御利解被仰聞一同恐入奉、示談之上、濟方仕り、趣意左二奉申上候

此の文は、草刈村役人証印難相成、堰所方、二付、再三実意は及掛合候得共、等閑置、最早苗代拵二も取掛り、用水肝要之時節一同必至と難渋仕候二付、何卒格別之以御慈悲、草刈村役人御呼出し被成下、前々済口証文御絵図面之趣意堅相守、彼是差違直、間敷儀無之様、御利解被仰付被下置致、奉願上候処、草刈村役人始追々御呼出之上、夫々御利解被仰聞一同恐入奉、示談之上、濟方仕り、趣意左二奉申上候

此の文は、草刈村役人証印難相成、堰所方、二付、再三実意は及掛合候得共、等閑置、最早苗代拵二も取掛り、用水肝要之時節一同必至と難渋仕候二付、何卒格別之以御慈悲、草刈村役人御呼出し被成下、前々済口証文御絵図面之趣意堅相守、彼是差違直、間敷儀無之様、御利解被仰付被下置致、奉願上候処、草刈村役人始追々御呼出之上、夫々御利解被仰聞一同恐入奉、示談之上、濟方仕り、趣意左二奉申上候

此の文は、草刈村役人証印難相成、堰所方、二付、再三実意は及掛合候得共、等閑置、最早苗代拵二も取掛り、用水肝要之時節一同必至と難渋仕候二付、何卒格別之以御慈悲、草刈村役人御呼出し被成下、前々済口証文御絵図面之趣意堅相守、彼是差違直、間敷儀無之様、御利解被仰付被下置致、奉願上候処、草刈村役人始追々御呼出之上、夫々御利解被仰聞一同恐入奉、示談之上、濟方仕り、趣意左二奉申上候

草刈川堰の普請請負契約書

文書：17-2
写真：044065

中川堰梓營繕方及ヒ水路請負為永換締約書
米六拾七俵三斗三升
堰梓堤防穴填請負米一ケ年分 但明治十八年
ヨリ全二十二年マデ都合五ケ年期トス
右ハ當郡草刈村地内字中川外一ケ所ノ田悪水路堰
梓新築并堤防修繕請負方ノ義、菊間八幡連合水利
士切會ノ決諒抛り投票有処、落札相成候ニ付テハ、
當初、堰梓營繕仕法ノ通り修理可致、就中、用材
等ニ至テハ、最モ吟味ヲ尽シ、至當ノ機品相折シ、
正路堅固落成可致候、且期限中請負方同断心得書
等遵守シ、専ラ尽力、用水ノ時期ニ際シテハ流通、
聊卷問無之ハ勿論、防破壊セサル株穴
(以下略)

海岸埋立事業にかかわる契約書

文書：22-16-1
写真：051065

為取換契約証
生・共同シテ明治貳拾五年六月中、當町海岸及別
四町七畝拾貳歩ノ地所埋立ノ儀、出願セシ処、今
般許可ヲ得タルニ付テハ、其筋ノ命令書ヲ遵守ス
ベキハ勿論、本事業ノ完整ヲ期スル為メ、契約ヲ
為ス、左ノ如シ、
一 本事業ニ付テノ方法設計工事其他百般ノ事柄
ハ惣テ協心同力シテ以テ目的ヲ完了スル事ヲ
勉メベキ事
一 本事業ニ付テノ諸費用支出ハ勿論、利害損益
等惣テ平等均一タルベキ事
一 本事業ニ付、協議ヲ要スル事アルトキハ何時
タリト
(以下略)

海岸堤防設計書

文書：22-16-2
写真：051066

田地周圍築堤及宅地盛土地上設計書
図面第參号及第六号田地ノ西南北三方ニ堤防ヲ築
造シ、第壹号第貳号第四号及第五号宅地ニ盛土シ
地上ケスルノ設計ヲ為ス事、左ノ如シ
一 第參号及第六号地処西辺ハ海ニ面スルヲ以テ、
築造セシトスル堤防ノ高ハ拾尺トシ、馬踏老
間トシ、而シテ其左右勾配ハ老割五分トス、
南北両辺ハ其高西辺ノ如キヲ要セズ、故ニ其
各南端ハ拾尺トシテ西辺ノ高二合セシメ、漸
次東スル、從テ高ヲ減シ宅地界ニ至リ三尺ト
シテ以テ宅地ト同高ナラシム、馬踏及左右勾
配ニ至テハ西辺同様トス、且ツ堤防各辺ノ勾
配外側二ハ (以下略)

水利士切會議員の選挙

文書：22-28-11
写真：051065

水利士切會議員満期ニ付、今般、千葉市原郡長ヨ
リ公告・通り各公民権ヲ有スル者ヨリ来ル三月
二日限り、水利士切會議員選挙相成在様区内公民
権ヲ有スル者工達方御取斗相成度、且ツ郡役所ヨ
リ下付投票用紙添付、此段及御依頼在也
明治二十九年二月二十七日

市原郡八幡町役場
八幡区长 宮吉長五郎殿
土屋熊治郎殿

借金の利息支払い

文書：22-110-11
写真：053077

元金 四百円
利息 拾参円94戦四厘
但三十四年十一月二十八日ヨリ三十五
年二月十八日マデノ分
右正ニ領収候也
明治三十五年二月十八日

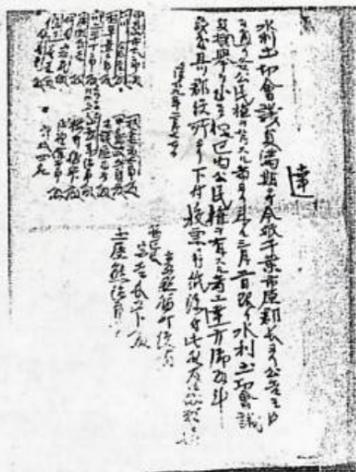
株式会社 五井銀行
寺嶋久次郎殿

工事資材の買入れ帳面

文書：31-20
写真：060000

道路松・買入之記

一	七月十七日	黒二十七束	其村	三蔵	九郎分
一	同	同	赤参拾束	平五郎	同
一	同	同	六拾束	同人	同
一	同	同	二十八束	友吉	同
一	同	同	三拾束	平五郎	同
一	同	同	三拾束	同人	同
一	同	同	八束	諸井重蔵	同
一	同	同	二十八束	・村	友吉
一	同	同	四拾束	一郎右衛門	159
一	同	同	二十四束	友吉	同
一	同	同	五拾六束	同人	同
一	同	同	六拾貳束	平出村	平五次





明治廿八年三月十九日
共同
海岸堤防工事費償還納簿
第貳號

Handwritten text on a document cover, including the title '共同海岸堤防工事費償還納簿' and '請取証綴'.

文書：20-8
写真：050042

文書：20-9
写真：050043

海岸堤防工事の利益配当

埋立工事三十年分利益配当

- 一金 百貳拾壹円八拾錢
- 但 四斗式升入老・二付、拾円拾五錢替
- 内 金貳拾三円九二戰五厘
- 三十年度諸修繕費引
- 内 金五円中
- 三十一分修繕設備費
- 宿金貳拾八円九十二錢五厘
- 一金 九拾七円八十七錢五厘
- 老人分配当金
- 一金拾三円九十八錢貳厘ノ処

右之通配当・上候也

三十一年二月十一日

宮吉長五郎(印)

萩原様(印)

村市様(印)

寺島様(印)

官吉様(印)

鈴清様(印)

川上様(印)

文書：30-11
写真：057000
~61

海岸堤防工事の請負契約を解約

証

自分儀、明治二十八年三月二十四日附ノ証書ヲ以テ、市原郡八幡町海岸堤防工事請負、既ニ着手中ノ処、今回、都合ニ寄り請負契約解約相願候処、速ニ御承諾被下難有存有之、然ル上ハ、残工事乍勝手に処弁可被趣有之、且解約以前に拘も請負代金悉皆請受済ニ有之候、為後日請負解約証書如

文書：16-77-1
写真：044036

Handwritten text on a document cover, including the title '共同海岸堤防工事費償還納簿' and '請取証綴'.

Handwritten text on a document cover, including the title '共同海岸堤防工事費償還納簿' and '請取証綴'.

Handwritten text on a document cover, including the title '共同海岸堤防工事費償還納簿' and '請取証綴'.

共同海岸堤防工事費償還納簿
請取証綴

明治廿八年三月廿一日
共同
海岸堤防工事費償還納簿
第壹號

海岸堤防工事の仮出納簿 請取証綴

文書：16-88
写真：044040

文書：22-24
写真：052039

草刈川堰の由来
茂呂村 鵜田家資料による

鵜田家模四枚

天正二年下総椎名郷田面灌溉之便無、早魃時農家之困難甚し、時之名主鵜田五郎左衛門之を憂い、水源を得て水路

お開き以て農民之急を救うが為め日夜寢食忘、踏查之結果、市原郡草刈村に之を求め、櫛風沐雨身命を賭、志築堰

之大工事に従ふ五郎左衛門当時の決心を、事成らずんば割腹勢んと公言せしを以て知べし、仍寄竣工此地方田面八百余

町歩之旱害を免るゝを得せしめ勸農上に及ぼ勢し効果、偉大千金、其鴻思を称賛せざる者なし

明治四十四年五月十五日千葉県庁落成につき祖先鵜田五郎左衛門堰見立の事跡記勢られ

大正二年二月二十五日鵜田分家弟忠治の為写之賜

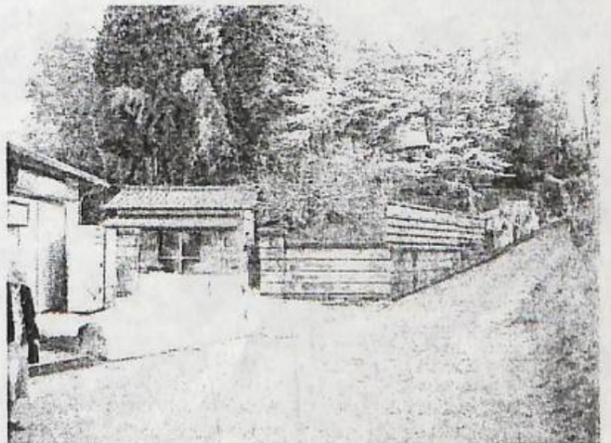
鵜田誠一書

天正二年下総椎名郷田面灌溉之便無、早魃時農家之困難甚し、時之名主鵜田五郎左衛門之を憂い、水源を得て水路

お開き以て農民之急を救うが為め日夜寢食忘、踏查之結果、市原郡草刈村に之を求め、櫛風沐雨身命を賭、志築堰

之大工事に従ふ五郎左衛門当時の決心を、事成らずんば割腹勢んと公言せしを以て知べし、仍寄竣工此地方田面八百余

町歩之旱害を免るゝを得せしめ勸農上に及ぼ勢し効果、偉大千金、其鴻思を称賛せざる者なし



043 000031

草刈川堰の由来

文字：043
写真：〜

一、元和元年三月七月初、日数十日間出来用水上総下総南国上り

一、下国水ノ事上総国は五井村迄下総国は登戸村迄の名也

一、上総国市原郡八幡村領主ハ老万石永井信濃守

一、下総国千葉郡生実領主ハ森川紀伊守

一、徳川將軍御代官は高室金兵衛江願出候処、御

開届ケニ相成候 右両国より万人ヲ

其上、万一用水不上市ハ此方之命ニ抱リ候間、

如何致候哉 被仰付ニ付其節ハ堰場へ塚ヲ積

鵜田五郎左衛門磔ニ相成覚悟之

申立候処

毫も無差支悦入置ニ

登城致將軍江

上総国市原郡八幡村領主ハ老万石永井信濃守、下総国千葉郡茂呂村領主ハ五郎左衛門見立、元和元年徳川將軍御代官高室金兵衛江願出候処、御開届ケ相成候得共、万人之人足遣拂その上、万一用水不上市は此方迄致す無之如何致候哉と右代官高室様ヨリ仰付其節は私場所ニ磔ニ可相成覚悟之旨申上候ニ付、高室様大安心悦入夫ヨリ將軍様江御直ニ御申立御開届と相成、上総下総両国共数ケ村年々早魃ニ而種も不取レ次第大ニ小は難替草刈村は片付堰地ニ可致分被仰付候用水は下総国は登戸村迄上総国は五井村迄十分上リ候見込ニ候へ共、草刈村ヲ厭候故、堰地ヨリ堰袋ヲセバメ候普請を去元和元年三月七日鍬入中 つと申者ニ致し休十日ヨリ普請ニ取掛り、下総を森川紀伊守領分、上総を八幡永井信濃守領分老万石右両国より万人之人足出し載日数十日間ニ出来用水十分上り候

御高老万石八幡村領主永井信濃守より鵜田五郎左衛門年四十才御召出し御褒美之品御上下御盃木被下置候

御代官様ヨリ槍一筋拜領

堰出来 四十八年浩水ニ而大破ニ相成、領之家来調印ニ而出願致

其 四十八ヶ年前茂呂村鵜田五郎左衛門と申者右堰

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

候

元和元年三月七月初、日数十日間出来用水上総下総南国上り

下国水ノ事上総国は五井村迄下総国は登戸村迄の名也

上総国市原郡八幡村領主ハ老万石永井信濃守

下総国千葉郡生実領主ハ森川紀伊守

徳川將軍御代官は高室金兵衛江願出候処、御開届ケニ相成候 右両国より万人ヲ

其上、万一用水不上市ハ此方之命ニ抱リ候間、如何致候哉 被仰付ニ付其節ハ堰場へ塚ヲ積鵜田五郎左衛門磔ニ相成覚悟之 申立候処 毫も無差支悦入置ニ 登城致將軍江

甲子年三月廿三日... 丁未年三月廿三日... 丁未年三月廿三日...

丁未年三月廿三日... 丁未年三月廿三日... 丁未年三月廿三日...

上代元申三月
...

上代元申三月
...

上代元申三月
...

上代元申三月
...

上代元申三月
...

上代元申三月
...

御鷹御用の費用負担

下野村の訴えに八幡村が返答

文書：1-2
写真：0102

御鷹御用の費用負担

馬立村の訴えに八幡村が返答

文書：1-12
写真：0111

乍忠返り差書ヲ以奉申上候
上総国市原郡八幡村八給物代名主喜右衛門庄五郎名
主一同奉申上候、此度同国同郡下野村外貳拾貳ケ村
惣代潤井戸土村名主庄七外貳人より私共相手取訴上
ノ者、右二十三ケ村組合之内潤井戸村ハ東房総東上
総大田・町其外・通行之駅場にて諸御用多人馬勤方
触米・其上・御鷹御用之節御止宿にて其外……(以
下なし)
(裏面に 寛政五・二十五日の記載)

馬立村外拾四ケ村前同様之儀申立、曾我豊後守様奉
出訴、其節茂訴訟方申口不相立御利解相弁江、是又
都而先親違より可相心得旨にて當村相詫候二付、勘
弁致内濟仕より其已来先親立振合を以、取斗来候処
今般訴訟方如何心得候哉、霞村数九拾五ケ村之処、
百八ケ村書上候段、第一難心得、右は全て悪意不
村方多分故、老ケ村た里とも可聴存意候地名之字相
遣村名二書綴候儀にて、甚如得之取斗有之、殊二御
鷹道様方御止宿御賄入用割合方御先触二随ひ小口村
方江触當御逗留二相成候とも木錢穀代御下ケ相成候
二付、勤村之物代共請取之出錢之節は差(以下なし)

仕候二付、隣駅近村之御賄入用より八幡村は割合相
嵩、村々難波……策之被村……村致候儀は……止
段村之惣高割致勘定之……立会請勘定之上、調印い
たし候上出錢仕、都而不正之義不致御賄帳見届ケ度
旨其外品々訴上且加り願人二而も同様勝手儘之勘定
被致候而は難波仕・二付……仍て勘定意いたし、以
来混難

差上申御請之事
近在之百姓共願筋有之由二而、出訴茂可致申合いた
し候由相聞候、此以後、右鉢之儀申勸候者有之候共、
一統不致様被仰渡候間、御料私領村々其旨可相心得
候、右被仰渡之趣村中大小之百姓江申聞心得違無
之・急度相慎可申旨被仰渡奉畏候、依之御請印形差
上申候 以上
酉正月
遠藤・土炊頭 御役所
御料私領 村々 重印

池和田村外九ヶ村連印の証文

文書：19-88
写真：048032
~36

根岸肥前守様江奉訴御吟味之訴訟方御理解相難 都
而先規仕来通り可取斗旨にて内済いたし、其後天保
二卯年中馬立村外拾四ヶ村前同様之儀申立、曾我豊
後守様奉出訴、其節も訴訟方申口不相立御理解相弁
是・・・
規之振合ヲ以取斗来候処、今般訴訟方如何心得候哉
霞村数九拾五ヶ村之処、百八ヶ村書上候段、第一
・得右は全ク悪意不泥村方可・故・・・
右一件付重て双方ノ御願筋毛頭無御座候、依而為後
証連印済口証文差上申処如件

上総国市原郡 池和田村

- 皆吉村
- 金沢村
- 大蔵村
- 国吉村
- 栢橋村
- 寺谷村
- 岩崎村
- 風戸村
- 安津村

御鷹御用の費用負担

文書：1-16
写真：0116

・・・相成、當時御吟味中之処、掛合之上熟
読内済仕候趣意、左二奉申上候
一 右訴訟方申立候は私共三拾老ヶ村并外七拾七ヶ
村都合百八ヶ村之儀は、相手八幡村にて霞組江
唱へ御鷹匠様方年々・御提伺御廻村々之節、八
幡村根村にて御止宿相成、右御賄諸入用之儀は
前書百八ヶ村 (以下略)

寛永五子年十二月二十五日

上総国市原郡参拾老ヶ村

惣代国吉村名主新五左衛門

御評定所



御鷹御用の費用負担

御鷹御用の費用負担

文書：24-42
写真：05478
~78

・・・御鷹通様御泊御賄入用不分明之割合取立、
其上八給入用帳面亦不相見届受取・茂不差出難敷
旨其外品々申立、當四月中、根岸備前守様へ御訴訟
申立、五月二十五日御差日之御審判・裁相付候処、
相手為惣代村上三十郎知行所名主喜右衛門水野石見
守知行所名主庄右衛門松本兵庫預知行所名主儀吉初
年二付後見組頭宇兵衛罷出、返答書ヲ以申上候は、
先前日・御鷹御用之節、御鷹匠様御泊り御入用之義
候其段、八給九ヶ村江順番二割合御賄仕来り諸色帳
面亦相付立候茂・之受書差出候義・
申上間敷候、為後証一同連印済口証文奉差上候処如
件

寛政二戊年七月二日

上総国市原郡下野村外十九ヶ村惣代

阿部兵部・領分

訴訟人 潤井戸村 名主 庄七

林肥後守知行所

同 古都辺村 名主 利兵衛

永見伊勢知行所

同 高野村 名主 弘十郎

同国同郡・

八給村役人・代兼

村上三十郎知行所



御評定所

- 相手 名主 喜右衛門
- 水野石見守知行所
- 同 名主 庄右衛門
- 松本兵庫守知行所
- 同 名主 儀吉初年二付後見
- 組頭 宇兵衛
- 神田紙・組内
- 中村屋 五右衛門
- 馬喰丁三丁目
- 秩父屋 次郎八



上総国市原郡池和田村外三拾ヶ村惣代右池和田村名
主勘左衛門より同国同郡八幡村名主徳右衛門外七人
江相掛候より不正出入申立、當五月中

一色豊後守様江奉出訴、同八月十三日御差日之御審
判頂戴相附、相手方より返答書差上御吟味、以前同
国同郡万田・村外拾ヶ村惣代右万田・村名主新兵衛
より訴親方江加り願上候処、豊後守様御非役二付、
(以下なし)

御評定所
同村 名主 職古初年二付
後見組頭 宇兵衛

不法出入を池和田村が訴え
解決証文

文書：1-6b
写真：0107

差上申済口証文之事

上総国市原郡池和田村外三拾ヶ村惣代右池和田村名
主勘左衛門より同国同郡八幡村名主徳右衛門外七人
江相掛候より不正出入申立、當五月中

御用賄の負担

御用向御差支二相成候儀・・・不便儀。

文書：24-67
写真：055071
~73

右鉢賄方義は、難心得奉存候わば、古来之通に候段、
村々八幡村へ罷出、以来御賄并二御用御差支相成候
義、相・出入致懸不申候様取締候様奉願候、然ば、
疑心も無御座八幡村役人共義茂承者安心可仕と難有
奉存候、右は全ク疑心より事起り候義と奉存候、偏
以来ハ出賄仕候様三不段村々へ被為仰付被下候わば
一同難有仕合奉存候、以上

御評定所
同村 名主 彦右衛門
松本兵衛守知行所

親戚間で田地引渡し争い

文書：19-47
写真：047006

相渡申書付之事

一 今般、御地頭所様江我水甥喜兵衛代々致し御訴
訟奉申上候儀、一切相頼不申候、且又、寛政十年年
七月先庄五郎死去致候節、娘冬扶持田畑譲渡可申由、
可申付無御座候、其後喜兵衛方江娘冬得縁合致熟縁
二相成候二付、天明五巳年九月金式拾兩貸遣候處、
冬持参金差向遣候處、相違無御座候、猶又當四月中
我亦大病煩候二付、持参田地半地喜兵衛女房冬女江
相讓可申由、申開候、其節白紙つめ印致遣候、尤庄
五郎儀、不孝不・之始末毛頭無御座候、為後日書付
相渡し申処仍而如件

御評定所
同村 名主 職古初年二付
後見組頭 宇兵衛

御評定所
同村 名主 彦右衛門
松本兵衛守知行所

御評定所

売掛并立替金の返済を訴える
その一

文書：29-24
写真：057010
~20

差上申済口証文之事

上総国市原郡八幡村名主庄五郎母遍ん代兼同村組頭
喜兵衛より右庄五郎江相掛不法并売掛ケ立替金滞出
入、十月中當御屋敷様江奉出訴候処、相手庄五郎被
召出御糾之上、掛合被仰付候二付、扱人立入掛合之
上、熟談内済仕候趣意左ニ奉申上候

一 右出入扱人立入、双方・と承知候処、先年喜兵
衛親喜平次残石二字若宮堤外五ヶ所にて、田畑
屋敷地共反別五反五畝権六分同人姉辺ん扶持方
として先庄五郎方江持参、同人妻と成、存生中、
寛政十年當庄五郎妹ふ由喜兵衛妻二娶、依而
は重縁二付、一同対談之上、喜平次方より持参
の田畑屋敷共喜兵衛江相返候筈にて、翌未年婚
姻結、先庄五郎無・相果、其後二至當庄五郎儀
右地所不相返、徳米も不相送度々掛合候ても取
放不申候二付、及出訴候処、今般掛合之上、右
地所は不殘帰村之上、喜兵衛方江差戻、且別訴
状売掛滞高金拾兩錢百貳拾九貫百四拾貳文之儀
は、喜兵衛方より庄五郎方江之貸用、尤此内庄
五郎より喜兵衛方江貸金有之ニ付、此度扱人立
合双方取調勘定いたし候処、
喜兵衛方より金拾兩貳朱余出金可致勘定ニ相見

候二付、別紙差入田畑未年より子年取作徳米之
儀は、扱人貫受且遍ん儀庄五郎氣隨之取斗之儀、
喜兵衛江頼一札相渡、出訴為致候得共女之儀
殊々老衰ニおよび種々逆ひ候儀は、畢竟両家共
相統相成候様致度、人事にて全庄五郎氣隨之言
違無之段、相分り、向後兄弟相互ニ睦敷仕至極
納得之上、熟談内済仕、偏御威光ニ難有仕合奉
存候、然上は、右一件二付、重而御願筋手随無
御座、依之連印済口証文差上候処如件
文化十四丑年十二月十九日

水野石見守知行所
上総国市原郡八幡村
訴訟人 組頭 喜兵衛
御知行所
同国同郡同村
相手 名主 庄五郎

村上鍋之助様御役人中様

前書之通、円熟相整済口証文差上候二付、御年貢小
作米証文金売掛其外諸勘定向ホ逸々取調差引いたし、
今般喜兵衛方より庄五郎方江別紙証文差入候外二は、
勘定向双方にて一切取引無御座、為念以奥書為取
替・以上
丑十二月

右 喜兵衛 (印)

石見守知行所
上総国市原郡八幡村
訴訟人 組頭 喜兵衛
御知行所
同国同郡同村
相手 名主 庄五郎

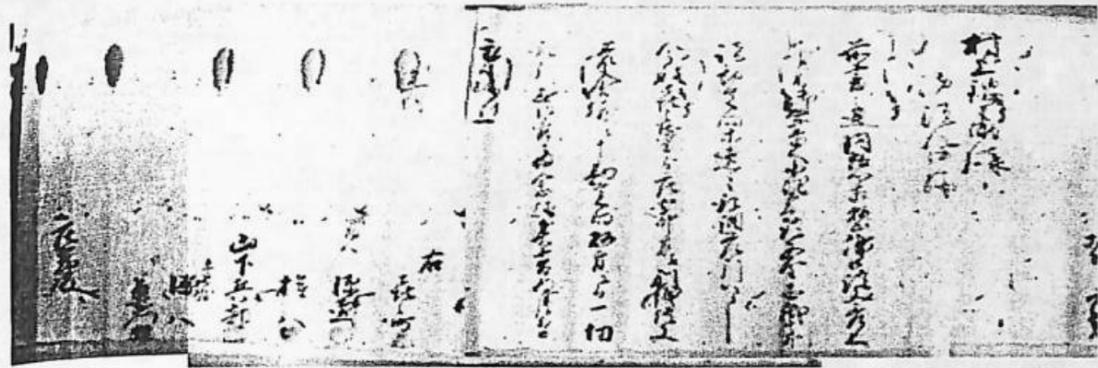
取扱人 源右衛門 (印)
権八 (印)
山下兵部 (印)
平野屋 源八
代 長右衛門 (印)
庄五郎殿

取扱人 源右衛門 (印)
権八 (印)
山下兵部 (印)
平野屋 源八
代 長右衛門 (印)
庄五郎殿

取扱人 源右衛門 (印)
権八 (印)
山下兵部 (印)
平野屋 源八
代 長右衛門 (印)
庄五郎殿

取扱人 源右衛門 (印)
権八 (印)
山下兵部 (印)
平野屋 源八
代 長右衛門 (印)
庄五郎殿

取扱人 源右衛門 (印)
権八 (印)
山下兵部 (印)
平野屋 源八
代 長右衛門 (印)
庄五郎殿



売掛并立替金の返済を訴える

その三

(文化十四丑年 願人 喜兵衛 願書写)

乍恐以書付御訴訟奉申上候

當御知行所

上総国市原郡八幡村

名主 庄五郎母辺人

煩二付同人甥

水野石見守様知行所

同国同郡同村

訴訟人 組頭 喜兵衛

不法出入

當御知行所

同国同郡同村

相手 右 庄五郎

右訴訟人喜兵衛奉申上候遍儀ハ、私親喜平次姉にて當五拾八ヶ年前宝曆十辰年相手庄五郎親庄五郎方江婚姻いたし同人妻と罷成、其刻辺ハ義親喜平次越石所持致居候、當御知行所前之地所字若宮堤外五ヶ所にて田畑屋敷地共合反別五反五畝拾六歩扶持方として庄五郎方江持參致、旧來相統罷在、然二先庄五郎存生中、寛政十年同人娘冬義、私妻二娶可申、依而ハ重縁二付遍ん持參致候前書五反歩余之地所・(以下略)

文書：30-78-32
写真：058086
~8



頼母子掛金に関わる出入り

その一

差上申済口証文之事

一 上総国市原郡八幡村名主庄五郎より同村医師養庵江相掛り理不尽出入之旨、出訴仕度當御屋敷様江奉願上候処、岩本内膳正様江御掛合二相成養庵・罷成懸合被仰付、今般御相給物代・名主平右衛門出府仕取扱二立入御日延奉願上、双方江意見差加へ、熟談内済の趣意左二奉申上候
右出入扱金入双方得旨・・養庵方頼母子会主二名主庄五郎儀頼母子満会集金式拾貳貳分式朱余之所 當日入用之方(以下なし)

文書：19-41-7
写真：047021



頼母子掛金に関わる出入り

その二

金壹両二五両都合六兩養庵方江相渡候儀を養庵方にては右金之内五兩は、礼と相心得・違之儀は扱人貫請、右金は頼母子當日入用と相極殘金拾六兩貳分式朱銀五匁は庄五郎方江請取置候処、養庵儀心得違にて當月十日夜同人儀世話人名主徳右衛門外式人同道にて庄五郎宅江罷越、彼是口論の上、庄五郎江手疵為負候段、全心得違二付、別紙一札差入、且庄五郎手疵請・用いたし右・札之儀は其場合・立会候もの共取斗候・且双方勘定(以下なし)
婦村之上、立会・勘定いたし遣取皆済可・・其外憤り之儀・扱金受聊無申方至極得心之上、熟談内済二偏御威光と難有仕合奉得共、然ル上は右一件二付重而御・・無御座候、依之為後証済口証文差上申所如件

文書：19-60
写真：047066
~8

文化九申年七月

訴訟人 當御知行所

上総国市原郡八幡村

名主 庄五郎(印)

差添人 組頭 清次郎(印)

相手

岩本内膳正知行所

頼母子掛金に関わる出入り
その五

文書：1970
写真：047082

皆済可致候依之詫一札如件
文化九申年七月

當人 八幡村 医師 養庵(印)
組頭 又吉(印)
扱人 六給惣代
名主 平右衛門(印)
同村 名主 庄五郎殿



不法申立への掛合を相談

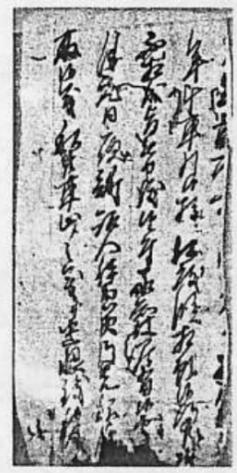
文書：2467-1
写真：055067

態々以使一輪呈上仕候、秋是未取兼候得共
御尊館皆々様益御機嫌能趣御座候、南山陳は許元・
家一同無異儀罷在候間、乍恐御休意具可被成候
扱又、過日は近・人官外不法申上候由、御・・
奉推・・追々家事不取締にて・・日種々甚・之様子
二御座候、左候は子供式人不便被存、案心不仕右二
付御出府被成候事、何・掛合仕法附仕度候間、速
御出府相願候、先日之御様子承り候得は御見限り
御・村可有之、乍併御同様肉縁

訴訟人 伊惣次

文書：1979
写真：048013

年斗車引候様二仕度段、相願候得共・不相成旨被申
渡候二付、承知仕居有候処、月・日夜、訴訟人伊惣
次・様・取候義、私共車・メ之義ヲ遺恨致候儀

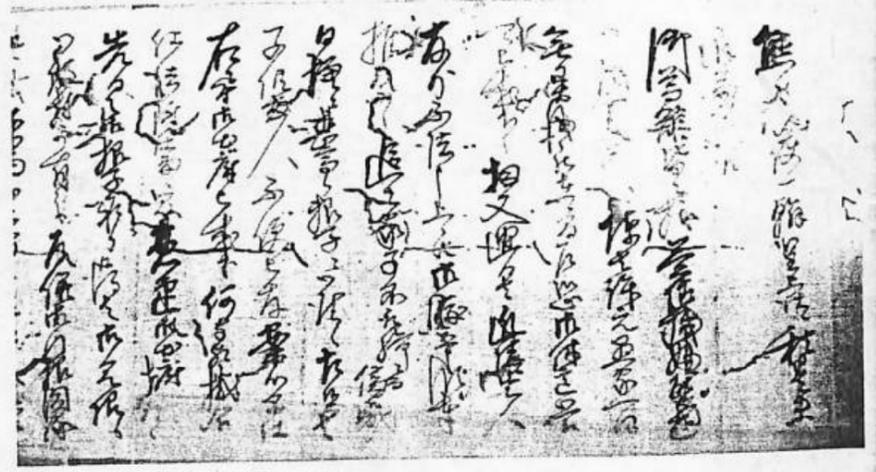


評定所の呼出状

文書：22-103-1
写真：053039

如斯目安・差上候間、其地にて埒明事二候わば可
相済滞儀有之候わば致返答書来月二十一日評定所江
罷出可対決、於・不参は可為曲事もの也
子六月十一日

信濃(印)
駿河(印)
甲斐(印)



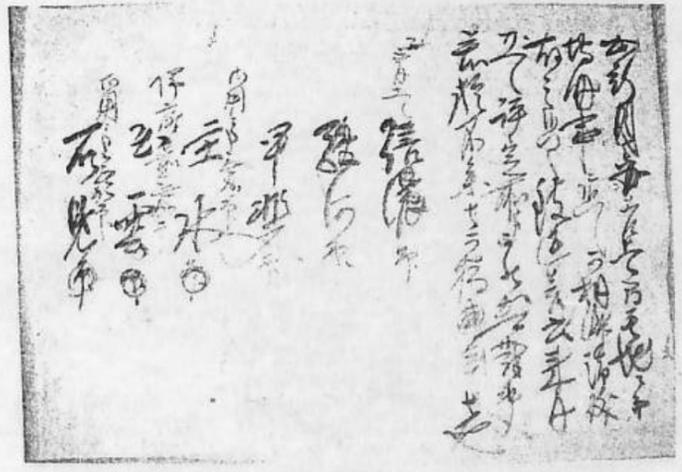
村役人を貸金出入で訴える
(萬藏の件 その二)

文書：229
写真：0580

乍恐以書付御訴訟奉申上候

堀江町三丁目 元七地借
勝蔵野節住・二付
病臥人 萬藏煩二付
訴訟人 百姓 甚兵衛
貸金諸出入
村上三十郎知行所
上総国市原郡八幡村
年寄 嘉平次
相手 名主 由次郎
組頭 利七郎・・
藤七郎
百姓代 吉三郎

御用方無加印 主水(印)
帰府前無加印 出雲(印)
御用方無加印 石見(印)



御田入込を訴ふる

境場新田場所之覚

入附米三俵半入 市助作田四枚 地主 平十郎 八百植

入附米五俵入 松次郎作田八枚 地主徳右衛門分 千六百植

入附米五俵半入 嘉七作田六枚外二老枚田三人割地 主 多右衛門分

入附米式俵半入 五郎右衛門作田式枚外二老枚田三人割 人割

入附米式俵半入 五郎右衛門作田式枚外二老枚田三人割 人割

入附米五俵入 忠七作田五枚 千抱植

入附米三俵入 平右衛門作式枚 七百植

右之場所江村上様御田地入込二相成 地主平十郎名
主方江無沙汰貸地二相渡申候、不埒二付御地頭所様
江御訴申上候

申五月日

御田入込を訴ふる

文書: 41-55
写真: 0640

〔萬藏の件 その二〕

文久二戊年証文

同国夷隅郡上布施村
 名主 周太郎
 後見 半左衛門
 組頭 所左衛門
 百姓代 平五郎

右訴訟人：住宅二付、庄頭へ萬藏煩二付代召仕：奉申上候、去ル文久二戊年二月中前書名前之者にて申聞候者地頭所要用二付、戊年前納分可致様、村々江被申付候処、差当り調達行届兼候二付、同年物成金ヲ以返済可致候間、右收納金引当にて同年十一月限り書面之金子用達與候様、達而相頼み候共、相違も有之

文書: 22-108
写真: 053058

右訴訟人 周太郎 後見 半左衛門 組頭 所左衛門 百姓代 平五郎

右訴訟人 周太郎 後見 半左衛門 組頭 所左衛門 百姓代 平五郎

右訴訟人 周太郎 後見 半左衛門 組頭 所左衛門 百姓代 平五郎

無戸籍を届け、戸籍作成を申請する

文書: 20-16
写真: 050068

自訴書

愛知県額田郡秋山村
 川本善吉一女
 天津 當式拾八年

右多津儀幼少ノ時、実母病死し、実父ノ養育罷在候處、去ル慶應二寅年中生国より実父姉妹なく、東京府下神田区東松下町拾六番地親戚瀬戸おふん方へ右三人ニテ参り、お多つハ幼少ニ付おふん方へ預ケ実父ハお多つノ...

境場新田場所之覚

入附米三俵半入 市助作田四枚 地主 平十郎 八百植

入附米五俵入 松次郎作田八枚 地主徳右衛門分 千六百植

入附米五俵半入 嘉七作田六枚外二老枚田三人割地 主 多右衛門分

入附米式俵半入 五郎右衛門作田式枚外二老枚田三人割 人割

入附米式俵半入 五郎右衛門作田式枚外二老枚田三人割 人割

入附米五俵入 忠七作田五枚 千抱植

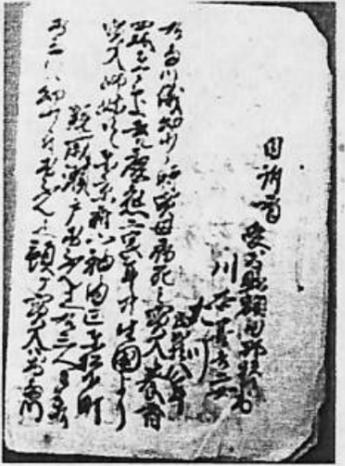
入附米三俵入 平右衛門作式枚 七百植

右之場所江村上様御田地入込二相成 地主平十郎名
主方江無沙汰貸地二相渡申候、不埒二付御地頭所様
江御訴申上候

申五月日

自訴書 川本善吉一女

右多津儀幼少ノ時、実母病死し、実父ノ養育罷在候處、去ル慶應二寅年中生国より実父姉妹なく、東京府下神田区東松下町拾六番地親戚瀬戸おふん方へ右三人ニテ参り、お多つハ幼少ニ付おふん方へ預ケ実父ハお多つノ...



文書：30-80-1
写真：059049

自訴状(原稿)
千葉県平民
上総国市原郡八幡村何地
山中四郎吉
何年何ヶ月
妻 多つ

文久元年何月生

右四郎吉謹テ奉自訴候、私儀明治二十一年何月何日某ノ媒酌ヲ以テ前書タツナル者ト結婚致し候、然ルニ妻タツハ東京府下神田区東柏下町拾六番地瀬戸婦人方附籍ノ趣ニ付、同人方へ送籍可致具旨及掛合候處、豈因ラン、タツ儀ハ瀬戸婦人方附籍

ノ者ニ無之、元愛知県下額田郡秋山村川本善吉二女ニシテ、去ル慶應二寅年中実父善吉ガ長女某ト右タツヲ携帶出京シ、前書瀬戸婦人方
へ同居シ、其后・策ナラズシテ実父善吉ハ長女ヲ連レ同家ヲ無断立去リシ候、行衛相知レザル趣、因テ無余儀右婦人ノ養育ヲ請ケ居リシモ、明治五年申年戸籍編製ノ際モ入籍ノ手續ヲ為サザル趣始メテ判明仕リ、驚入、直チニ原籍愛知県下額田郡秋山村ニ照会仕候處、同県下額田郡中二枚山村ト称スル村名スラ無之趣ニテ、書状返付相成候次第ニテ、実父ノ生死モ知ル能ワズ、今更何レヲ尋ネ可キ処無之、全ク洩籍ニ係ル者ナル事ヲ発覚仕候、因テ是レヲ案スルニタツハ知ラス・・・スト雖モ、無籍ノ罪アリ、又四郎吉ハ無籍者タル者ヲ知ラズ嫁リシ罪タル者ト自認仕候、依之其罪ヲ自訴仕候ニ付、右タツヲ四郎吉妻ニ加籍相成候様、相当ノ御処分被成下度謹テ奉自首候也

右 山中四郎吉印
タツ 印



文書：30-84-b
写真：059058

公証消失のため、残債ないことの
確認を求める

文書：30-84-a
写真：059056
~57

前書之通明治八年七月四日下総国千葉郡北生実村大堀又七方ヨリ借用シ同九年四月二十八日元利返金仕當時旧公証為消失願可仕候、猶以テ其手續ヲ為サズ、依然本日迄存シ有之候儀ハ甚夕恐入候得共、何卒特別以仁恤ヲ、右公証御取消被下度此段奉願候也
明治式拾貳年三月十五日

下総国千葉郡北生実村
金子借用人・・・印
千葉治安裁判所御中
誤テ

第貳百三拾三号 明治八年七月十四日

- 戸長三枚八十郎取扱
- 一 下総国千葉郡濱野村之内第三百番字高縄
- 古新田老反式七壹步 但地価方年拾貳円三錢
- 一 第三百三十八番
- 古新畑拾七步 但 年百六十錢
- 一 第三百二十九番写口所
- 新畑田成六セ二十五步但 年式拾円四錢
- 一 第五百十番賑治作
- 下田成九步 但 年拾五錢

- 一 第五百一番写口所
- 下田老畝式十九步 但 九十八錢
- 一 第五百十式番字同所
- 下田老畝式十八步 但 九十六錢

- 一 第四百四十式番字同所
- 下田式七十六步 地換金百二十六錢
- 一 第五百九十八番
- 下田三セ七步 同 百六十一錢

合反別
此書入借用金八拾円也
但明治八年七月四日ヨリ九年四月五日迄
書入老ヶ月金式拾円二付二十五錢利足

金子借用手 鹿野三左衛門
北生実村
大堀又七



文書：3-73-1
写真：4875

期日呼出状及答弁書催告状

原告 中村善左衛門

被告 宮吉長五郎外四十四人

大正十一年十二月十八日

千葉地方裁判所

被告 寺島久次郎殿



御触書

文書：24-424
写真：054008
~6

御触書左之通

大納言様御誕生為祝詞・朝鮮国対州江差渡候駛使
之・船七月十九日彼国出帆之処、風波強して漂流
之趣、宗対馬守の申聞、且右船石見出雲隠岐伯耆
佐渡杯二万一為漂着哉之趣申聞候二付、右国々領
地有之万石以上之面々ハ先達而相生江海上風波ニ
付漂着之趣二候得は漂着之所難斗二付、海辺二領
分有之面々は、若右鉢之船漂着候わば、不及・・・
送遣可申候、尤海路領分切段ニ請取之相送候郷可
被心得候、尤其段當地江も早々可有・を・朝鮮之
船にて長崎表江相送候儀不相成場所江其段早々可
被申聞候・万石以下之面々ニ知行候わば向置万石
以上之面々江引渡候・可被致候、尤万石以上之面々
ニ請取之前書之趣ヲ以可被取斗候

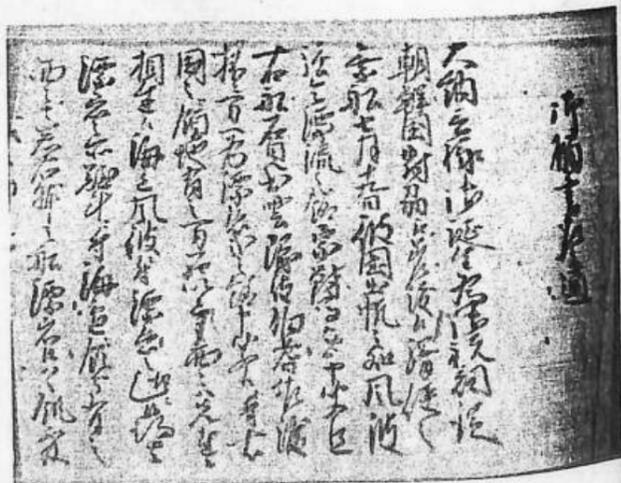
右漂流之船万一佐州江漂着候わば牧野新次郎江引
渡出雲傍江・北海は・・渡海不相成候二付出
雲崎の・路木曾路通大坂江送遣在・長崎表江船に
て送遣長崎奉行の対州江・相達引渡遣候積り候、
依之出雲崎の大坂迄之道筋二領分有之

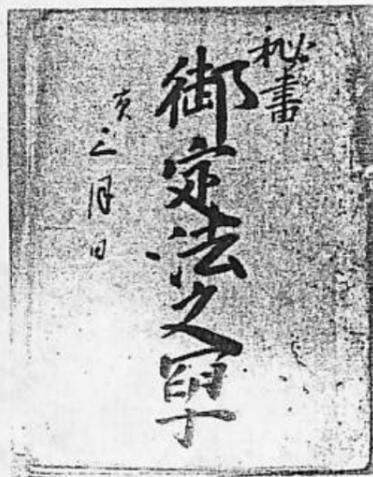
半分宛持合送遣候様致、旅館之儀は寺院見張差置、
若寺院無之場所にては本陣二宿為致可申候、為取

斗御代官差添可被遣候間、承合可致候、道中船中
公儀御附にて右送候、為警固武器相・二差出可申
候、若難差遣病人有之は所之寺院又は本陣亦二看
病人馬人も相添、置其段可相届候、病死之者亦有
之は朝鮮人之存念相尋其辺之寺院二葬ル共又は対
州且長崎迄差出シ度旨申候わば、但其旨可取斗候、
若・・・ホ難相用鉢二成其段申候わば取繕・シ
其外届候品有之候とも右品無之候而差支二不相成
儀にて不及人員着・可差置候右所組之内、対馬守
家来茂有之由にて諸事可承合候手本二無之・手・
り差支無之様可取斗候、大坂の長崎迄二海路も
右・之段々領分切二送遣候様、可心得候、何国候
共船にて直二長崎表江難送遣場所には右出雲崎の
長崎迄送遣候形同様ニ可心得候、尤右鉢之場所ニ
漂着候わば早速當地可申越・其上にて委細可相達
候

右之通可取相触候

九月





渡辺治兵衛書
数百拾壹枚有之

天明式寅歲三月大吉日



此本人へ案内なしに手を付申間敷候

秘書

此主 エチゴヤ

一関八州より申出候公事御料私領は御勘定奉行神判之外茂御料分ハ同断、町奉行支配之分ハ町奉行神判、但し八州之内にて茂寺社領分右同断(以下写真なし)

秘書 御定法之寫

寅 三月 日

文書: 24-80
写真: 055109
~11

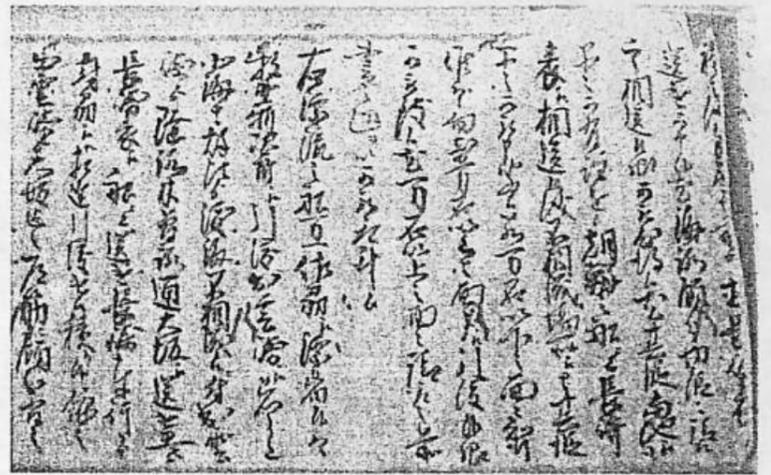


御触書之寫

西六月三十日

金久二

文書: 31-7-7
写真: 060049



書式手本

何国何郡

高何程

内何程

巳年 此物成

米何程

何ヶ村
御物成書入

其年々水損う風損う又は作物不順ニ付御用捨米被下候
分不残取調書出可申候

午年 此物成

米何程

右同断

未年 此物成

米何程

右同断



御触 写 (一部)

文書: 22-47-1
写真: 052076

有之二もの・ハ早速可申出事

但シ右牀之義申出候わば後日証をなされ届候

一通・・・其分ニいたし置趣にて無聞候、以

来其着・人罷出・仇チなさざるようニ取斗

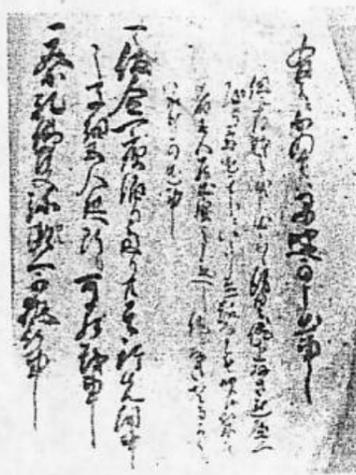
可遣事

一飯令、一夜泊りたり共其行先用中之子細五人組

へ預り可為越事

一祭礼佛麦弥軽可執行事

(前後写真なし)



越後信濃両国村触 写

文書: 7-10
写真: 042013

越後信濃両国村触写

越後信濃両国ハ宿の内百姓共産業無之故前々江
戸井二近在へも奉公稼キ之者で切手村役人之印形
手付ホ持参いたし相届ケ者も有之候得共病氣ホ之
節六ヶ敷衰ニ有之にて茂心得、今迄は差置場所も
有之由以来・病氣ホいたし・・・

(以下写真なし)



御触 写 (一部)

文書: 22-99-4
写真: 053030

申渡一札之事

一農業諸作物荒候風聞有之、高當時実法稲田こか

し盗取候もの所々ニ有之哉之故百姓代中も今般

申出(相聞え) 其の俣難捨置、今般村役人一同

申合取締方左之通相極候・相守銘々相互ニ精々

可致事

一農業仕事之儀は朝六ツ半時暮六ツ時限り仕舞

引取可申候故則・仕事いたし候もの見答可申

事

一耕地に番ホ附置候ニ付相心得可申候

附けたり番銭之儀は銘々ニ割合・改可致事

(以下欠落)



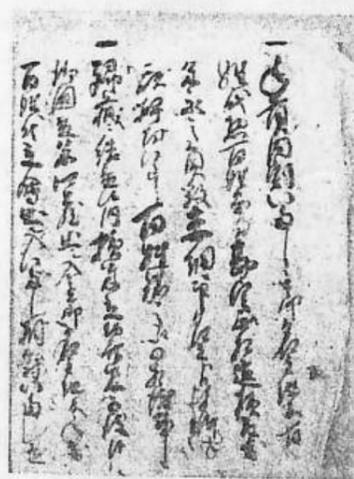
御触 写 (一部)

文書: 22-43
写真: 052072

文書: 22-117-1
写真: 053099

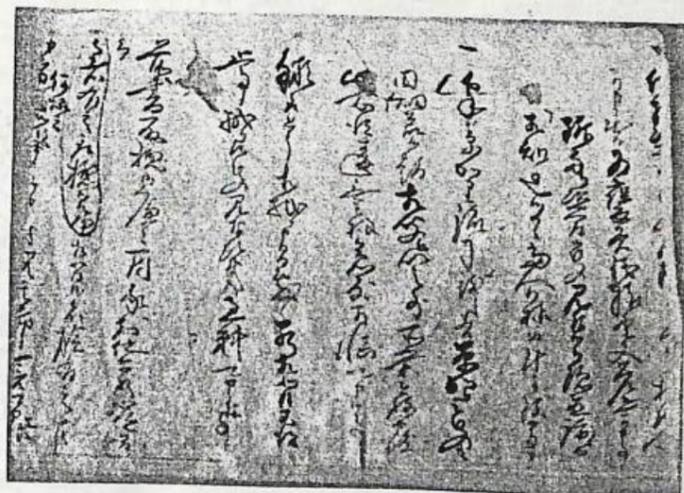
一年貢田割いたし候節、名主組頭百姓代惣百姓寄
合勘定無相違様反歩米永之貢数委細二印、名主
江皆濟年・・・いたし百姓銘々に可相渡事
一郷藏ニ結置候内損米立・弁官可致候、御囲置米
四蔵出シ入之節、名主他・年寄百姓代立会出シ
入いたし相對いたし置・・・

(以下写真なし)



文書: 22-47-2
写真: 052072

可申出候、為褒美錢拾貫文差出・可申事
 附たり盜取候もの見付候わば隠置く跡にて相知
 廻る候わば當人同様取斗可致候事
 一 近年草加里流行致し右草加・共田畑荒候趣相
 聞に以之外所業と放申渡・心得違無之様急度
 相慎可申候事
 一 取上・相掛ケ申間敷候、相背不得止事掛り候
 もの見付次第過料可申付事
 前書取極廉々一同承知仕候、若心得違右有之
 取極廉相背候者・有之は何様之
 (前後欠落)



文書: 24-38
写真: 054072

御鷹野御用ニ付、在郷江御鷹道罷成候節、御用之
 人夫差出シ候外は、諸人用面々自分拂致候筈ノ飯
 料油薪亦は、不及言當分之・事共迄も少し地
 儀致間敷・式諸道・以外に至まで若人用仕候も
 半・用意致候儀茂・致間敷候、且又商物之玉
 亦は貴式に不相義売被・可申候・何事茂常に
 ・取津くろい・義を致候、後日に相知・名主組
 頭曲事・諸拂無滞相濟候て委書立名主組頭宿主
 手形差出可申候事
 右之通り急度相守候様ニ武蔵相・上総下総上野下
 地常陸此七ヶ国在々所々・可申付候御用儀と存此
 上若何にても地・義用意致・候わば御代官地
 頭迄越三越度而通
 戊七月

一 御拳場并御留場鳥殺生御制禁之儀依致中他候鳥
 無之御用ニ難立ニ付、今年ハ子ノ年迄三ヶ年之
 内左之通御仰出候事
 (以下欠落)



八幡宿組合規則

八幡宿組合規則
 組合組織

- 第一条 組合ハ大正四十四年三月内村ヨリ以テ一組ニ
 ナス、假令増減生ズルモ四十戸以下二
 十戸以上ナレハ其組合ヲ変換セザルモ
 トス
 但四十戸ニ上レハ二タ組ニ分十九戸ニ下
 レハ隣組合併スルモノトス且一戸ハ都テ
 一籠ヲ以テ弄フ
 第二条 一組ニ組長一名五戸ニ伍長志名置ク五戸
 ニ満タサルモノハ組長ノ意見ヲ以テ之レ
 フ定ム
 但伍長ハ組長ノ事務ヲ補ヒ不在ノ節ハ代
 理スベキモノトス且組合ハ前条ノ如ク定
 ムルト雖地位ノ隔絶シタル箇所ハ其一域
 フ以一組トナス

宿内基礎帳写

文書: 19-31
写真: 046050



宿内基礎帳写